

kamigatani kamaato sannamiiseki
神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡

2000年

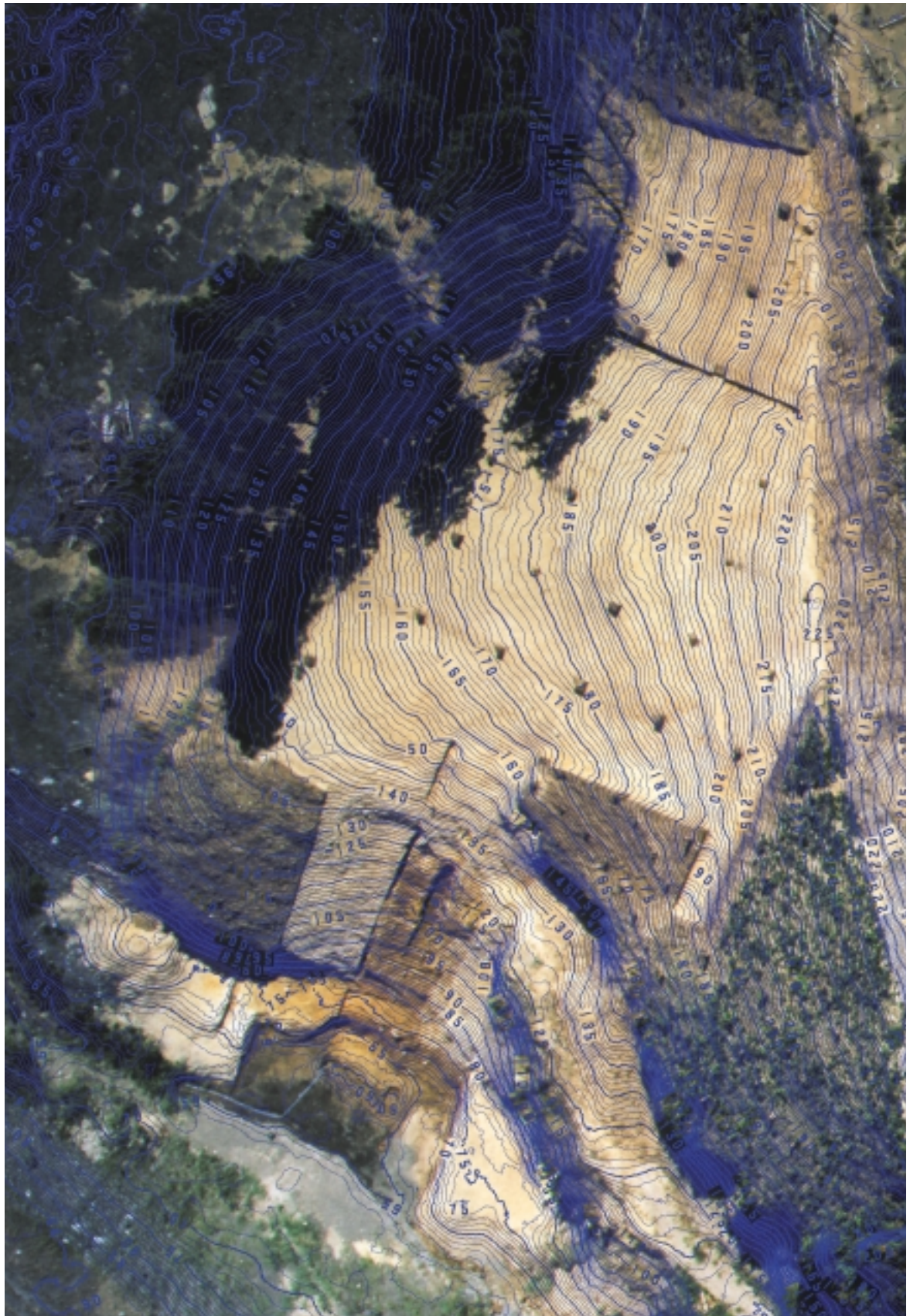
高知県教育委員会
高知県文化財団埋蔵文化財センター



神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡空中写真



神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡空中写真



神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡オルソコンター図



神ヶ谷窯跡掘削状況



神ヶ谷窯跡遺物出土状況



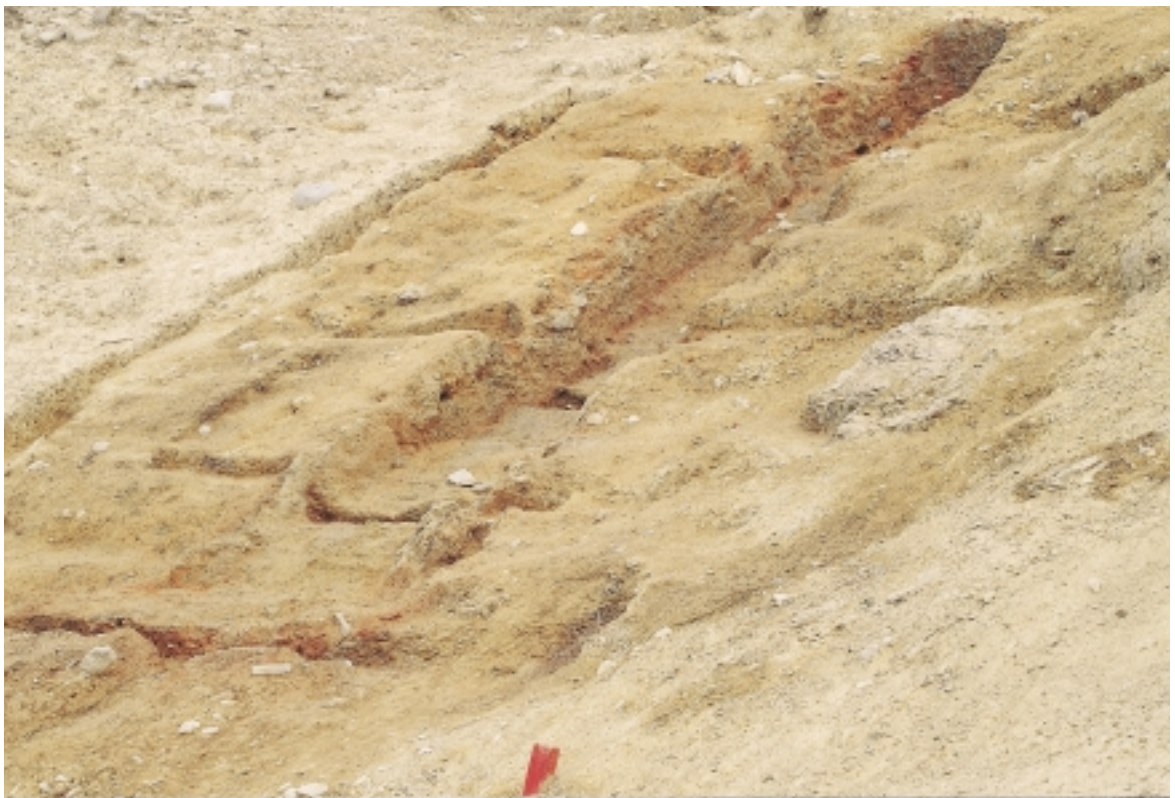
神ヶ谷窯跡遺物出土状況



神ヶ谷窯跡遺物出土状況



神ヶ谷窯跡完掘状況



神ヶ谷窯跡完掘状況



神ヶ谷窯跡完掘状況



神ヶ谷窯跡断ち割り状況



神ヶ谷窯跡断ち割り状況



神ヶ谷窯跡断ち割り状況

序

四国の約40%を占める高知県は、南四国と呼ばれ独自の文化圏を誇る地域です。特に県西南部の幡多地域は宿毛貝塚や竜ヶ迫遺跡、ナシヶ森遺跡に代表されるように、古くから遺跡分布の多い地域として知られてきたところでもあります。中でも四万十川の支流である中筋川流域では、河川改修・道路建設等近年の公共事業の進捗により、これまで数々の遺跡が明るみにされてきました。

今回、報告いたします神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡も高規格道路中村宿毛道路建設に伴う発掘調査で得た資料です。奈良時代の窯跡であり、県下では調査例の少ない生産遺跡として当時の手工業生産の一端を知るうえで重要な遺跡です。この報告書が埋蔵文化財の保護及び考古学研究の一助になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして建設省四国地方建設局中村工事事務所の埋蔵文化財に対する深い御理解と御協力を賜ったことに心から謝意を表するとともに、調査報告書作成では関係各位の皆様に多大な御指導並びに御教示を頂いたことに厚く御礼申し上げます。

平成12年11月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所長 門田 伍朗

例 言

1 本書は、高規格道路中村宿毛道路建設に伴う神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡の発掘調査報告書である。

2 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡は高知県宿毛市平田に所在する。

3 調査は、建設省四国地方建設局・高知県教育委員会の委託を受け、高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。

4 調査期間

試掘調査・本調査 平成10年4月20日～平成10年8月14日

5 調査面積

試掘調査 300 本調査 800

6 調査体制

調査担当

松田直則（高知県文化財団埋蔵文化財センター 第五係長）の指導のもと以下の体制で調査を担当した。

試掘調査・本調査

久家 隆芳（高知県文化財団埋蔵文化財センター調査員）

岡村 朋美（同上 技術補助員）

野町 和人（同上 測量補助員）

また、調査に際して矢木伸欣（宿毛市教育委員会）の協力を得た。

総務担当

津野 洲夫（高知県文化財団埋蔵文化財センター次長兼総務課長）

大原 裕幸（同上 主幹）

山崎 詠子（同上 臨時職員）

7 本書の執筆・写真撮影・編集等は久家が行った。

8 現地調査及び本報告書を作成するにあたり、須恵器胎土分析について三時辻利一氏（奈良教育大学）窯跡の磁気探査については西村康氏（奈良国立文化財研究所）のお手を煩わせ、玉稿を頂いた。また、佐藤竜馬氏（香川県埋蔵文化財調査センター）藤原 学氏（吹田市立博物館）森内秀造氏（兵庫県教育委員会）松田直則氏・廣田佳久氏・出原恵三氏・池澤俊幸氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター）をはじめ高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸学兄に御指導・御教示を賜った。記して感謝する次第である。

9 発掘現場作業員

猛暑を厭わず作業に従事して下さった皆様に対し、記して感謝の意を表したい。

岡崎 真紀、岡本 定美、岡本寿美子、岡本 寅美、岡本 弘美、岡本 芳子、沖 和子、長崎 竹美、中山 昭子、布 陽子、野並 盧、浜田 昌一、平地 五月、松本 菊美

整理作業員

宮地 佐枝、橋田 美紀、飯田 縁、岡本 智子、黒岩 佳子、澤本 友子、益井 和子

- 10 出土遺物については「98-2SK」と注記し、関連図面・写真等とともに高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

巻頭カラー

序

例言

目次

挿図目次

第 章	調査に至る経過	1
	1 窯跡発見の経過	1
	2 調査に至る経過	2
第 章	遺跡周辺の地理的・歴史的環境	4
	1 地理的環境	4
	2 歴史的環境	4
第 章	試掘調査	8
第 章	本調査	9
	1 調査の方法	9
	2 神ヶ谷窯跡	15
	3 サンナミ遺跡	33
第 章	まとめ	41
	1 神ヶ谷窯跡出土須恵器について	41
	2 サンナミ遺跡出土土器について	48
付 編		
	1 神ヶ谷窯跡および船戸遺跡出土須恵器の蛍光X線分析	
	2 神ヶ谷窯跡の磁気探査結果	

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

Fig. 1 宿毛市位置図	1	Fig.25 灰原出土遺物実測図 8	28
Fig. 2 西村氏表採遺物実測図	2	Fig.26 灰原出土遺物実測図 9	29
・確認調査出土遺物実測図	3	Fig.27 攪乱層出土遺物実測図	29
Fig. 3 確認調査出土遺物実測図		Fig.28 サンナミ遺跡遺物出土量分布図	30
Fig. 4 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡 周辺の遺跡	5 ~ 6	Fig.29 サンナミ遺跡セクション図	31 ~ 32
Fig. 5 試掘調査区位置図	8	Fig.30 SK1平面図・セクション図・ 出土遺物実測図	33
Fig. 6 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡 周辺地形図	9	Fig.31 遺物出土状況平面図	34
Fig. 7 検出遺構全体図	10	Fig.32 包含層出土遺物実測図 1	34
Fig. 8 Dラインセクション図	11	Fig.33 包含層出土遺物実測図 2	35
Fig. 9 神ヶ谷窯跡平面図	12	Fig.34 包含層出土遺物実測図 3	36
Fig.10 窯跡セクション図	13 ~ 14	Fig.35 包含層出土遺物実測図 4	37
Fig.11 断ち割りセクション図	15	Fig.36 包含層出土遺物実測図 5	38
Fig.12 窯体内遺物出土状況図	16	Fig.37 包含層出土遺物実測図 6	39
Fig.13 灰原平面図	17	Fig.38 須恵器蓋形態分類図	41
Fig.14 灰原セクション図	17	Fig.39 須恵器杯形態分類図	41
Fig.15 A ~ C トレンチ (灰原) 出土遺物実測図 1	18	Fig.40 須恵器皿形態分類図	41
Fig.16 窯体内出土遺物実測図 1	19	Fig.41 須恵器壺形態分類図	42
Fig.17 窯体内出土遺物実測図 2	20	Fig.42 須恵器鉢形態分類図	42
Fig.18 窯体内出土遺物実測図 3	21	Fig.43 須恵器高杯形態分類図	42
Fig.19 灰原出土遺物実測図 2	22	Fig.44 鹿々場窯跡実測図	45
Fig.20 灰原出土遺物実測図 3	23	Fig.45 鹿々場窯跡出土遺物実測図	45
Fig.21 灰原出土遺物実測図 4	24	Fig.46 鹿々場窯跡表採遺物実測図	46
Fig.22 灰原出土遺物実測図 5	25	Fig.47 サンナミ遺跡包含層 出土遺物実測図 7	49
Fig.23 灰原出土遺物実測図 6	26		
Fig.24 灰原出土遺物実測図 7	27		

表 目 次

Tab. 1	器種組成比率	Tab.20	遺物觀察表13
Tab. 2	蓋 類手法別比率	Tab.21	遺物觀察表14
Tab. 3	蓋・杯B法量分布図	Tab.22	遺物觀察表15
Tab. 4	杯A法量分布図	Tab.23	遺物觀察表16
Tab. 5	皿法量分布図	Tab.24	遺物觀察表17
Tab. 6	杯A手法別比率	Tab.25	遺物觀察表18
Tab. 7	皿手法別比率	Tab.26	遺物觀察表19
Tab. 8	遺物觀察表 1	Tab.27	遺物觀察表20
Tab. 9	遺物觀察表 2	Tab.28	遺物觀察表21
Tab.10	遺物觀察表 3	Tab.29	遺物觀察表22
Tab.11	遺物觀察表 4	Tab.30	遺物觀察表23
Tab.12	遺物觀察表 5	Tab.31	遺物觀察表24
Tab.13	遺物觀察表 6	Tab.32	遺物觀察表25
Tab.14	遺物觀察表 7	Tab.33	遺物觀察表26
Tab.15	遺物觀察表 8	Tab.34	遺物觀察表27
Tab.16	遺物觀察表 9	Tab.35	遺物觀察表28
Tab.17	遺物觀察表10	Tab.36	遺物觀察表29
Tab.18	遺物觀察表11	Tab.37	遺物觀察表30
Tab.19	遺物觀察表12	Tab.38	遺物觀察表31

写 真 目 次

- カラー図版 1 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡空中写真
- カラー図版 2 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡空中写真
- カラー図版 3 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡オルソコンター図
- カラー図版 4 神ヶ谷窯跡掘削状況・神ヶ谷窯跡遺物出土状況
- カラー図版 5 神ヶ谷窯跡遺物出土状況・神ヶ谷窯跡遺物出土状況
- カラー図版 6 神ヶ谷窯跡完掘状況・神ヶ谷窯跡完掘状況
- カラー図版 7 神ヶ谷窯跡完掘状況・神ヶ谷窯跡断ち割り状況
- カラー図版 8 神ヶ谷窯跡断ち割り状況・神ヶ谷窯跡断ち割り状況
- PL. 1 神ヶ谷窯跡灰原遺物出土状況・神ヶ谷窯跡灰原セクション
- PL. 2 神ヶ谷窯跡Dラインセクション・サンナミ遺跡9ラインセクション
- PL. 3 サンナミ遺跡11ラインセクション・サンナミ遺跡S K1完掘状況
- PL. 4 試掘調査・サンナミ遺跡遺物出土状況
- PL. 5 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL. 6 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL. 7 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL. 8 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL. 9 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL.10 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL.11 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL.12 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL.13 神ヶ谷窯跡出土遺物
- PL.14 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡出土遺物
- PL.15 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡出土遺物
- PL.16 サンナミ遺跡出土遺物
- PL.17 サンナミ遺跡出土遺物
- PL.18 杯B外底面(爪形状圧痕)
- PL.19 杯B外底面(爪形状圧痕)
- PL.20 杯B外底面(爪形状圧痕)
- PL.21 杯B外底面(爪形状圧痕)

第 章 調査に至る経過

1 . 窯跡発見の経過

中村宿毛道路建設中、宿毛市文化財愛護会会長である西村昇氏が須恵器片を表採したことに須恵器窯の新発見は始まる。西村さんの発見メモによると、平成9年10月30日中村宿毛道路建設現場で須恵器片を採取する。(Fig.2)その後、何度か足を運び遺物採取を行う一方で、採取遺物の洗浄、地元である宿毛市教育委員会および高知県教育委員会への報告をおこなう。それを受け、平成9年11月27日より現地確認が行われ、多くの須恵器片、斜面に赤色を呈した酸化面を確認するに至り窯跡が存在することが明らかとなった。(Fig.3)平成9年12月1日、宿毛市教育委員会から遺物発見届けが高知県教育委員会に提出された。その後、建設省四国建設局中村工事事務所と協議をおこなうことになった。

図示した西村氏表採資料、11月27日の確認調査で得られた資料は建設工事により削平された土砂から出土した可能性が高く、焚口付近および灰原先端付近に埋没していたものと考えられる。

6は杯Bである。口縁部は底部からやや外上方に立ち上がる。底端部に高台を貼付する。口縁部内外面は回転ナデ調整、底部内面および外面はナデ調整を施す。底部外面に爪形状圧痕が認められる。7は杯Bである。口縁部は底部からやや外上方に立ち上がる。底端部に断面形台形の高台を貼付する。底部外面はヘラナデ調整を施す。底部外面に爪形状圧痕が認められる。焼成不良である。11は皿である。平坦な底部から口縁部が外上方に立ち上がり、端部は丸くおさめる。口縁部内外面は回転ナデ調整、底部内外面はナデ調整を施す。比較的丁寧なつくりである印象を受ける。16は蓋である。口縁部は緩やかな曲線を描きながらひろがり、端部は垂直につまみだす。天井部には擬宝珠様のつまみを付す。口縁部内外面には回転ナデ調整、天井部内面にはナデ調整を施す。

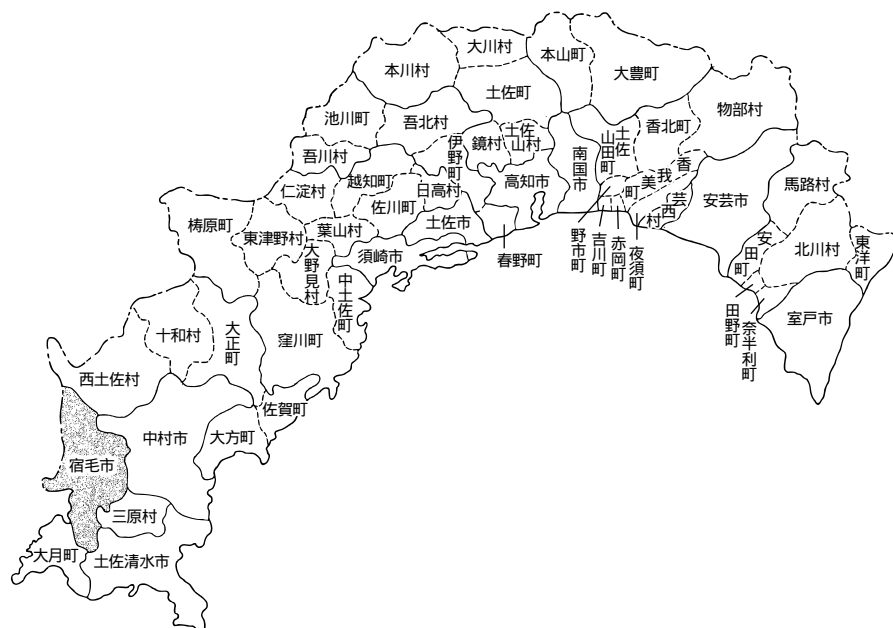


Fig. 1 宿毛市位置図

天井部外面はヘラケズリ調整を施す。焼け歪む。18は杯Bである。底部の縁辺部よりやや内側に断面形台形の高台を貼付する。口縁端部および底部両端部に打ち欠いた痕跡が認められる。底部外面に自然釉がかかる。30は杯Aである。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施すが、ヘラ切り痕跡が明瞭に残る。

2. 調査に至る経過

国道56号線は大平洋・宇和海・瀬戸内海沿岸の主要都市を經由し高知市と松山市を結ぶ主要幹線道路である。一般国道56号中村宿毛道路は高規格道路幹線道路であり、将来的には四国横断自動車道に接続する。中村宿毛道路建設予定地内の中筋川沿岸は具同中山遺跡群など遺跡密集地域である。高知県教育委員会は埋蔵文化財の取り扱いについて、建設省四国建設局中村工事事務所と協議をおこなってきた。神ヶ谷窯跡が存在する箇所については周知の遺跡ではなく、立地などから試掘調査の対象範囲からははずされており、建設工事に着手されていた。しかしながら須恵器の窯跡が存在することが確認され建設省四国建設局中村工事事務所と協議の結果、窯跡の記録保存を目的とした発掘調査および周辺の試掘調査を実施することで合意した。平成10年4月1日付けで委託契約を締結し、発掘調査は高知県教育委員会が受託し、高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。

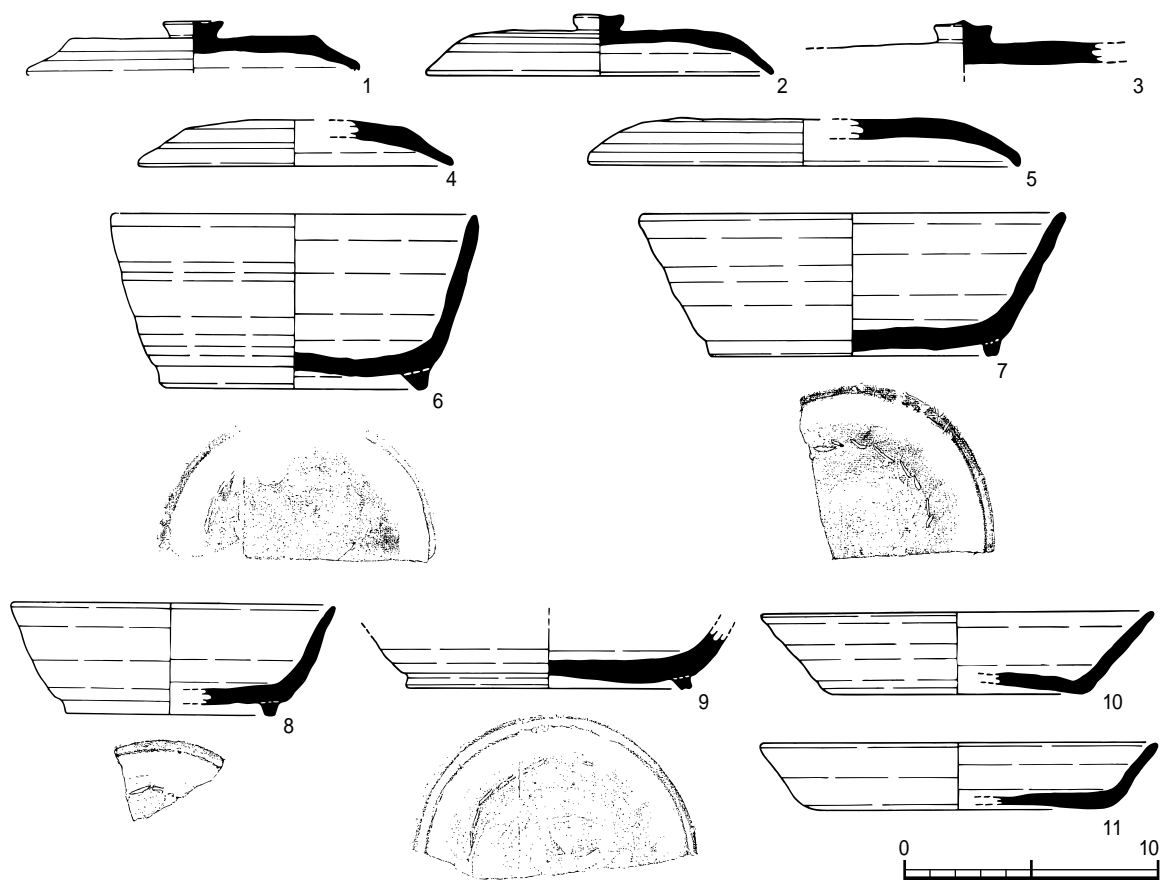


Fig. 2 西村氏表採遺物実測図・確認調査出土遺物実測図

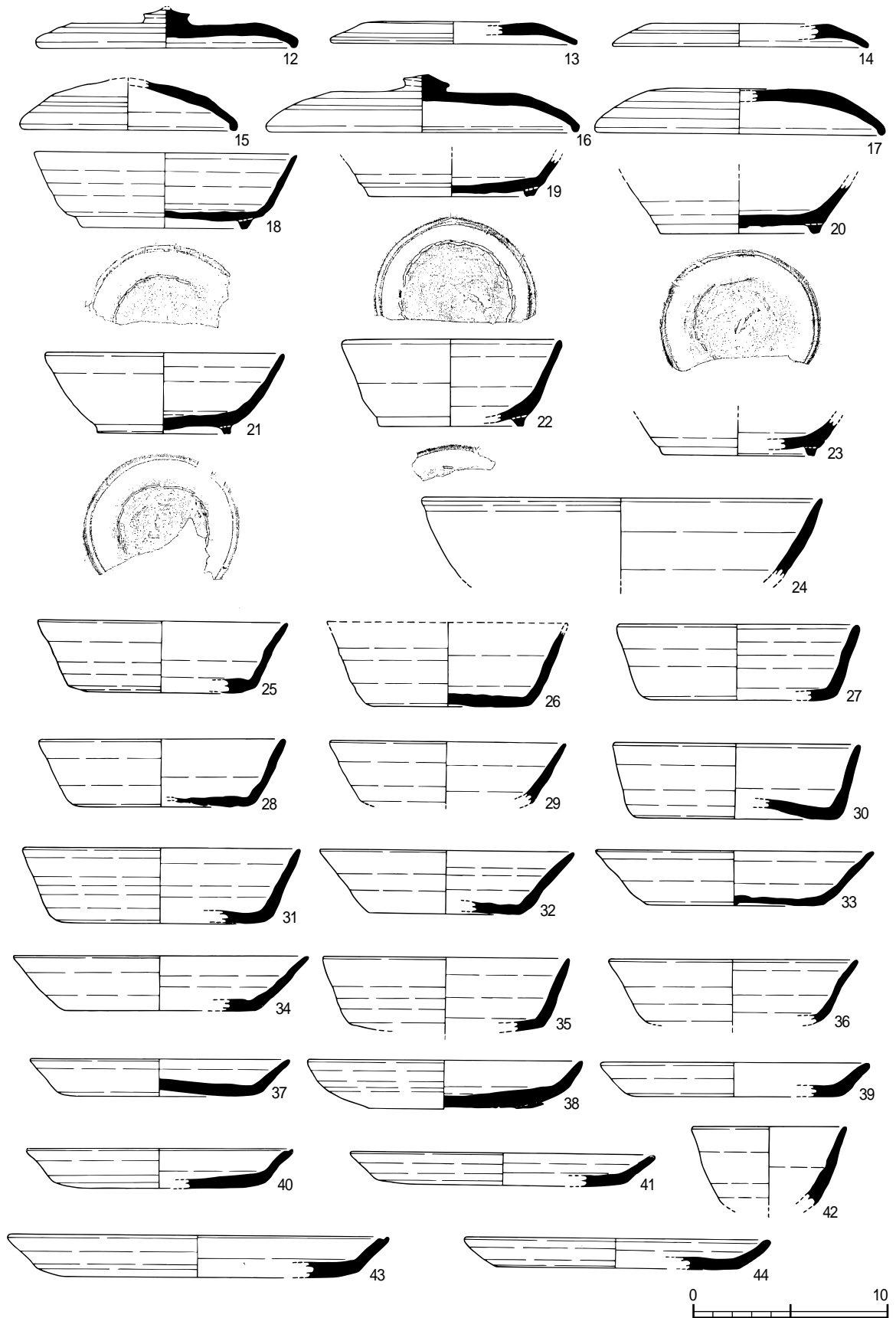


Fig. 3 確認調査出土遺物実測図

第 章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

1. 地理的環境 (Fig.1)

宿毛市は高知県の西部に位置する。総面積は285.55k²、人口約25,000人であり、中村市とともに幡多地域の中心的な役割を果たしている。

中筋川は宿毛市山田に発する山田川・横瀬川と、三原村に発する平田川が有岡で合流し、向きを東に変え四万十川に合流し太平洋に注ぐ。四万十川へは現在実崎で合流しているが以前は坂本であった。中流と下流の高低差がほとんどなく、河床は海拔0以下の部分もあり洪水の原因となってきた。その一方で明治末まで舟による運搬が行われており、物資の流通に一役買ってきた川である。

2. 歴史的環境 (Fig.4)

旧石器時代 楠山遺跡で石器制作跡が検出されている¹。

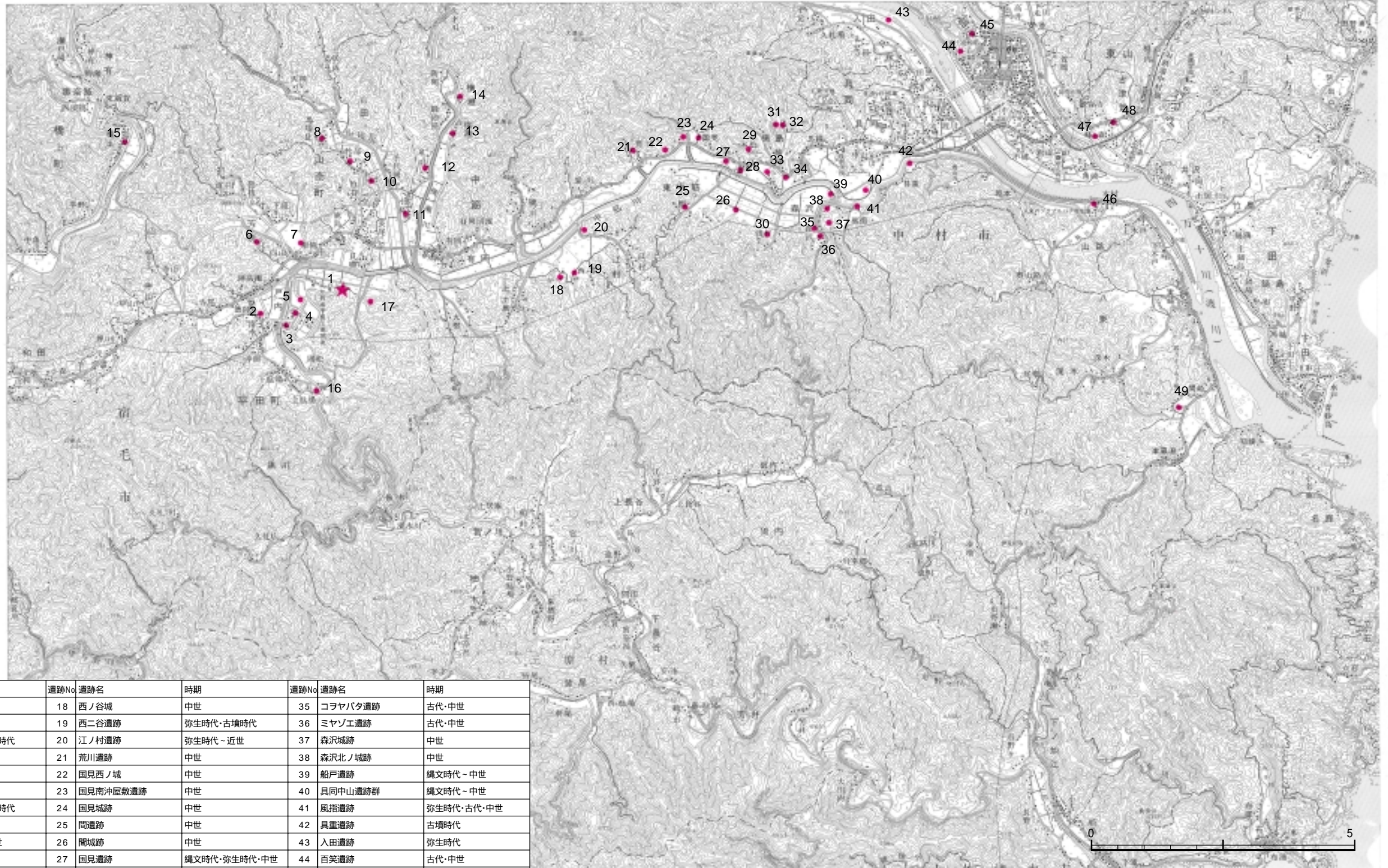
縄文時代 国史跡に指定されている宿毛貝塚がある。宿毛貝塚は中期～後期に形成された貝塚であり、磨消縄文・2本沈線で施された文様が特徴である²。

弥生時代 弥生時代の考古学的な調査は1952年の日本考古学協会による入田遺跡(43)の発掘調査に始まる。縄文晩期土器である入田B式土器と弥生時代前期土器である遠賀川系土器(入田式)との共伴が明らかとなった。入田式土器は縄文時代晩期土器と共伴することから四国最古の遠賀川系土器であると最近まで認識されてきた。橋上遺跡(15)から入田式土器が出土している。入田遺跡(中村市)では前期、具同中山遺跡群からは前期中葉～末、西ノ谷遺跡では前期末の土器群がそれぞれ出土している。また、国見遺跡(27)では前期中葉の竪穴住居跡1棟を検出し、出土土器は遠賀川系土器のみである。中期では橋上遺跡・二ノ宮遺跡・高知坐神社遺跡(3)がある。二ノ宮遺跡からは打製の石包丁が出土している。後期では芳奈遺跡(7)・芳奈向山遺跡(6)がある。1973年に発掘調査が実施され、芳奈式・式が設定された⁴。中筋川流域では銅矛が2本出土している。1本は石丸遺跡(現、具同中山遺跡群)から中広形式が出土しており、もう1本は伝山路遺跡(46)から中広形式が出土しているが、両方とも出土状況は不明である。

古墳時代 宿毛市平田に高岡古墳群(4・5)・平田曾我山古墳(2)の前期古墳が相次いで築かれる。高岡山1号墳・2号墳はともに長径18の楕円形を呈する。高岡山1号墳から筒形銅器・青銅製小棒が出土し、高岡山2号墳からは内行花文鏡が1面出土している⁵。続いて曾我山古墳が築造され、これらの前期古墳は中筋川流域における盟主墳であると位置づけられている⁶。その一方、中筋川流域の具同中山遺跡群(40)(中村市)では弥生時代後期末から古墳時代中期にかけての水辺の祭祀跡が多く検出されている⁷。

古代 『倭名類聚抄』によると宿毛市は幡多郡に該当する。幡多郡には大方郷・鯨野郷・山田郷・枚田郷・宇和郷の五郷が存在し、神ヶ谷窯跡(1)は枚田郷に所在する。この枚田郷には延喜式内社である高知坐神社が社を構える。

風指遺跡(中村市)から緑釉陶器がまとまって出土しており祭祀跡と考えられている。古代に



遺跡No	遺跡名	時期	遺跡No	遺跡名	時期	遺跡No	遺跡名	時期
1	神ヶ谷寮跡・サンナミ遺跡	弥生時代・古代	18	西ノ谷城	中世	35	コラヤバタ遺跡	古代・中世
2	平田曾我山古墳	古墳時代	19	西二谷遺跡	弥生時代・古墳時代	36	ミヤゾエ遺跡	古代・中世
3	高知巫神社遺跡	弥生時代・古墳時代	20	江ノ村遺跡	弥生時代・近世	37	森沢城跡	中世
4	高岡山2号墳	古墳時代	21	荒川遺跡	中世	38	森沢北ノ城跡	中世
5	高岡山1号墳	古墳時代	22	国見西ノ城	中世	39	船戸遺跡	縄文時代・中世
6	芳奈向山遺跡	弥生時代	23	国見南沖屋敷遺跡	中世	40	具同中山遺跡群	縄文時代・中世
7	芳奈遺跡	弥生時代・古墳時代	24	国見城跡	中世	41	風指遺跡	弥生時代・古代・中世
8	馬場住遺跡	古代・中世	25	間遺跡	中世	42	具重遺跡	古墳時代
9	竹部遺跡	弥生時代・中世	26	間城跡	中世	43	入田遺跡	弥生時代
10	下竹部遺跡	古代・中世	27	国見遺跡	縄文時代・弥生時代・中世	44	百笑遺跡	古代・中世
11	小島遺跡	縄文時代・古代	28	東中筋小学校校庭遺跡	古墳時代	45	古城山遺跡	弥生時代・古代
12	横瀬遺跡	縄文時代・中世	29	大才田遺跡	中世	46	山路遺跡	弥生時代
13	柿内遺跡	古代・中世	30	浅村遺跡	弥生時代・中世	47	古津賀遺跡	古墳時代・中世
14	観音院遺跡	古代	31	小才田城跡	中世	48	古津賀古墳	古墳時代
15	橋上遺跡	縄文時代	32	小才田遺跡	中世	49	ナカノ遺跡	古代・中世
16	黒川城跡	中世	33	楠嶋城跡	中世			
17	黒川新城	中世	34	楠嶋西城跡	中世			

Fig. 4 神ヶ谷寮跡・サンナミ遺跡周辺の遺跡

至っても具同中山遺跡群周辺は祭祀の場としての意味合いを色濃く残す。船戸遺跡からは8世紀～9世紀にかけての遺物がまとまって出土している。遺構では自然流路跡以外は検出されなかったが掘立柱建物群が存在していたと推定されている⁸。宮崎遺跡（大方町）から緑釉陶器・墨書土器・製塩土器が出土しており、官衙関連遺跡と推定されている⁹。

中・近 世 中筋川上中流域は下流域と密接な関係を持ち展開したと考えられる。下流域の代表的な遺跡である具同中山遺跡群は12～13世紀にかけて最盛期を迎える。貿易陶磁器・瓦器を含む多量の遺物および掘立柱建物群が検出されている。『金剛福寺文書』によれば1237年には九条氏の荘園として幡多庄が成立しており、その後1250年に九条氏から一条氏に譲渡されたことが記されている。また、1275年以前から古津賀木ノ津に「舟所識」の役職が置かれ、一条氏の専用の河津として機能していたようである。具同中山遺跡群は中筋川中・上流域に存在する集落との「結節点」に位置し発展したが、中世寺院である香山寺の存在も大きな影響があった¹⁰。

また、中筋川沿岸には山城が数多く築かれており河川流通を監視する機能を果たしていた。黒川城跡（16）も同様の機能を果たしていたと推定される。

【註】

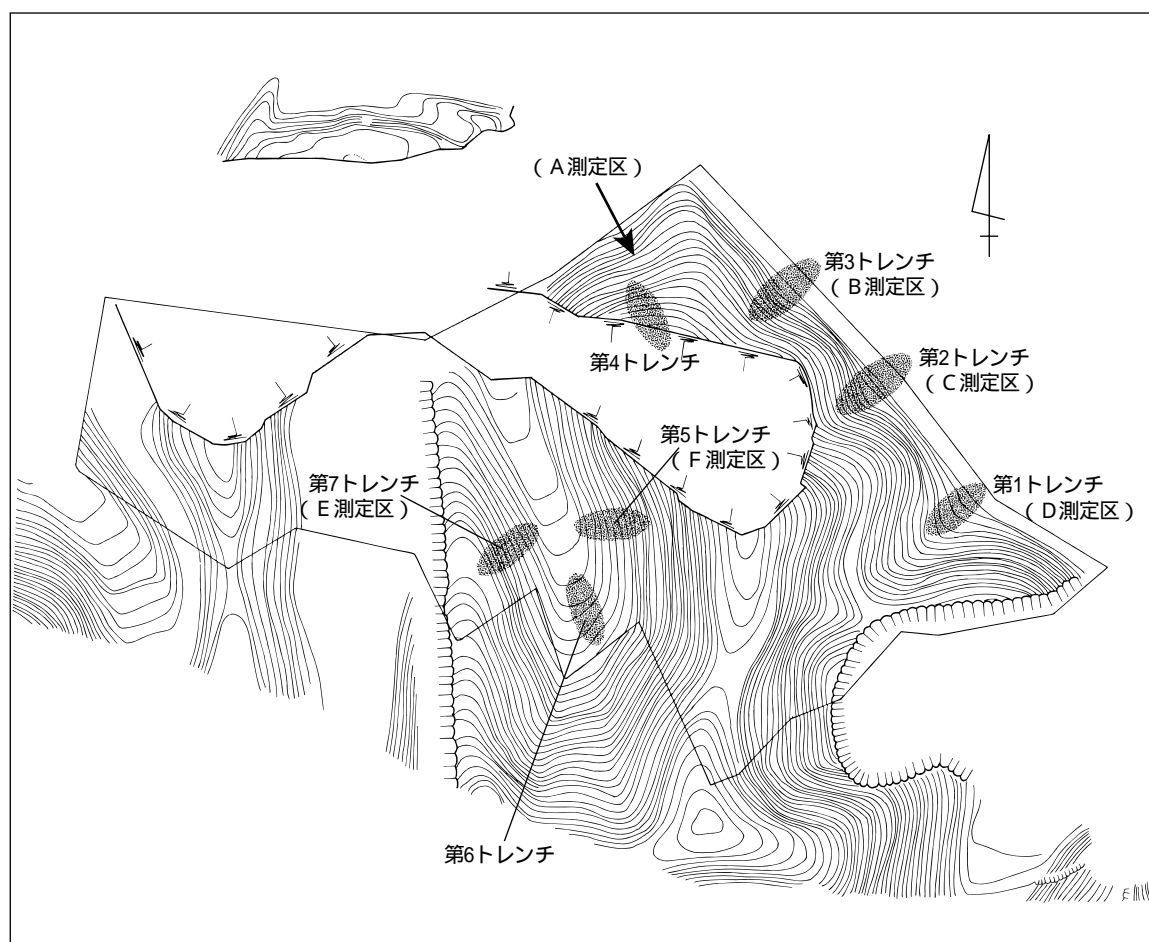
- 1 1995年『高知県埋蔵文化財センター年報5』高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 2 山本哲也・廣田佳久・下村公彦 1986年『宿毛貝塚発掘調査報告書』高知県教育委員会
- 3 岡本健児・木村剛朗 1974年『芳奈遺跡・芳奈向山遺跡』宿毛市教育委員会
- 4 山本哲也 1985年『四万十川流域の縄文文化研究』高知県教育委員会
- 5 山本哲也 1997年「四万十川流域における前期古墳の成立とその背景」『海南史学』第35号
- 6 出原恵三・松田直則・廣田佳久他 1988年『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書』高知県教育委員会・高知県埋蔵文化財センター
- 7 出原恵三・松田直則・曾我貴行・坂本憲昭・竹村三菜・武吉眞裕 1996年『船戸遺跡』高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 8 廣田佳久 1992年『竹シマツ遺跡 宮崎遺跡』高知県大方町教育委員会
- 9 松田直則 1996年「四万十川流域の中世河津」『中世都市研究3』新人物往来社
松田直則 1996年「四万十川流域の遺跡」『中近世土器の基礎研究』

参考文献

- 『宿毛市史』 1977年
木村剛朗 1987年『四万十川流域の縄文文化研究』幡多埋文研
木村剛朗 1995年『四国西南沿海部の先史文化』幡多埋文研

第 章 試掘調査

一般的に窯跡は群を形成して存在することが多く、神ヶ谷窯跡の周辺にも未知の窯跡の存在が予想される。そこで調査対象地に新たな窯跡を発見する目的で都合7箇所のトレンチを設定した (Fig.5)。しかしながら、中村宿毛道路建設中であったため、山裾部を中心に周辺地形が大幅に改変を受けていた。山裾部分は削平され、山裾に沿い仮設道が設置されているため、重機を利用し仮設道を除去し窯跡の有無を確認した。また、掘削に先立ち磁気探査を実施した (付編参照)。第1トレンチ～第7トレンチ部以外の山裾を精査し窯跡の検出に努めたが、新たな窯跡の検出にはいたらなかった。しかし、神ヶ谷窯跡の上方に設置した第4トレンチから多くの弥生土器が出土し、建設省との協議の結果、トレンチを拡張し本調査を実施することとなり、サンナミ遺跡として調査を実施した。



() 内は磁気探査測定区を表す。



Fig.5 試掘調査区位置図

第 章 本調査

1 . 調査の方法 (Fig.7)

測量用の基準点 (4級基準点) を設置し、窯跡の主軸を基準として1辺4 のグリッドを設定した。北西から南東方向は数字で、北東から南西方向はアルファベットで表し、北西杭をグリッド名とした。このグリッドを用いて遺物の取り上げを行ったが、灰原部分については一辺1 のグリッドに細分して遺物を取り上げた。

窯跡は窯体の主軸方向とそれに直交する方向にサブトレンチを設定し、断面を観察しながら調査を実施した。

灰原は、先ず範囲を確定するためA~Cトレンチを設定し人力で慎重に掘削した。

サンナミ遺跡については任意に土層観察用のセクションベルトを残しながら人力で表土および遺物包含層を掘削し慎重に遺物・遺構の検出に努めた。

神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡とも必要に応じ、写真撮影及び公共座標をもとに平面実測を行った。また、空中撮影によりデジタルモザイク写真・風景写真を撮影し、遺構平面図・オルソコンター図を作成した。

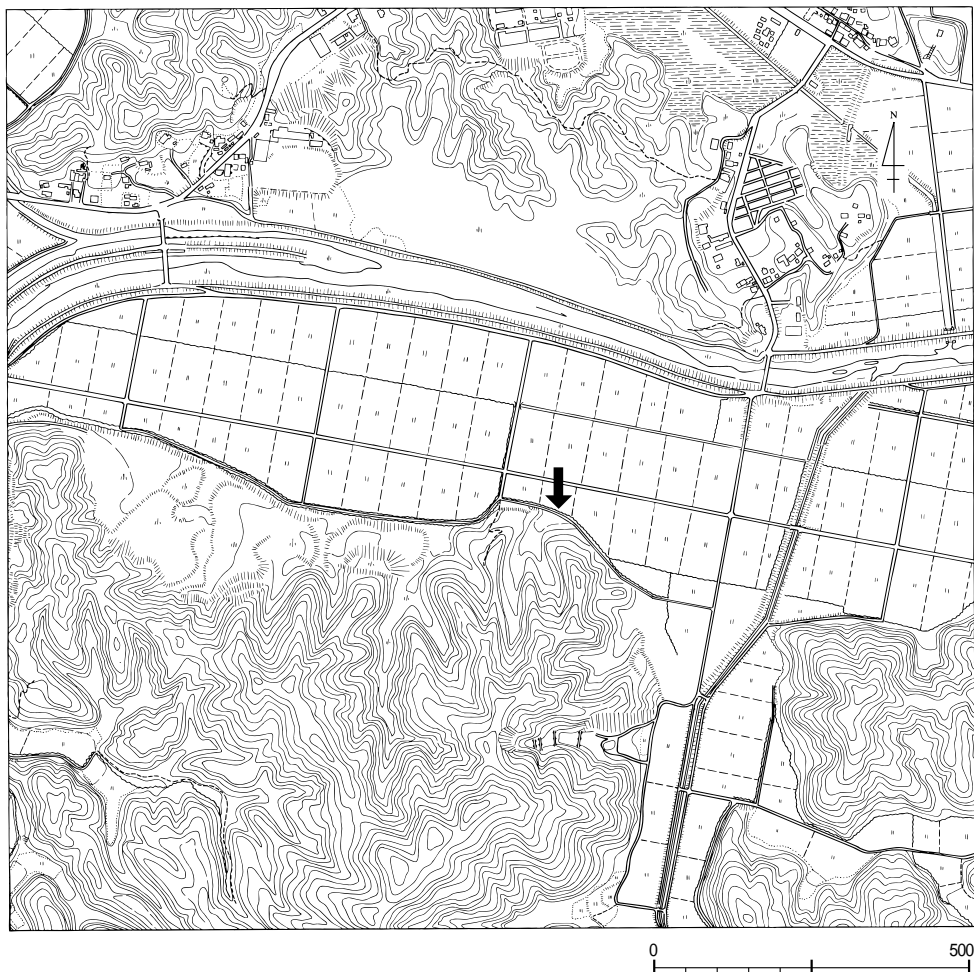


Fig. 6 神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡周辺地形図

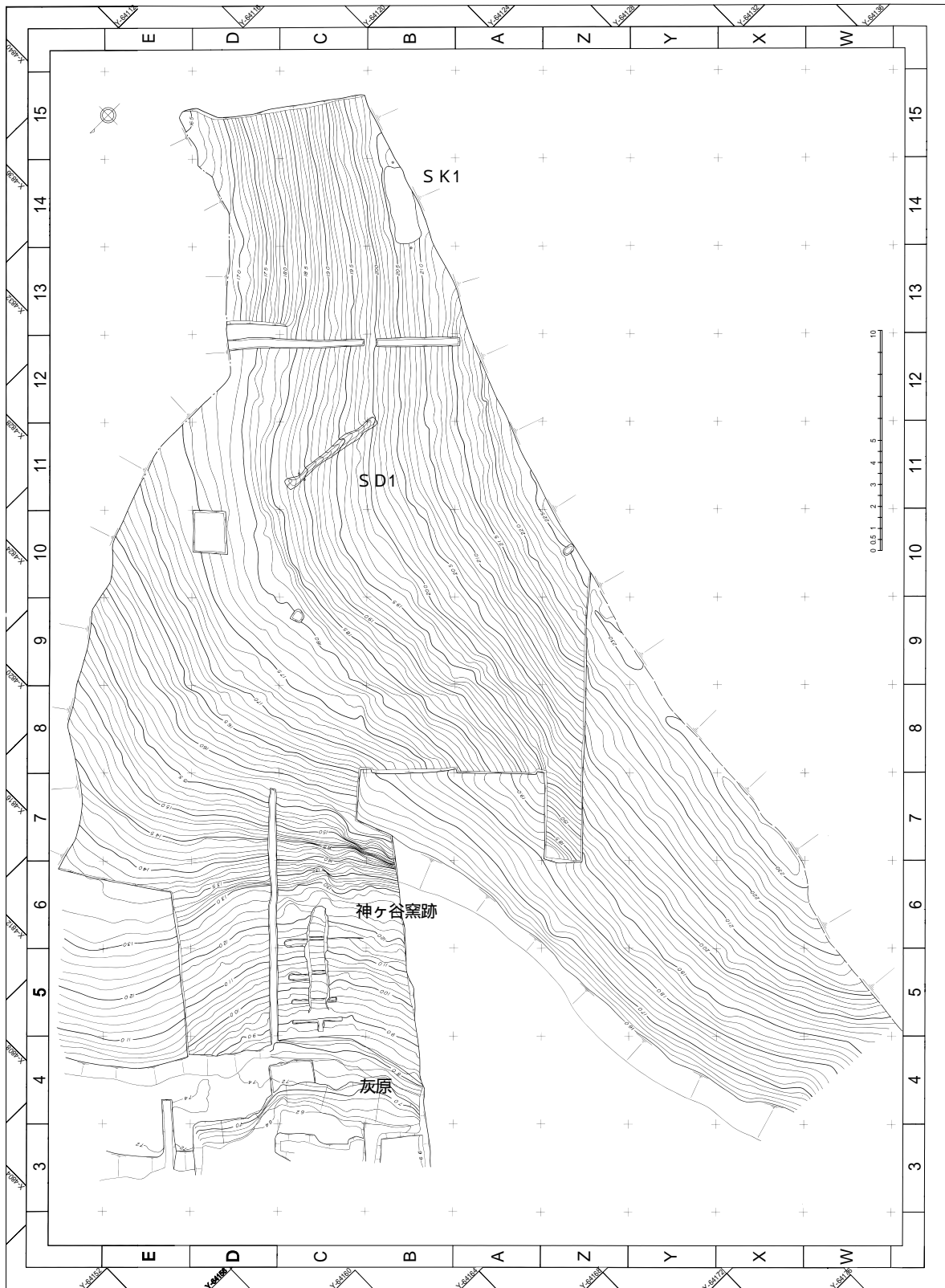


Fig. 7 検出遺構全体図

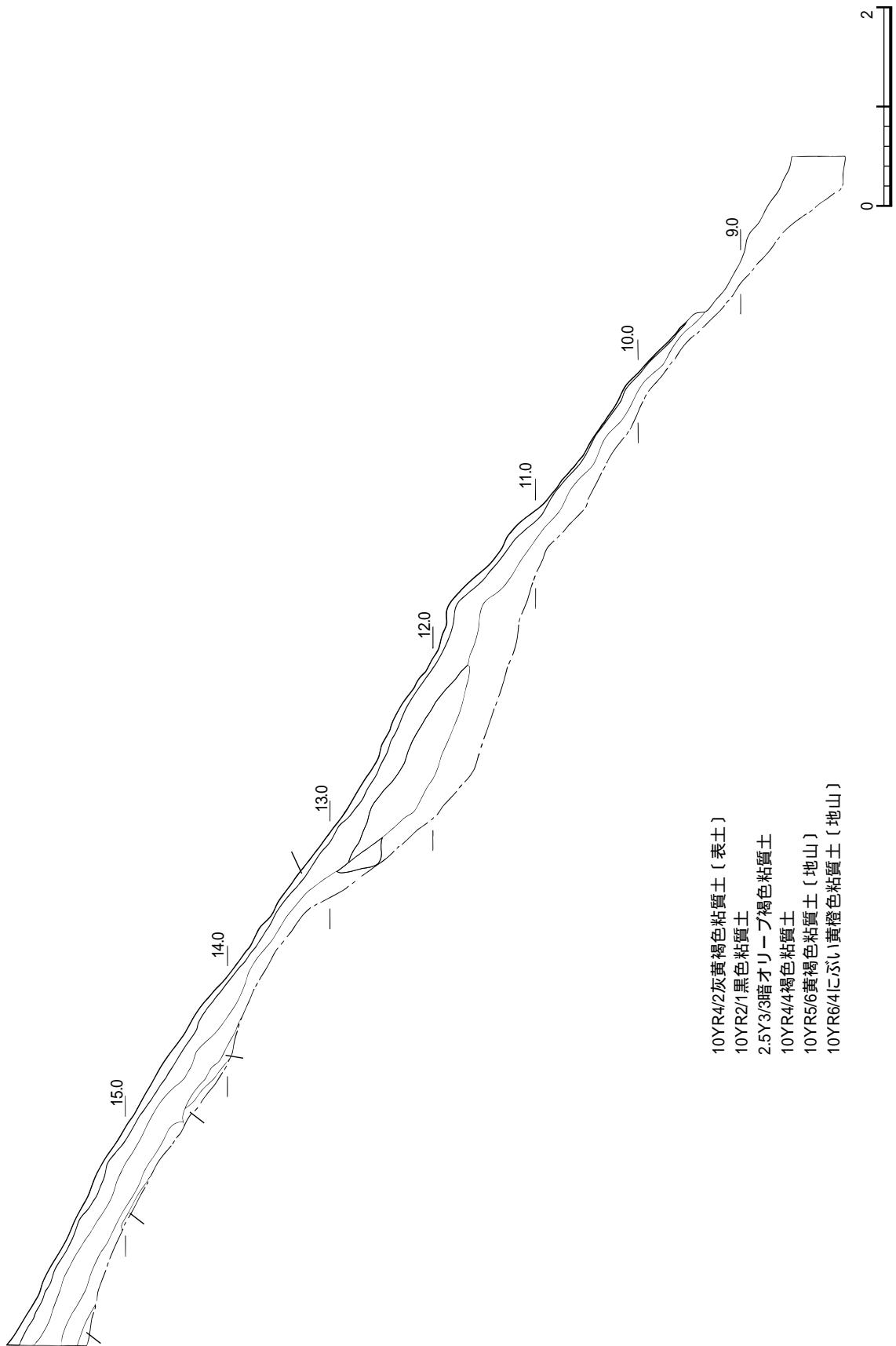


Fig. 8 Dラインセクション図

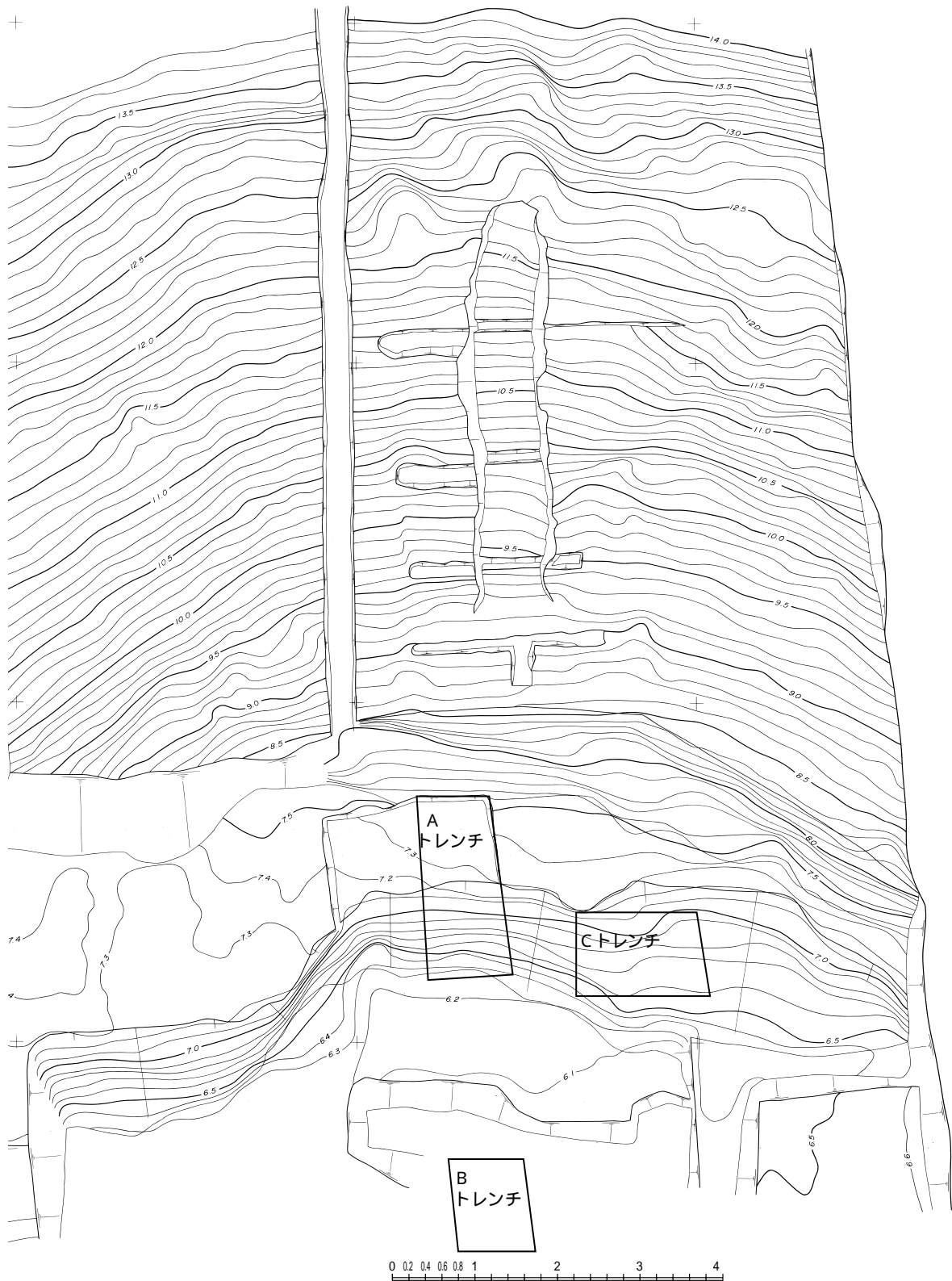


Fig. 9 神ヶ谷竊跡平面図

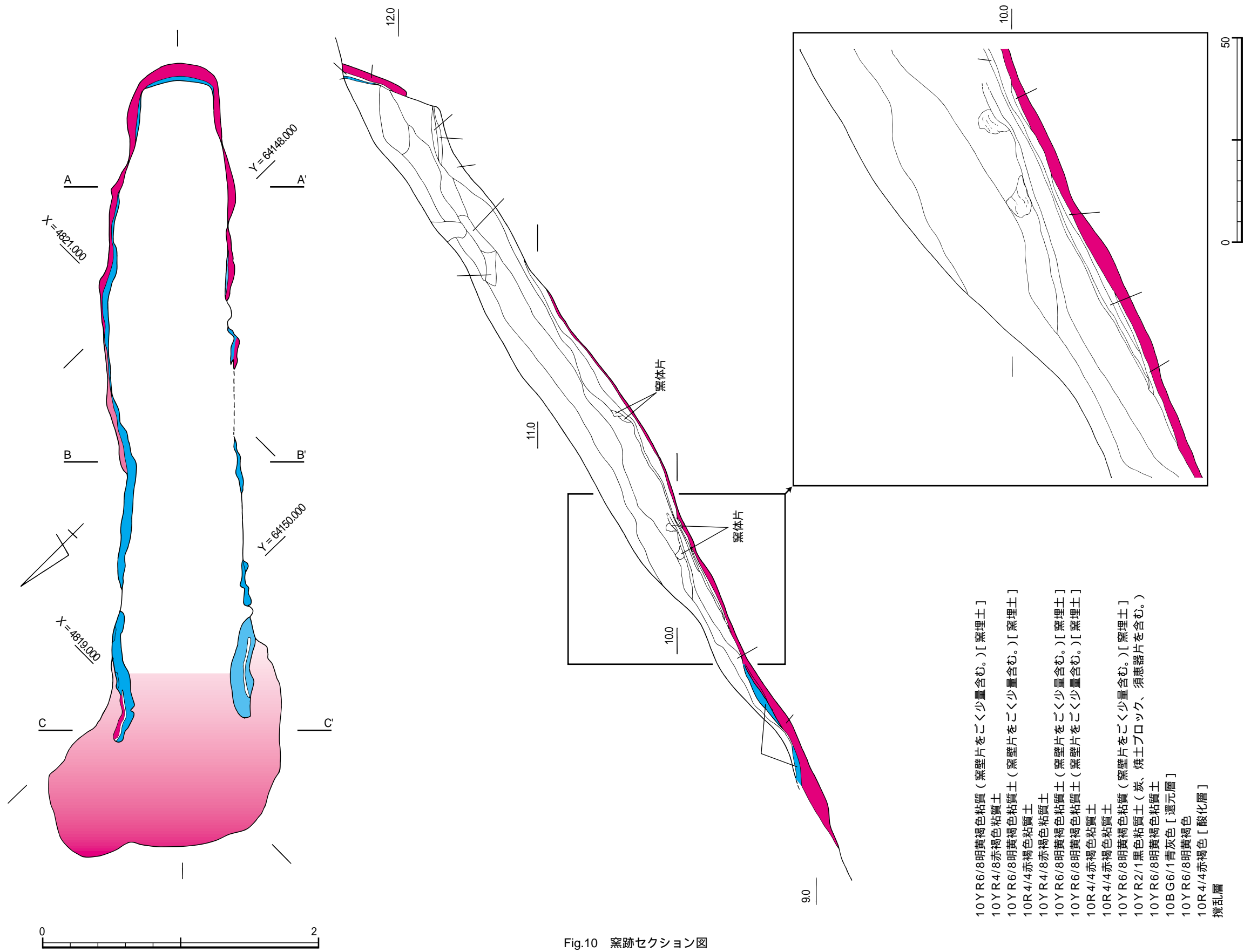


Fig.10 窯跡セクション図

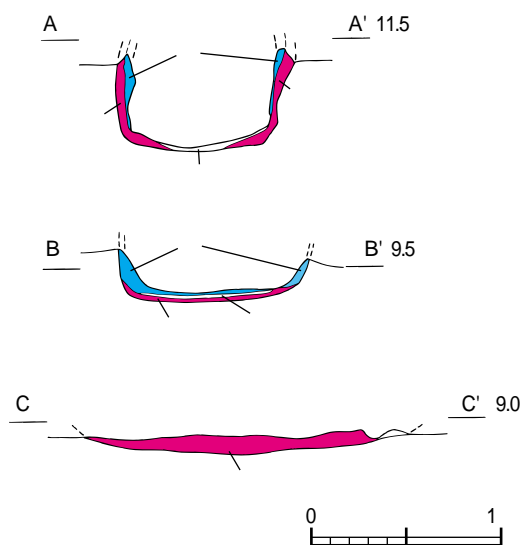


Fig.11 断ち割りセクション図

2. 神ヶ谷窯跡

1) 基本層序 (Fig.8)

基本層序はDラインで観察した。

層は灰黄褐色粘質土で表土である。

層は黒色粘質土で無遺物層である。

層は暗オリーブ褐色粘質土で無遺物層である。

層は褐色粘質土で無遺物層であり、この層を除去して窯跡を検出した。

層は黄褐色粘質土で地山である。

層はにぶい黄橙色粘質土で地山である。

2) 窯跡 (Fig.6・10～12)

神ヶ谷窯跡は中筋川中流域の右岸に位置する。

道路建設に伴い地形が著しく改変を受けているため、工事着手前の地形図を参考に立地を還元

すると窯跡は西に入り込んだ谷の南斜面に築かれている。

神ヶ谷窯跡は全長4.85、最大幅0.85を測る半地下式の窖窯である。天井部は崩落し、流失しているが、床面の残存は比較的良好である。窯体埋土は大きく3層に分層できるがともに天井流失後に地山土が流入したものと推定される。窯跡の平面形は焚口からほぼ直線的にのび窯尻部付近でやや方向を曲げる。焚口付近は「八」の字状にひろがる。煙出しは奥壁を持ち、床面と奥壁の角度は122である。焚口から焼成部中央付近までは約24と緩やかであるが、焼成部中央付近を境に34.5と床面の傾斜角度が急になり煙出しへと続く。

被熱状況は側壁・奥壁とも還元されている。特に奥壁は強く還元されており、煙出し部も完全に閉塞されていたものと考えられる。側壁は基本的には還元層の外側が酸化層となっている。奥壁は還元層と酸化層の間が黄色に発色する。床面は全面が還元されているとは言い難く、還元されている部分についてもかなり弱い。還元層の下層には黒色層が存在し、須恵器片、焼土ブロック、炭を含んでおり床修復に伴うものと推定される。煙出しの方向にいくにつれ層厚が増す傾向が認められる。焼成部下半ではこの黒色層が2層存在することから、2枚以上の床面を認めることができる。黒色層の下層に酸化層が存在し、窯尻から煙出しにかけて層厚が減じる傾向にある。また、焚口付近には酸化面がひろがる。下方は削平されており、酸化面は下方にさらにひろがる可能性がある。被熱断面はレンズ状を呈し、中央部付近では厚さ約10を測る。

遺物は焼成時の位置を留めているものはなく、焼成部の傾斜が緩やかな部分にひっかかるように出土した。二次的な被熱により剥離した須恵器が認められることから焼台として利用していたと推定される。焼台として利用された器種は蓋、杯Bが大半であり、杯Bでは口縁部から高台にかけての対角線で割り使用している。また、被熱により赤褐色を呈した礫が出土している。大きさは様々で長軸10に満たないものから人頭大のものまであり、形態についても様々である。窯跡周辺に礫層が存在することからすべてが焼台として利用されていたとはいえないが、炎を受け

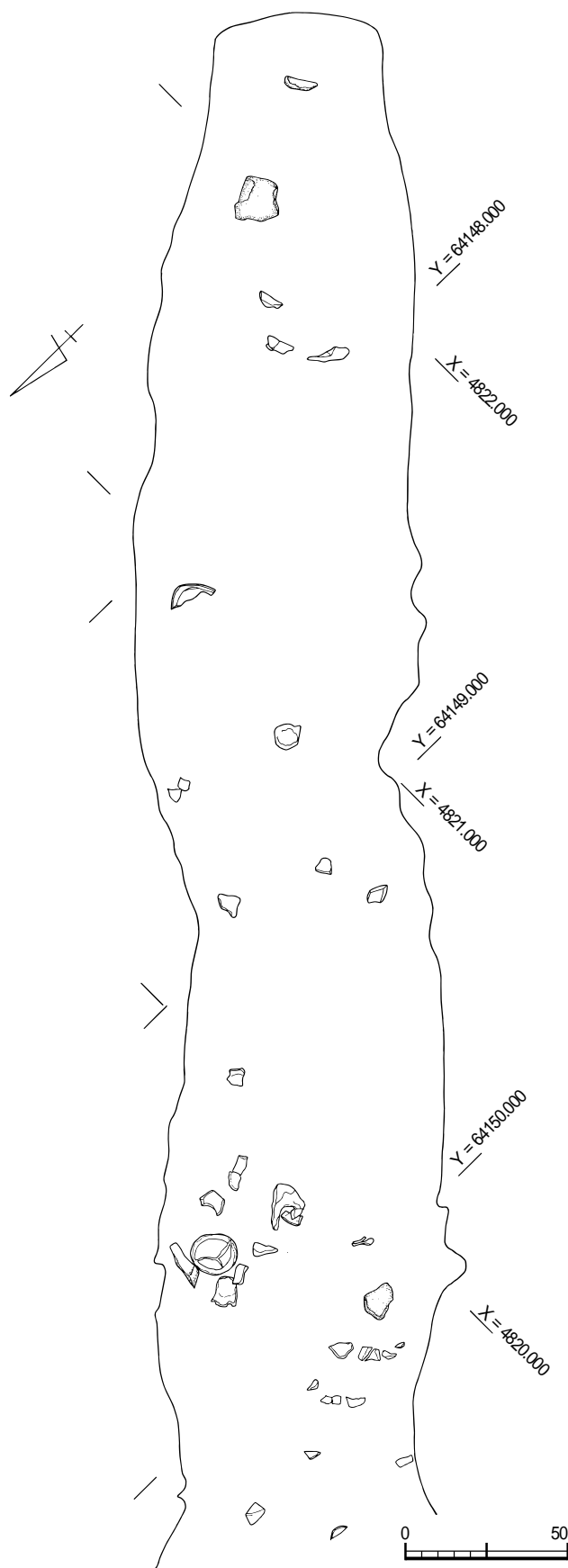


Fig.12 窯体内遺物出土状況図

る状況であったと考えられる。

3) 灰原 (Fig.13・14)

灰原は窯跡の下方に東西約5.0、南北約1.5の範囲にひろがる。灰原の上方付近は削平されているため焚口方向にひろがると推定され、下方についてもさらに北方向にひろがっていたと推定される。また、地山の一部を成形していた可能性がある。灰原上方は地山を平坦に成形していたと考えられ、地山の立ち上がり角度も垂直に近く傾斜が不自然であることから成形されていたと推定される。

灰原のほぼ中央部に窯跡の主軸と同方向に設定したセクションで堆積状況を観察した。は道路建設に伴い削平された土砂の堆積である。須恵器片を含む。は黒褐色粘質土の表土である。

は褐灰色粘質土で無遺物層である。

は黒色の粘質土で須恵器片を多量に含む。灰原層である。斜面に沿って堆積しており、最も厚く堆積している部分で約0.3を測る。は暗緑灰色粘土で、旧耕作土である。

4) A～Cトレンチ出土遺物 (Fig.15)

45～56はA～Cトレンチ(灰原)出土遺物である。54・55は高杯の脚部である。54の裾部は緩やかに大きくひらき、底端部をつまみ出す。55の裾部は緩やかにひらき、端部付近で大きくひらく。

5) 窯体内出土遺物 (Fig.16～18)

57～64は杯蓋類である。58は天井部には中央部が突出するつまみがつく。

天井部外面はヘラケズリ調整、口縁部は回転ナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。62の内面、63の内面・外面に二次的被熱による剥離痕跡が認められる。

66～69は杯B 類である。66は底部外面付近に2回転のヘラナデ調整を施す。口縁部内外面は回転ナデを施し、底部内面は不定方向のナデ調整を施す。高台の底面は若干凹む。67は口縁部内外面に回転ナデを施し、底部内面は不定方向のナデ調整を施す。66でみられた底部外面付近のヘラナデ調整は認められなかった。底部外面には爪形状圧痕が認められる。螺旋状に巡るように残存しており、原体は爪というよりヘラ状工具によりつけられたと考えられる。高台側（外側）のほうはやや不明瞭となっており、高台を貼り付ける時のヨコナデによってナデられたものと考えられる。また、高台の二次的被熱による剥離痕跡が認められる。68は口縁部の回転ナデが強く施さ

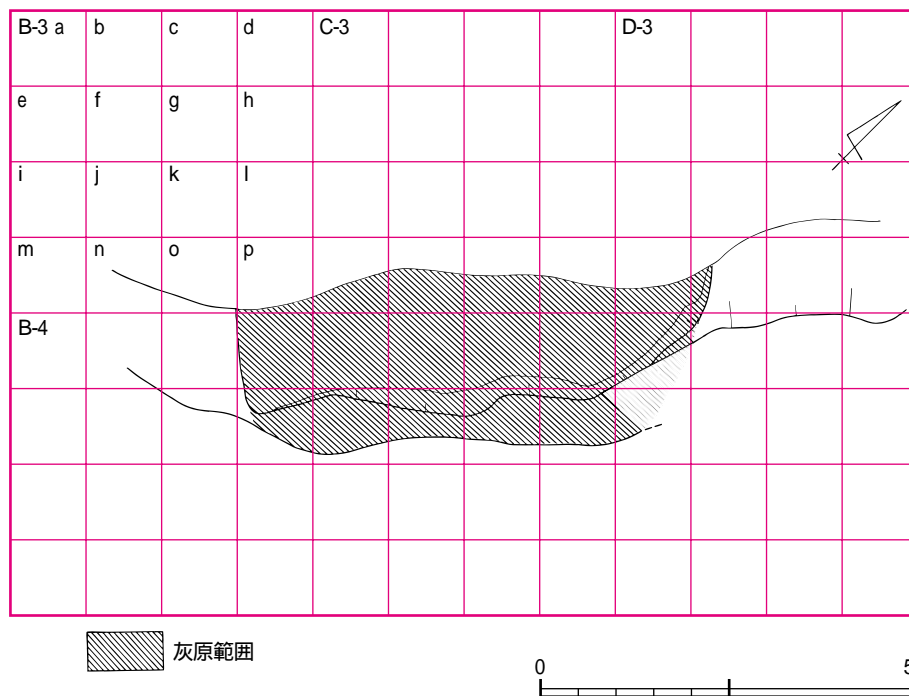


Fig.13 灰原平面図

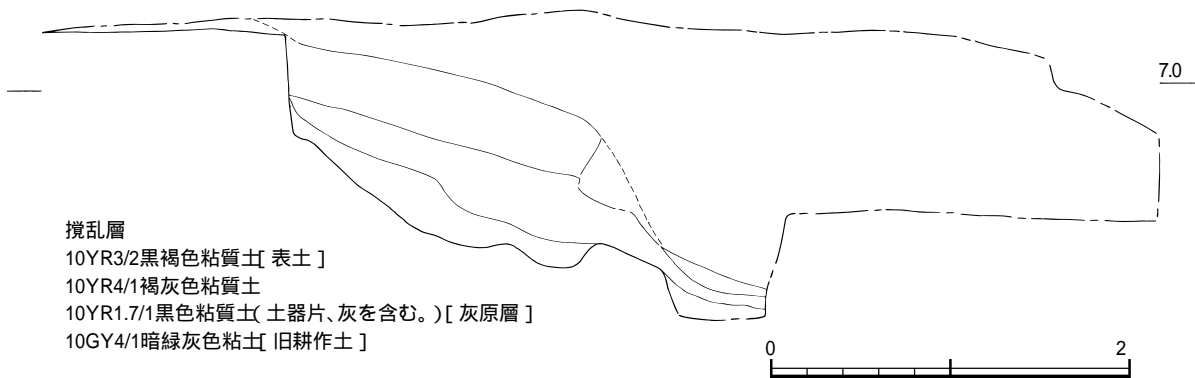


Fig.14 灰原セクション図

れる。底部外面に爪形状圧痕が認められる。螺旋状に残存しているが高台側（外側）は高台を貼り付ける時のヨコナデによってナデられたものと考えられる。全体的に爪形状圧痕はナデによりやや不明瞭となっている。69は底部の最大厚が1.0 と他のものと比較してかなり厚い。口縁部の内外面に回転ナデ調整を施す。高台の断面形は縦方向にやや長い形態である。

73～75は杯B 類である。3点すべての底部外面に爪形状圧痕が認められる。73は口縁部内外面に回転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。底部外面はナデ調整を施す。74は底面が凹んだ高台を貼り付ける。底部外面はナデ調整を施す。75の底部外面に二次的被熱による剥離痕跡が認められる。底部外面はナデ調整を施す。

76～111は杯Aである。77は口縁部内外面に回転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。底部外面はヘラ切り痕が残存する。79は口縁部内外面に回転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。口縁部外面には砂粒の移動がみられる。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。そのため、底部外面端部がやや突出する。80は79と調整、特徴が類似する。口縁部内外面に回転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。口縁部外面には砂粒の移動がみられる。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。そのため、底部外面端部がやや突出する。82も79・80と調整、特徴が類似する。91の口縁部内外面に回転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。底部外面は摩耗しているが、ヘラ切り痕が認められる。ヘラ切り後、軽いナデ調整を施す。底部外面端部の突出は認められない。92は口縁部内外面に回

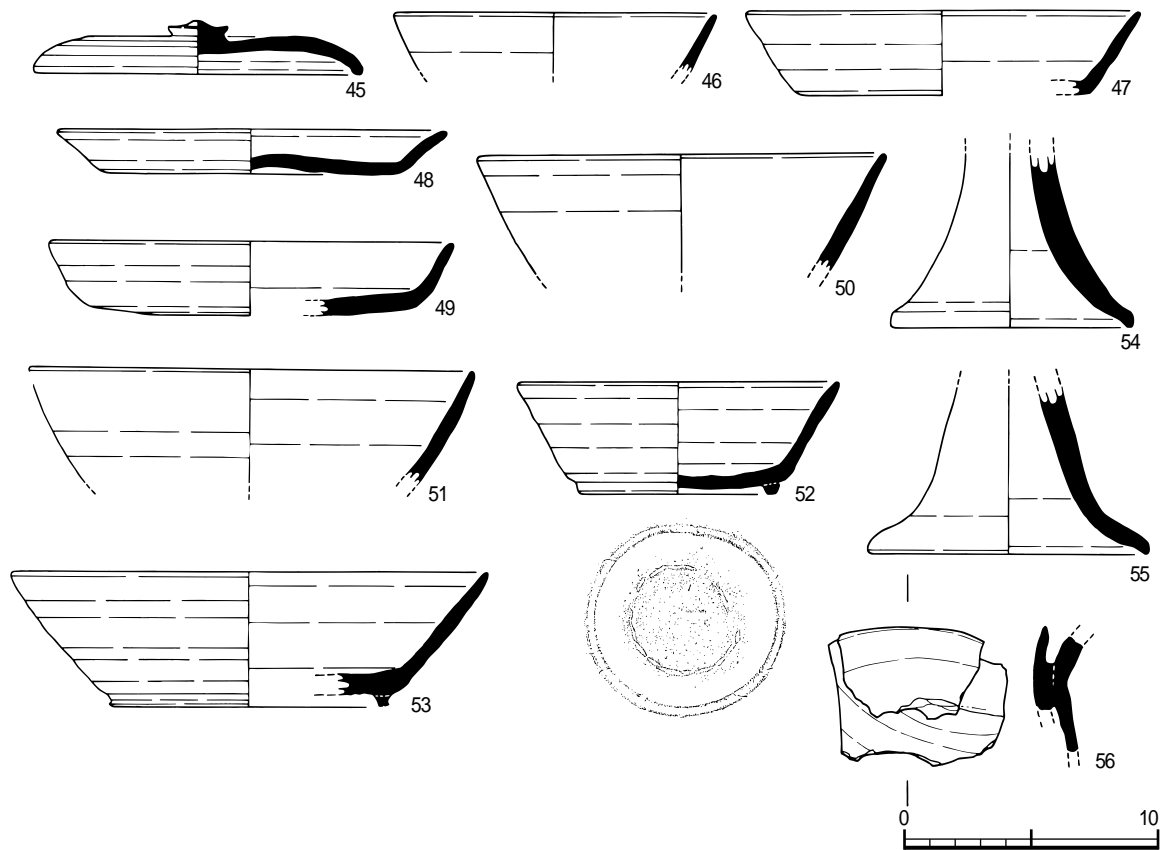


Fig.15 A～Cトレンチ（灰原）出土遺物実測図1

転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。底部外面端部は僅かではあるが突出する。口縁部外面に重ね焼きの痕跡が認められる。93は口縁部内外面に回転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。底部外面はヘラ切り後、軽いナデ調整を施す。100は口縁部内外面に回転ナデ調整を施し、底部内面には不定方向のナデ調整を施す。

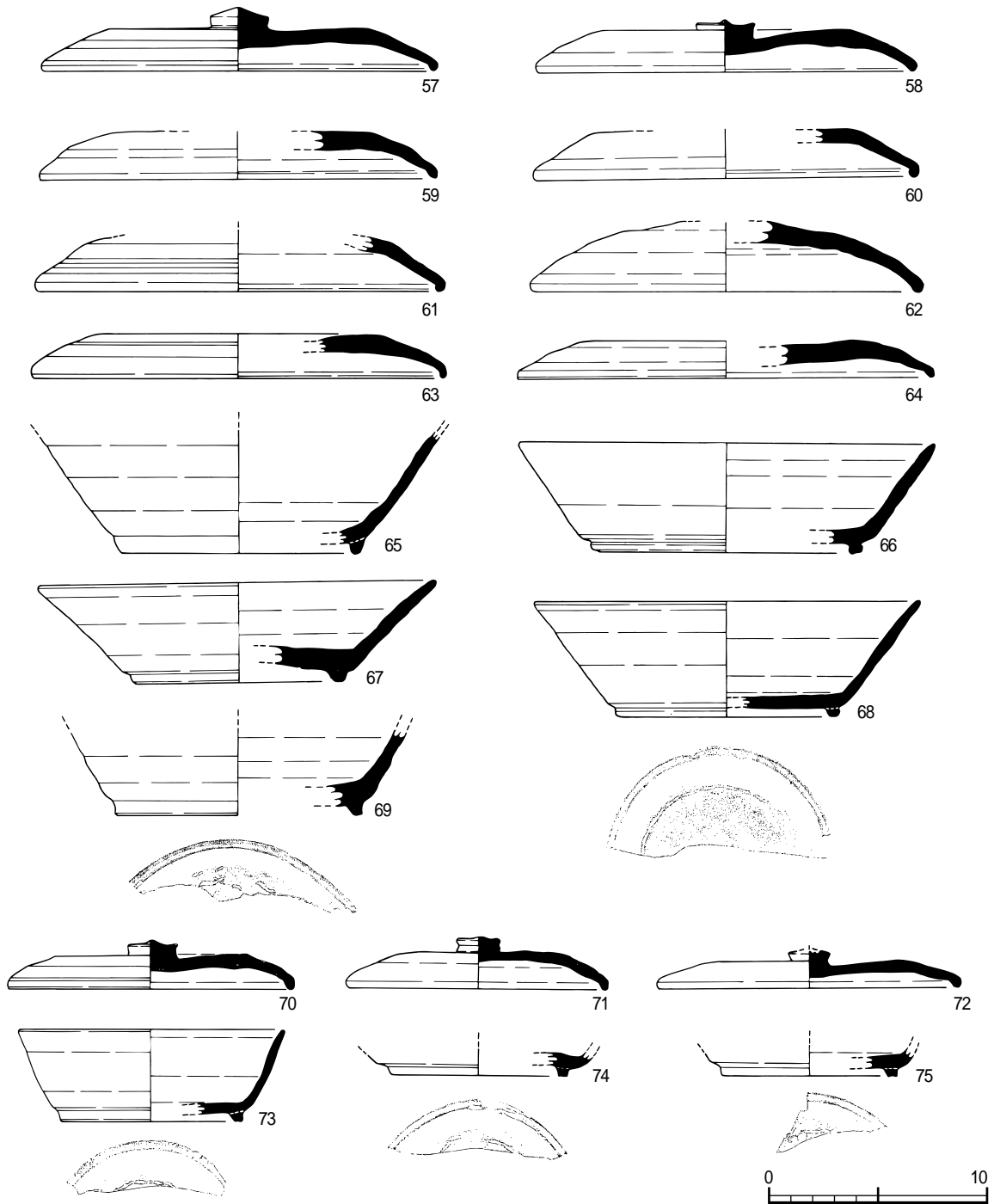


Fig.16 窯体内出土遺物実測図1

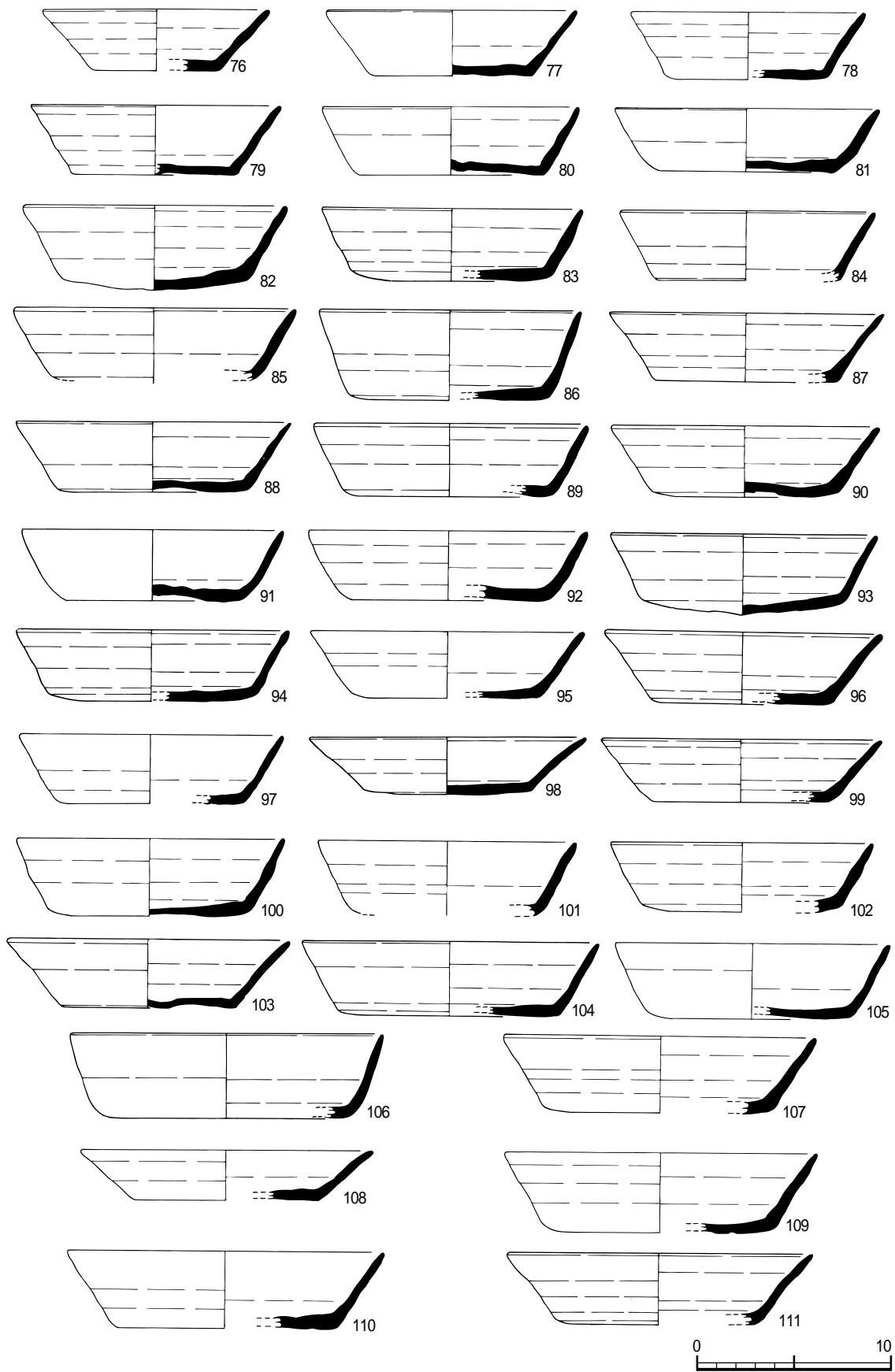


Fig.17 窠体内出土遺物実測図2

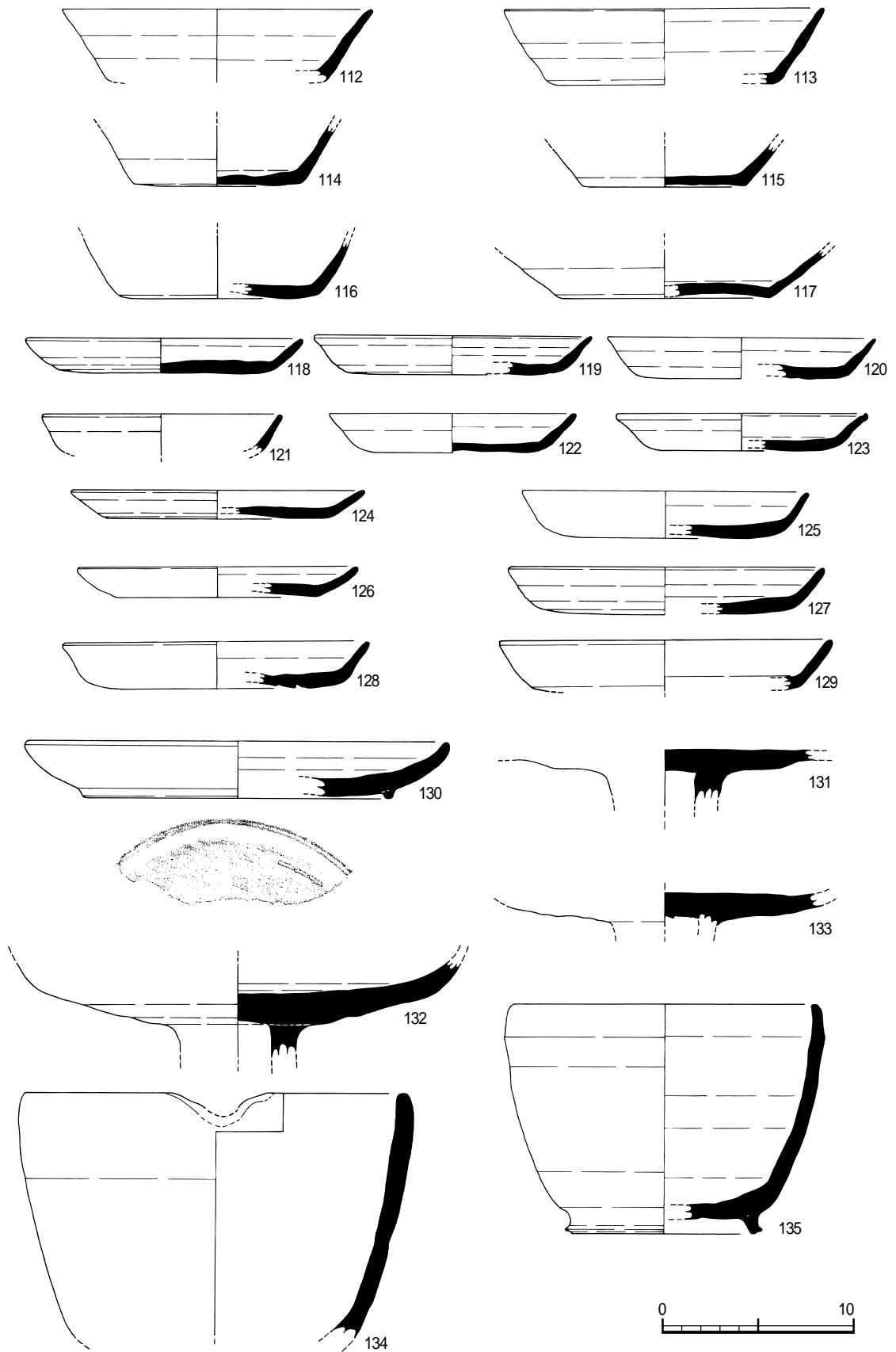


Fig.18 窠体内出土遺物実測図3

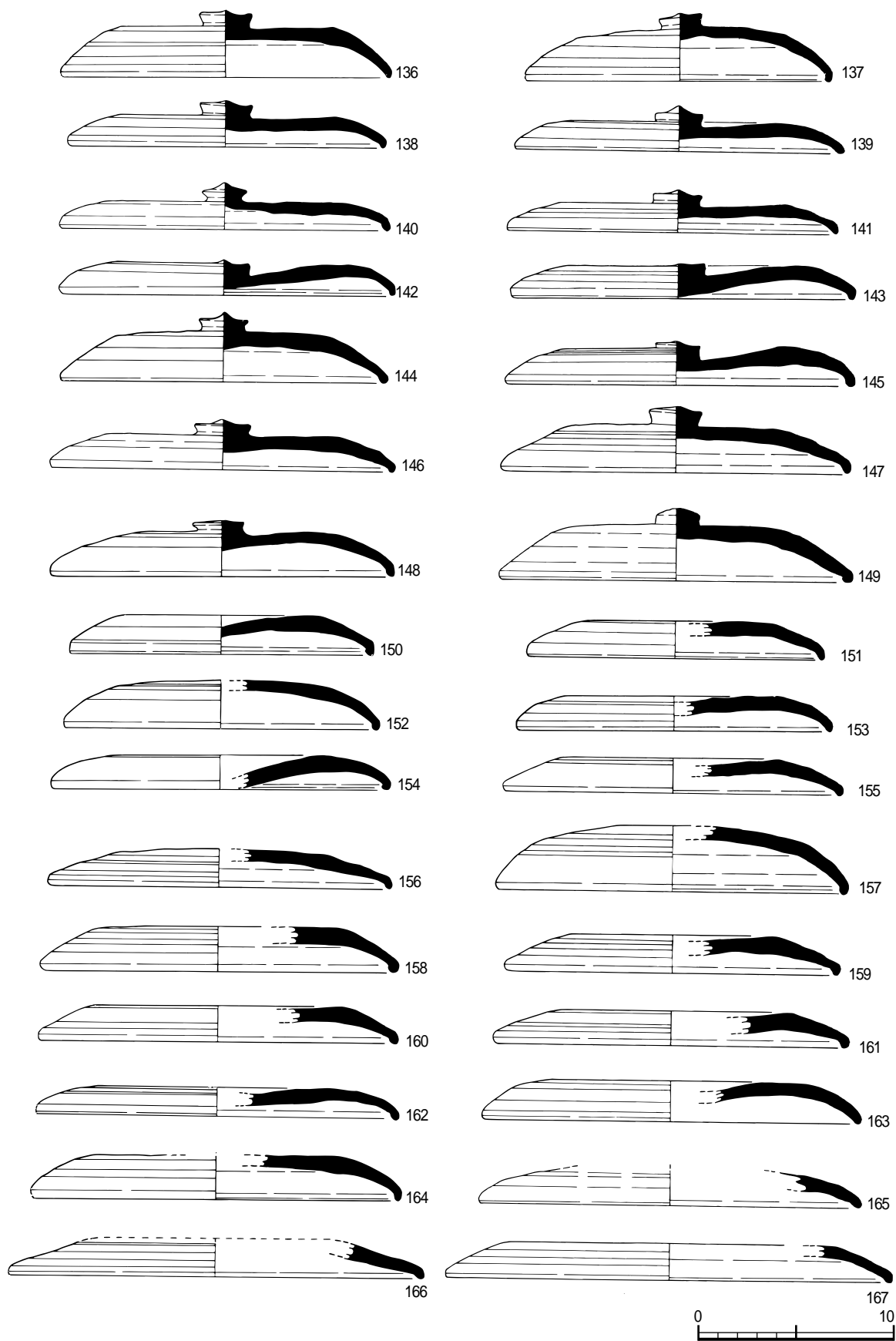


Fig.19 灰原出土遺物実測図2

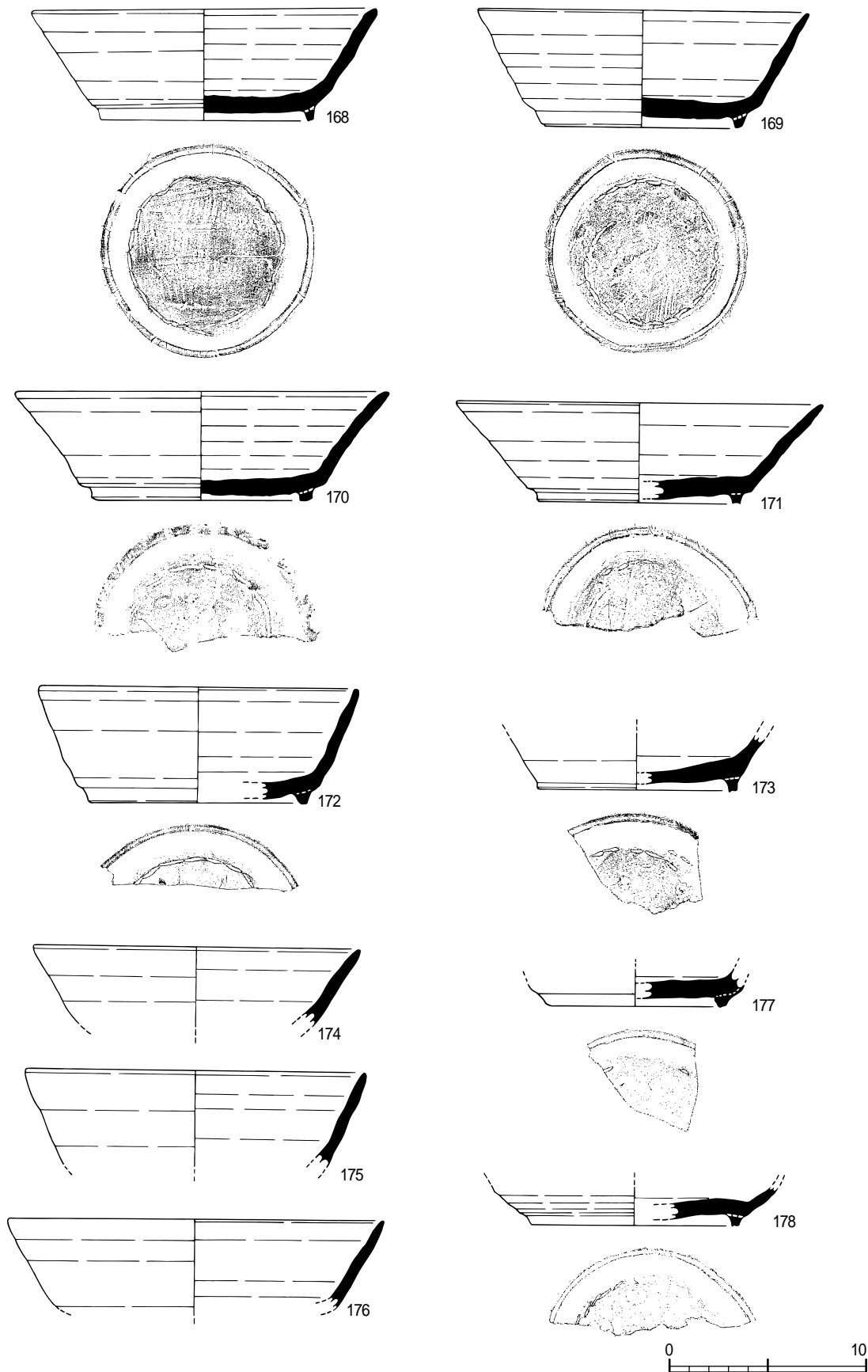


Fig.20 灰原出土遺物実測図3

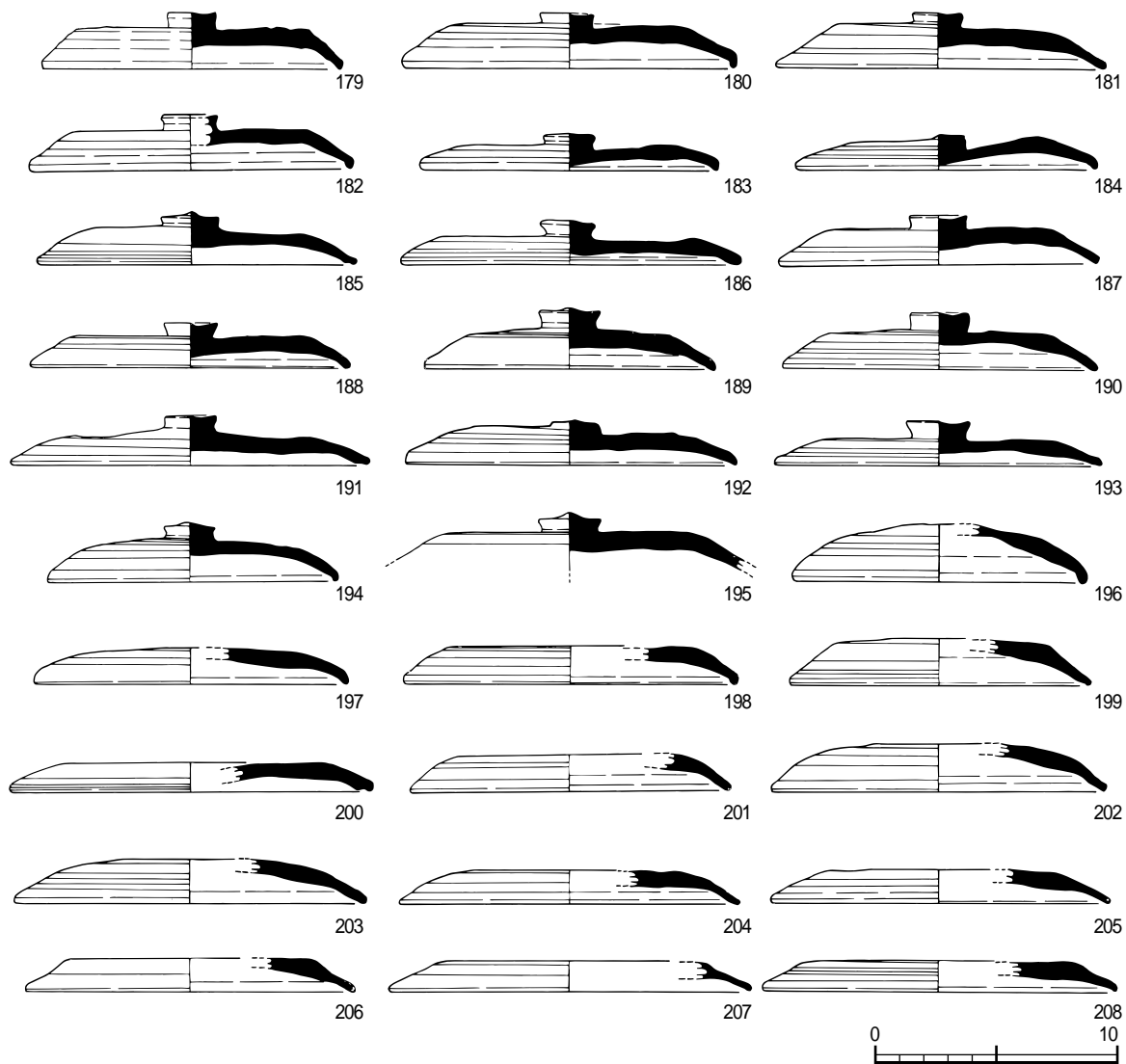


Fig.21 灰原出土遺物実測図4

6) 灰原出土遺物 (Fig.15・19~26)

168~178は杯B類である。168は口縁部内外面に回転ナデ調整を施す。底部内面には仕上げナデ調整を施す。底部外面にはヘラケズリ調整を施す。高台は底端部付近に貼付する。高台底面は凹面をなす。全体的に器壁が厚い。焼成により割れる。内面を中心に焼成不良である。底部外面に爪形状圧痕が認められる。169は口縁部内外面を回転ナデ調整を施す。底部内面には仕上げナデ調整を施す。底部外面にはヘラ切り痕跡が若干残り、端部は高台貼付時のナデ調整により凹む。高台は底端部付近に貼付する。高台底面の一部は凹面状をなすが、やや丁寧さに欠ける。やや焼け歪む。底部外面に爪形状圧痕が認められる。

179~208は蓋類である。179は平らな天井部から口縁部は下外方にひろがり、口縁端部はごく僅かであるが下がる。天井部外面はナデ調整を、口縁部内外面は回転ナデ調整を、天井部内面には仕上げナデ調整を施す。天井部にはボタン状のつまみがつく。180は平らな天井部から口縁部は下外方にひろがり、口縁端部はほぼ垂直にさがり端部は丸くおさめる。天井部にはボタン状のつまみがつく。

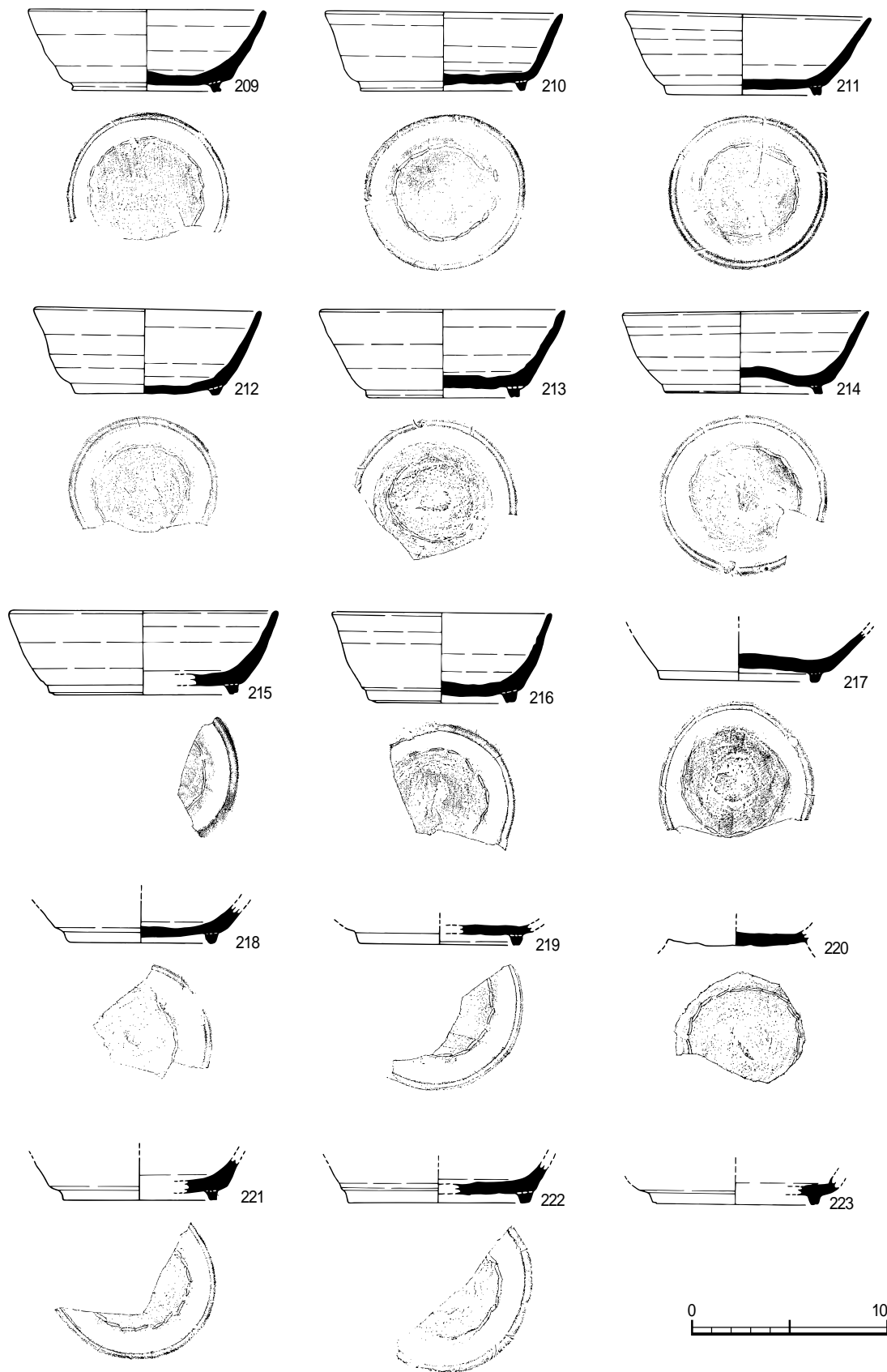


Fig.22 灰原出土遺物実測図5

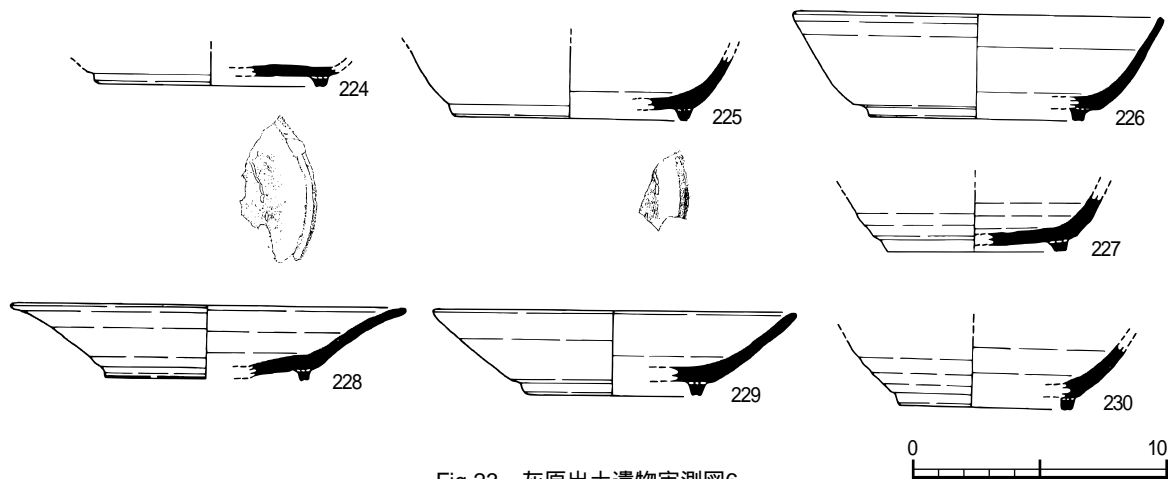


Fig.23 灰原出土遺物実測図6

まみがつく。天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。口縁部内外面は回転ナデ調整をほどこし、天井部内面は仕上げナデ調整である。185は平らな天井部から口縁部は外下方にひろがる。つまみは扁平な擬宝珠様を呈する。口縁部内面に沈線が巡る。外面および内面の一部に自然釉が付着する。187は平らな天井部から口縁部は下外方にひろがり、端部は丸くおさめる。天井部にはボタン状のつまみがつく。天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。口縁部内外面は回転ナデ調整を施し、天井部内面は仕上げナデ調整である。天井部内面には二次焼成を受けた痕跡が認められる。また、天井部には自然釉が付着する。188は平らな天井部から口縁部は下外方にひろがり、端部は丸くおさめる。天井部にはボタン状のつまみがつく。天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。口縁部内外面は回転ナデ調整を施し、天井部内面は仕上げナデ調整である。天井部内面には二次焼成を受けた痕跡が認められる。また、天井部には自然釉が付着する。193は平らな天井部から口縁部は下外方にひろがり、端部は丸くおさめる。天井部にはボタン状のつまみがつく。天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。口縁部内外面は回転ナデ調整をほどこし、天井部内面は仕上げナデ調整である。194は平らな天井部から口縁部は下外方にひろがり、口縁端部はほぼ垂直に下がる。天井部は回転ヘラケズリ調整を施し、口縁部内外面には回転ナデ調整を施す。天井部内面には仕上げナデ調整を施す。つまみは扁平な擬宝珠様を呈する。焼成不良である。他のものと比較してやや異質な印象を受ける。

209～230は杯B類である。209は口縁部内外面を回転ナデ調整を施す。底部内面には仕上げナデ調整を施す。底部外面に爪形状圧痕が認められる。焼け歪む。212は口縁部内外面を回転ナデ調整を施す。底部内面には仕上げナデ調整を施す。底部外面に爪形状圧痕が認められ、内面の爪形状圧痕に対応する部分には指頭圧痕が残存することから内面から指頭で押さえていたものが残存していると考えられる。指頭圧痕が底部外面の仕上げナデ調整痕跡を切る。体部外面の2箇所に敲打痕跡が認められる。213は口縁部内外面を回転ナデ調整を施す。底部内面には仕上げナデ調整を施す。高台は底端部付近に貼付する。底部外面に爪形状圧痕が認められる。214は口縁部内外面を回転ナデ調整を施す。底部内面には仕上げナデ調整を施す。焼け歪む。底部外面に爪形状圧痕が認められる。216は口縁部内外面を回転ナデ調整を施す。底部内面には仕上げナデ調整を施す。焼け

歪む。底部外面に爪形状圧痕が認められる。

231～254は杯A類である。231は底部から口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部内外面は回転ナデ調整を施す。底部外面はナデ調整を施す。焼け歪む。焼成不良である。232は底部から口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部内外面は回転ナデ調整を施す。底部外面はナデ調整を施す。底端部はやや突出する。焼成不良である。233は底部から口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部内外面は回転ナデ調整を施す。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。内面は荒れている。239は底部から口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部内外面は回転ナデ調整を施す。底部外面はヘ

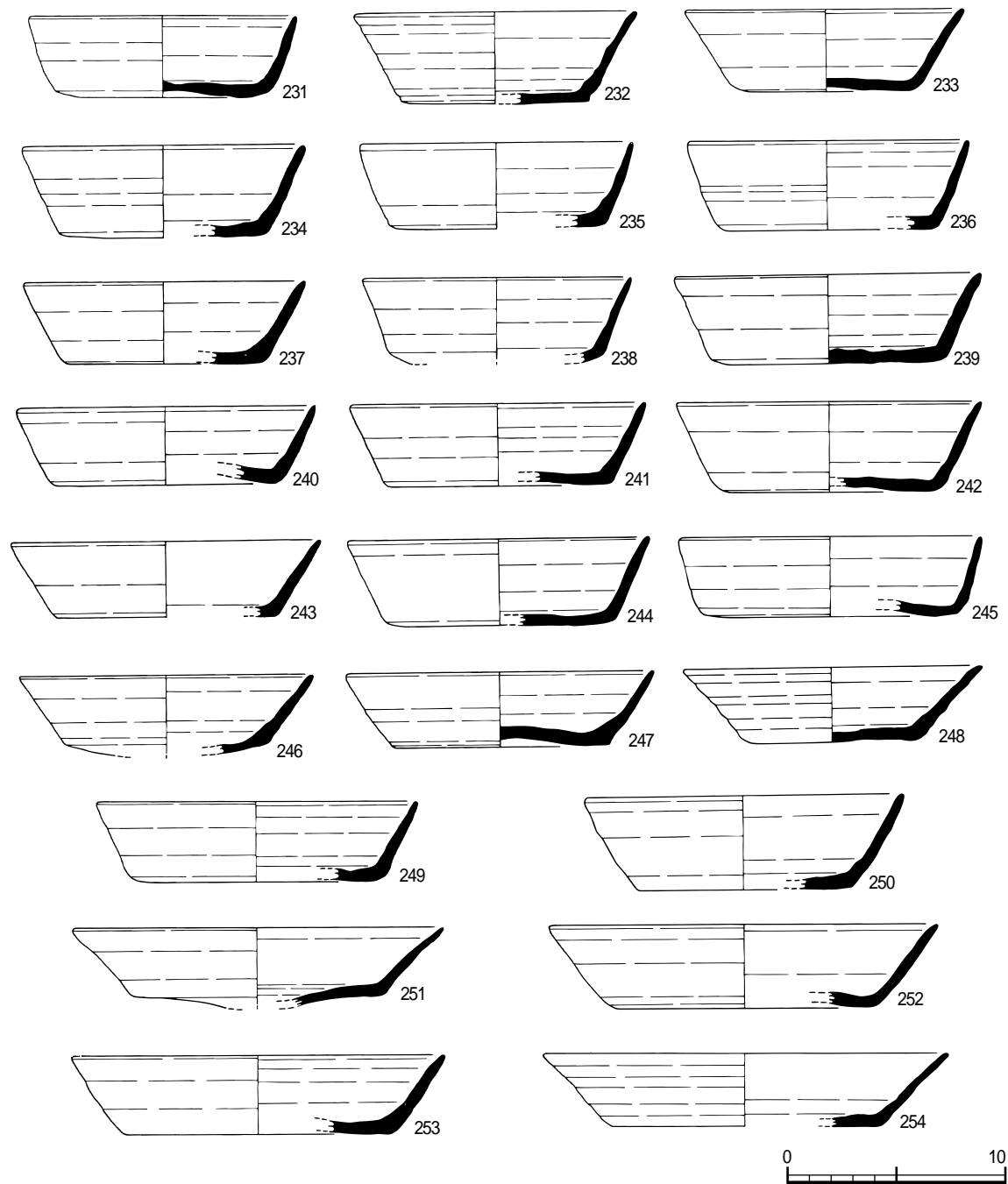


Fig.24 灰原出土遺物実測図7

ラ切り後、ナデ調整を施す。底部径が他のものと比較すると大きく、また器壁も厚い。焼成不良である。242は底部から口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部内外面は回転ナデ調整を施す。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。

7) 攪乱層出土遺物 (Fig.27)

灰原セクション 層から出土したもので、灰原上端部および焚口付近に存在したものと推定される。

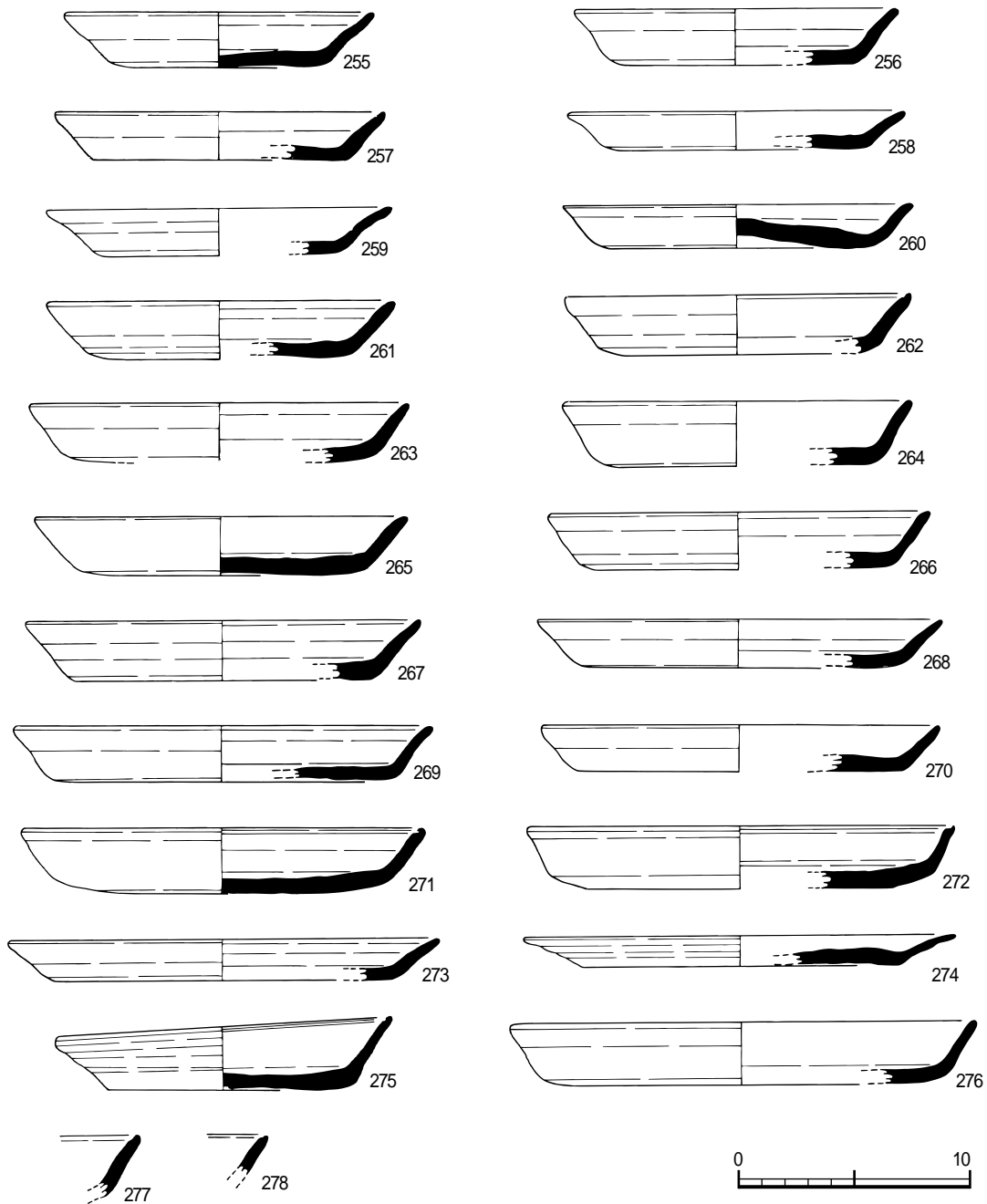


Fig.25 灰原出土遺物実測図8

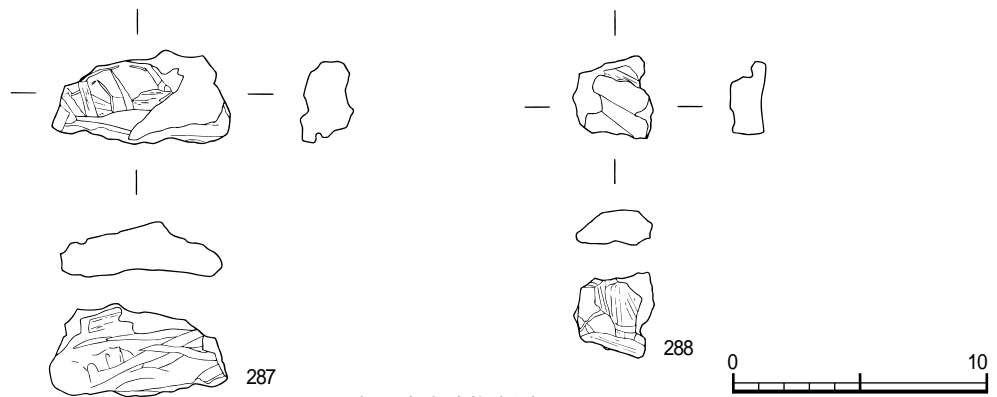
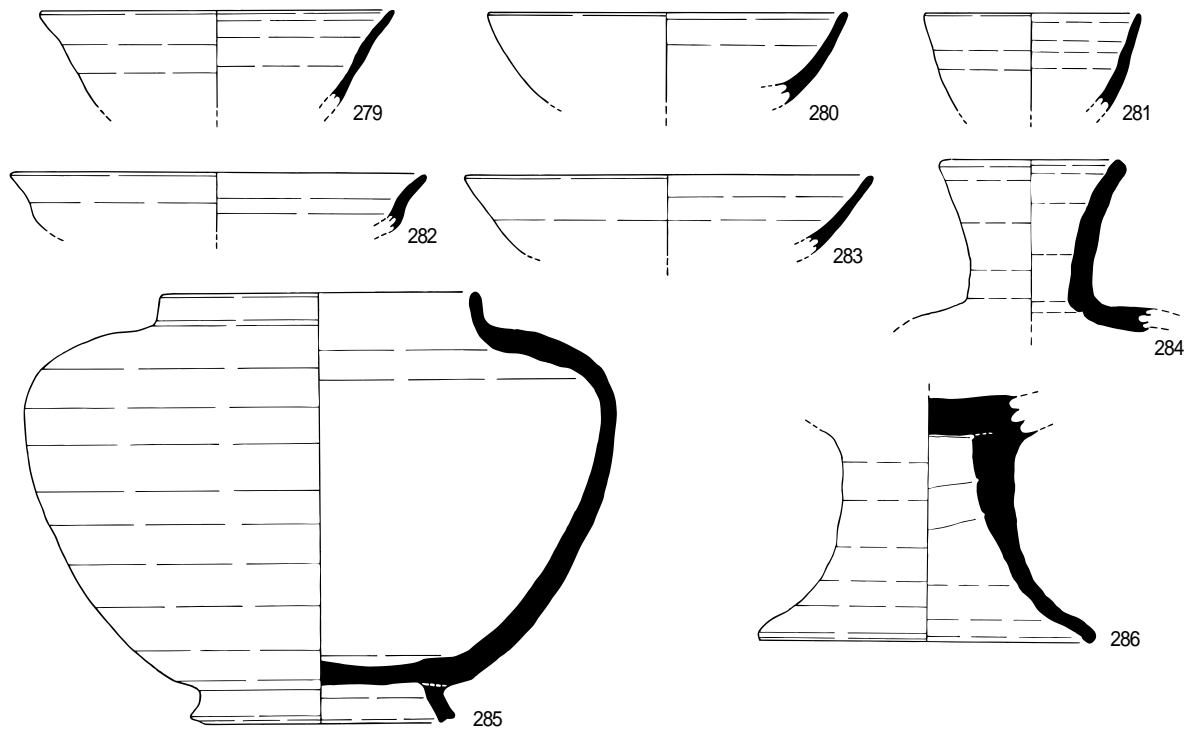


Fig.26 灰原出土遺物実測図9

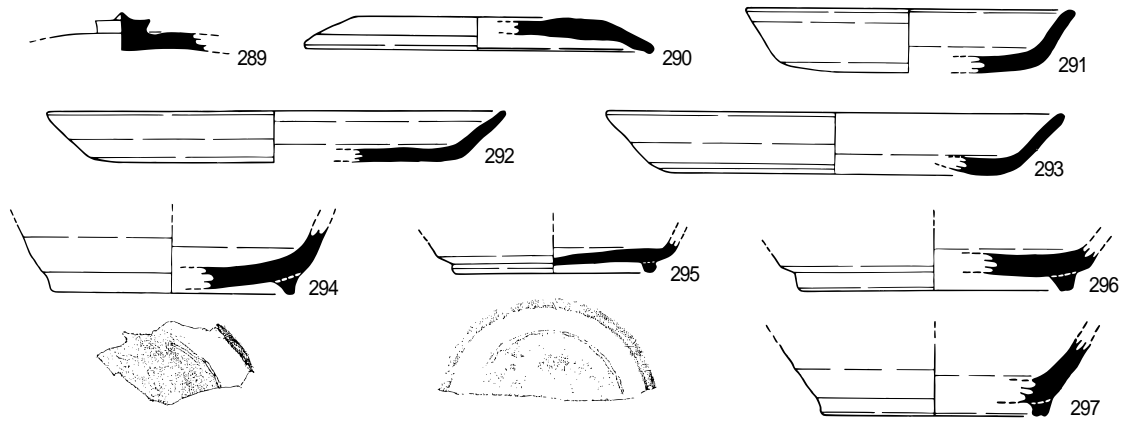


Fig.27 攪乱層出土遺物実測図

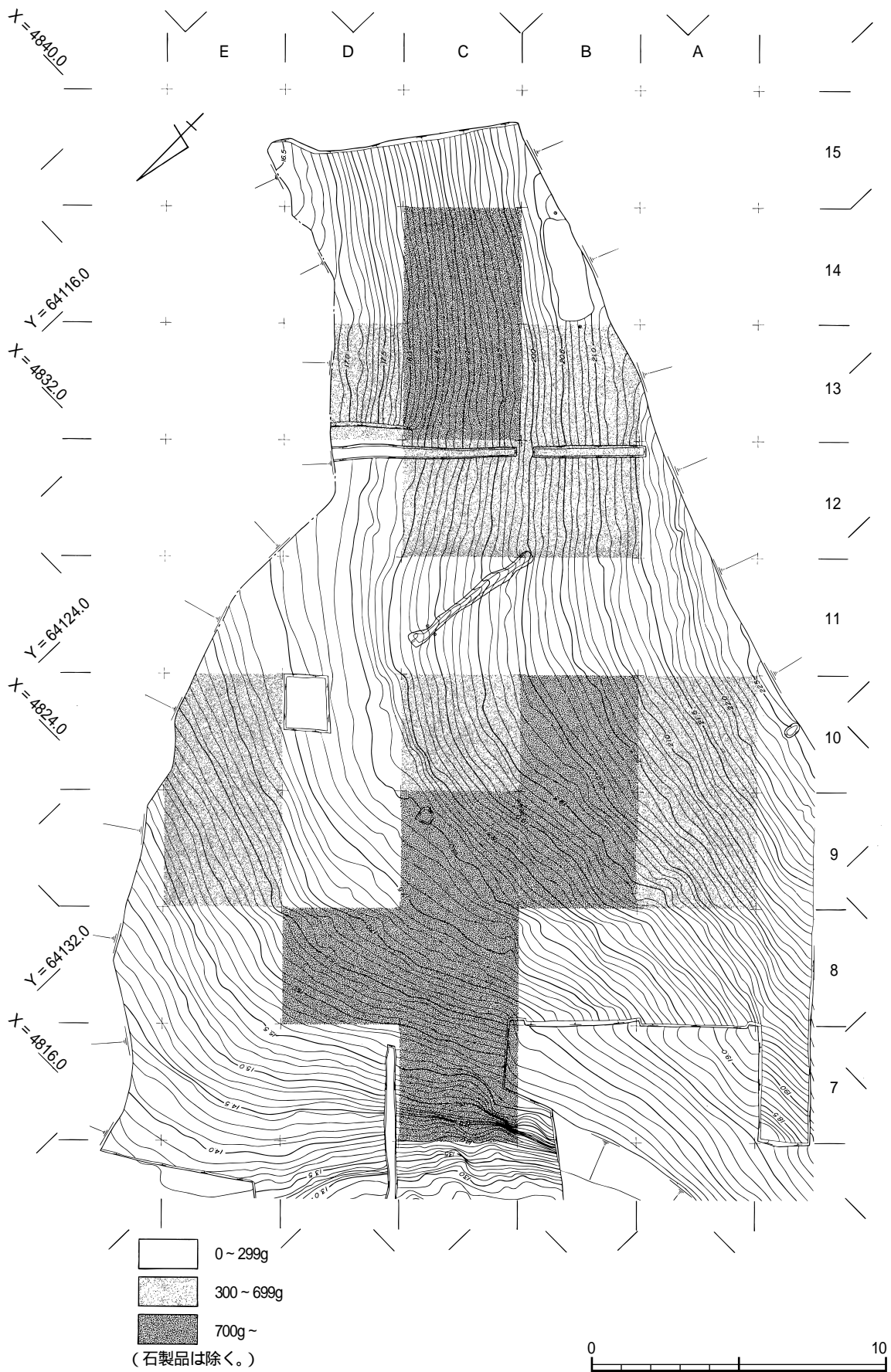


Fig.28 サンナミ遺跡遺物出土量分布図

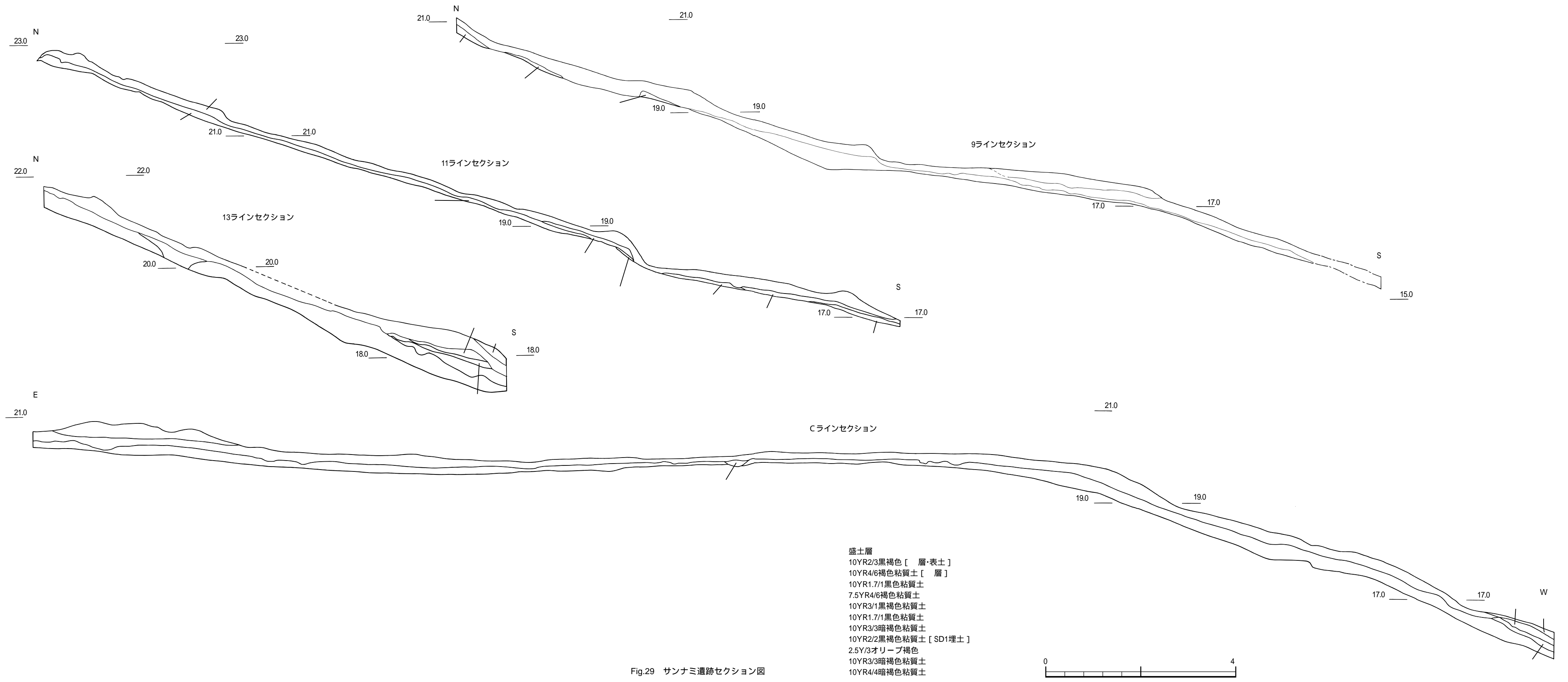


Fig.29 サンナミ遺跡セクション図

3. サンナミ遺跡 (Fig.28)

神ヶ谷窯跡の上方の丘陵上に位置する。南部は削平されているが、頂上に向かい急傾斜でのびていたものと考えられる。調査区は南方向から北方向へ傾斜し、C-9・D-9~12・E-11付近の傾斜は緩やかである。一方、C-13~15・D-13~15区付近の傾斜は急である。

出土遺物の大半は包含層出土のものであり、時期的にも複数の時期の遺物が出土していることから一括性はきわめて乏しいと考えられる。全体の出土遺物の分布傾向を把握するためにグリッド毎で取り上げた遺物(石器は除く。)の出土重量を計量した。その結果、A-9区・B-9~10区・C-7~9区・D-8区、C-13~14区で比較的多くの遺物が出土する傾向があるものの現地地形との相関関係は希薄である。

1) 基本層序 (Fig.29)

基本層序は9ライン、11ライン、13ライン、Cラインで観察した。

基本的には大きく ~ 層の3層に分層可能である。層は黒褐色粘質土で遺物を包含する。表土である。層は黒色粘質土で遺物を包含する。層は褐色粘質土で地山である。

2) 検出遺構 (Fig.7・30・31)

調査区南東部 (B-14区) にお

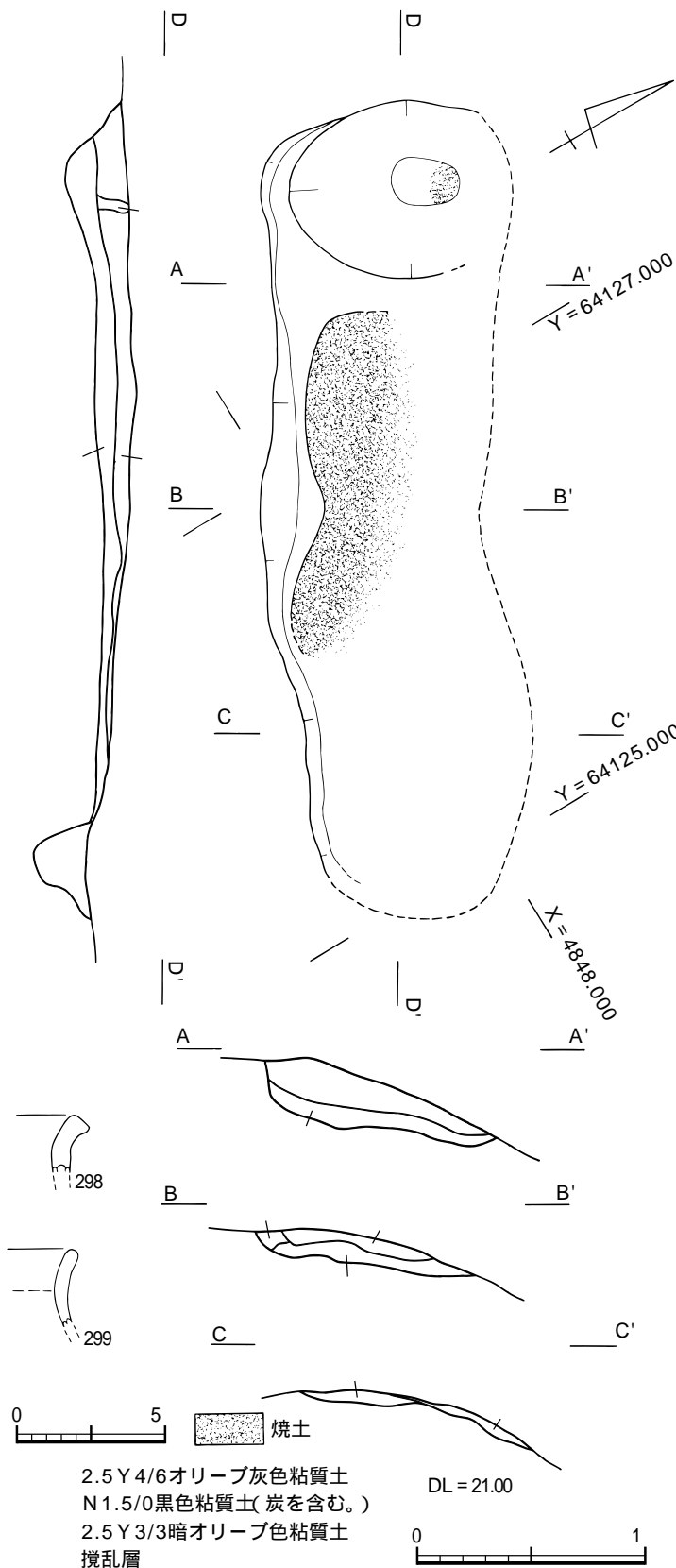


Fig.30 SK1平面図・セクション図・出土遺物実測図

Y = 64140.000



Y = 64139.000

X = 4835.000

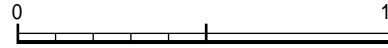
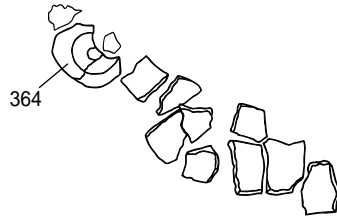


Fig.31 遺物出土狀況平面图

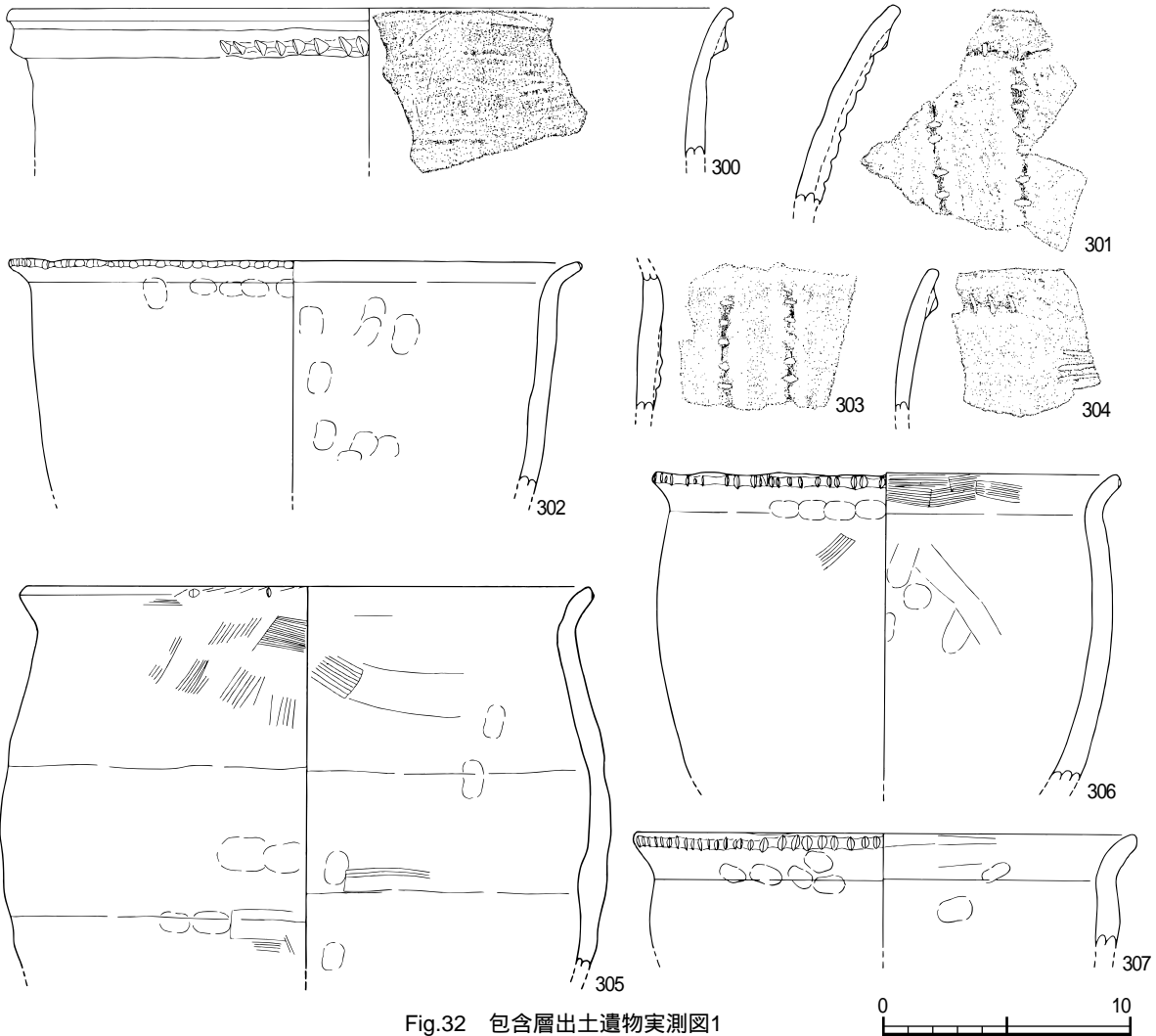


Fig.32 包含層出土遺物実測図1

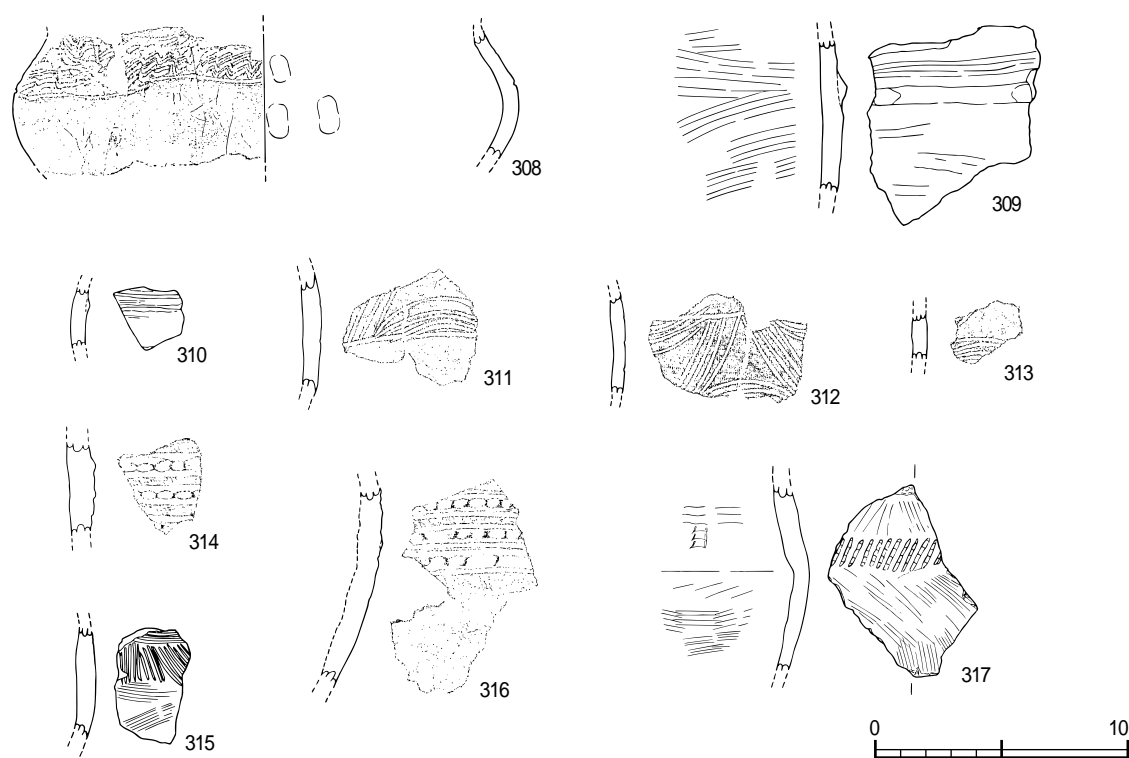


Fig.33 包含層出土遺物実測図2

いて土坑を1基検出した。南端部は削平されている。長さ約3.7、短軸約0.95（推定残存幅）の規模を測る。南西方向から北東方向に向かい傾斜しているため短軸方向の残存状況は悪い。床面も平坦ではなく、凹凸が激しい。埋土は2層に分層することができ、下層は炭化物層である。また、床の一部は被熱により赤色化している部分が認められる。弥生土器と考えられる土器片が少量出土しているが、壺ノ谷窯址群の中で報告されている焼土遺構と類似しており、神ヶ谷窯跡に付随する遺構と考えられる¹。

調査区中央部やや東寄り（C-11区）において溝跡を検出した。出土遺物は皆無であり、時期については不明である。

B-10区で小規模であるが土器集中部を検出した。

3) 包含層出土遺物 (Fig.32~37)

300は深鉢である。口唇部は面をなす。口縁部外面のやや下がった位置に刻目突帯を貼付する。内外面には条痕調整を施す。外面には煤が付着する。301は深鉢である。口縁部外面のやや下がった位置に刻目突帯を貼付する。また、頸部にも縦方向に刻目突帯を貼付する。内外面には条痕調整を施す。

302は遠賀川系の甕である。口縁部は如意状に外反し、口唇部全面に刻目を施す。外面には煤が付着する。内面はナデ調整を施す。305は遠賀川系の甕である。胴部はやや膨らみ、口縁部は如意状に外反する。内外面はハケ調整を施す。口唇部にはシャープが刻目が施される。外面には煤が付着する。306は遠賀川系の甕である。口縁部は如意状に外反し、口唇部に刻目を不規則に施す。

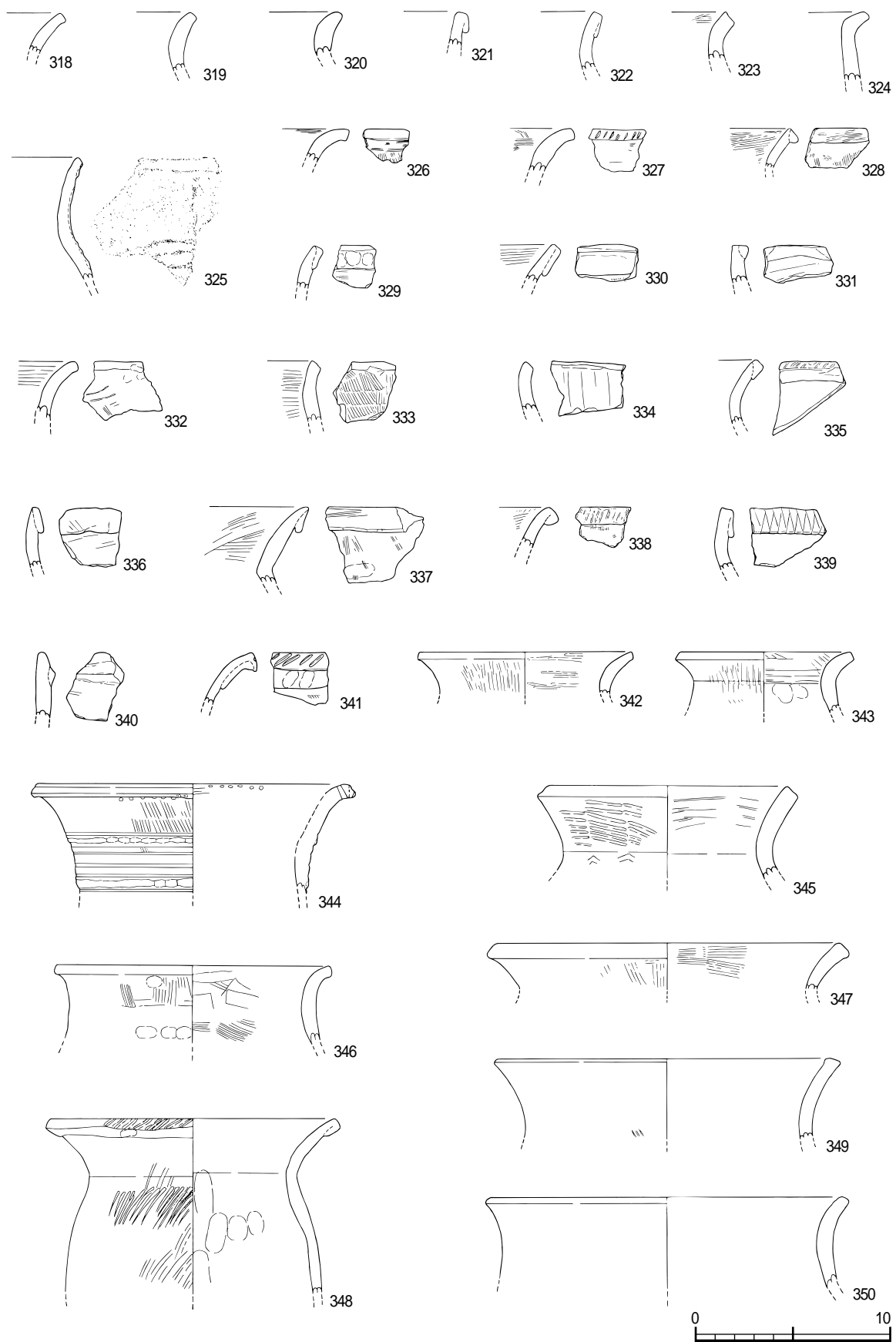


Fig.34 包含層出土遺物実測図3

内外面ともナデ調整である。外面には煤が付着する。307は遠賀川系の甕である。口縁部は如意状に外反する。外面には煤が付着する。口唇部全面に刻目を施す。

308は壺の胴部である。乱れた櫛描波状文を施す。外面には煤が付着しており、依然として器種分化が明瞭には行われていない。

325は甕である。肩部から口縁部にかけて緩やかに外反する。口縁部外面に突帯を2条、頸部外面に2条1単位の突帯を縦方向に貼付する。また、肩部外面に3条以上の突帯を貼付する。外面には煤が付着する。

337は口縁部片である。口縁部外面に幅約15、厚さ約4の粘土帯を貼付する。口唇部は鋭角をなす。内面はヨコハケ調整を施す。外面には煤が付着する。340は口縁部片である。口唇部は丸くおさめる。口縁部のやや下がった位置に断面三角形の突帯を貼付する。341は口縁部片である。口縁部外面に幅約16、厚さ約3の粘土帯を貼付する。口唇部を強いナデ調整により拡張させ、

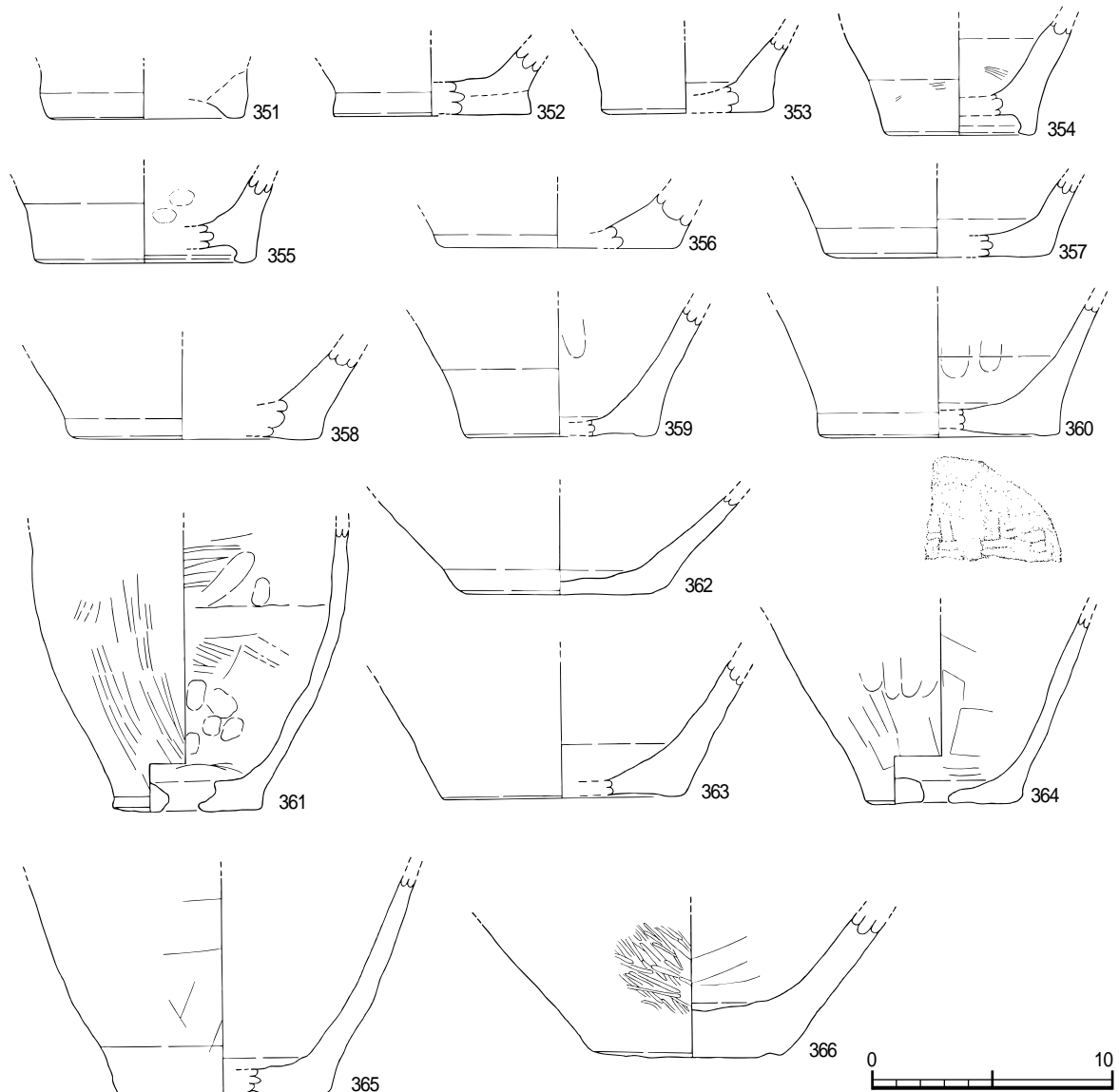


Fig.35 包含層出土遺物実測図4

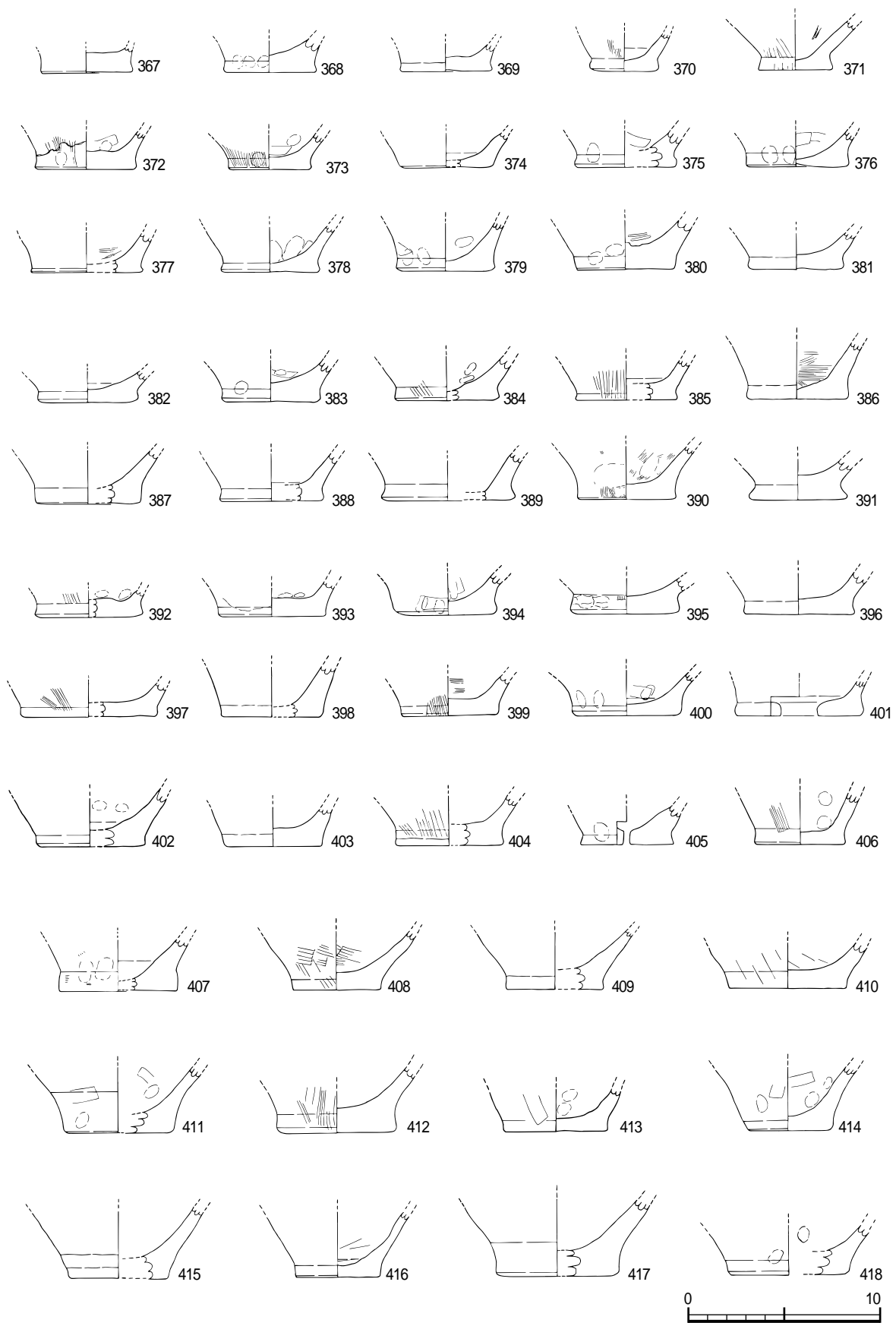


Fig.36 包含層出土遺物實測圖5

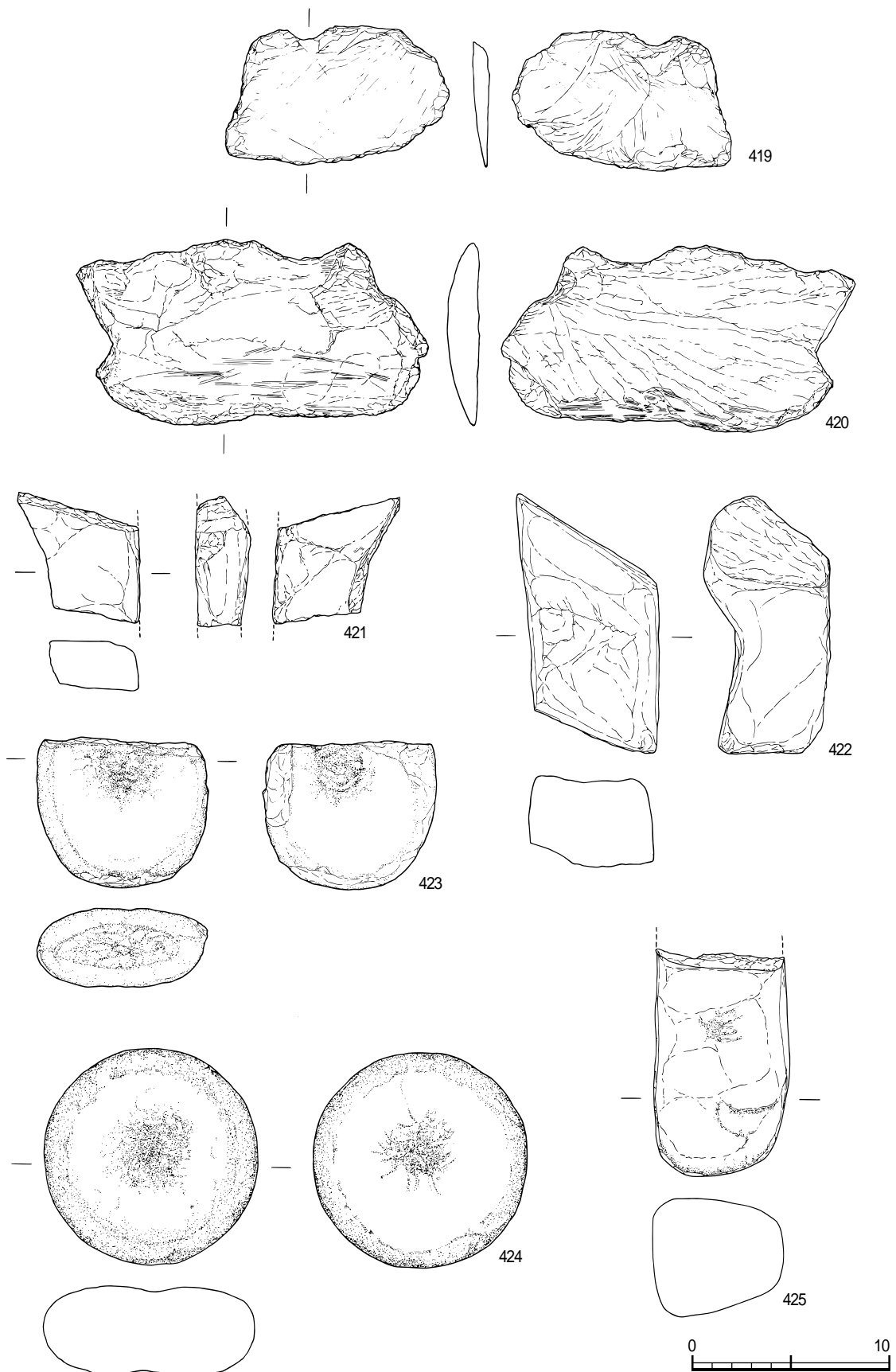


Fig.37 包含層出土遺物実測図6

列点文を施す。343は口縁部片である。口唇部は面をなし、外面はタテハケ、内面はヨコハケ調整を施す。344は壺である。外面はタテハケ調整後、沈線を施し、刻目突帯を貼付する。口唇部外面に刻目突帯を貼付する。また、刻目突帯直下に6孔1単位に穿孔する。高知平野からの搬入と考えられる。346は口縁部片である。口唇部は面をなす。内面はハケ調整を施す。347は口縁部片である。口唇部は面をなす。内面はヨコハケ、外面はタテハケ調整を施す。348は肩部から口縁部は緩やかに外反する。口縁部外面に幅約7、厚さ2の粘土帯を貼付する。口唇部には列点文を施す。肩部にも列点文を施す。349は口縁部片である。口唇部は平坦面をなす。内外面とも擦痕が残る板ナデ調整を施す。420は石包丁である。刃部を磨きにより作り出す。

【註1】

浜中有紀 2000年「第5章 第4節 焼土遺構」『壺ノ谷窯址群・桑ノ内遺跡』
佛教大学校地調査委員会

第 章 まとめ

1. 神ヶ谷窯跡出土須恵器について

1) 形態分類

蓋：焼け歪みにより本来の形態を把握することはできないが、概ね平坦な天井部から口縁部が大きくひらき、全体として扁平である。また、天井部中央に扁平で中央部がやや突出するつまみを付す。法量分化が認められる。以下では形態および法量により大きく3類に分類する。

類：蓋のうち口径約18 の大型品である。天井部外面の調整手法により細分をおこなう。

a類：天井部外面に回転ヘラケズリを施すもの。

b類：天井部外面はナデ調整後、断続ヘラケズリ調整を施すもの。

類：蓋のうち口径約12 の小型品である。口縁端部の形態により細分をおこなう。

A類：口縁端部をつまみ出すもの。

B類：口縁端部内面に沈線を巡らせるもの。

C類：口縁端部内面に凹線を巡らせるもの。

D類：口縁部端部を丸くおさめるもの。

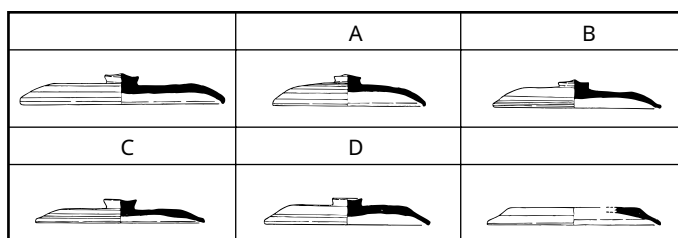


Fig.38 須恵器蓋形態分類図

類：器壁の厚い平坦な天井部から口縁部が外下方に下がり、口縁端部を丸くおさめる。全体の形態を復原できる資料は出土していない。

杯A類：底部から口縁部は外上方に立ち上がる。底部外面の調整により、2種に細分できる

A a類：ヘラ切り後、丁寧なナデ調整を施すもの。

A b類：ヘラ切り痕跡が明瞭に残存するもの。

杯B：高台付き杯である。法量により2種類に細分できる。

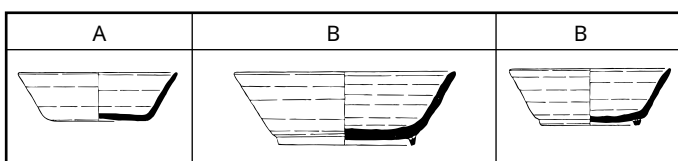


Fig.39 須恵器杯形態分類図

杯B 類：口径約17 を測る大型のものである。

杯B 類：口径約12 を測る小型のものである。

皿A類：底部外面の調整により、2種に細分できる。

A a類：ヘラ切り後、丁寧なナデ調整を施すもの。

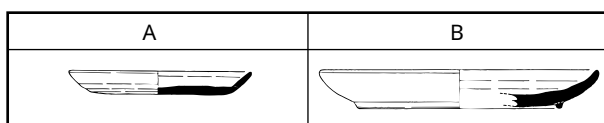


Fig.40 須恵器皿形態分類図

A b類：ヘラ切り痕跡が明瞭に残存するもの。

皿B類：高台が付くもの。

壺A類：底部には高台が付く。大きく張る体部から口縁部が短く直立するもの。

壺B類：細い頸部で口縁部がひらくもの。

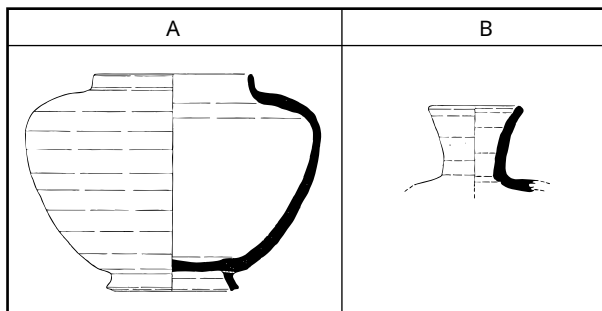


Fig.41 須恵器壺形態分類図

鉢A類：口縁部が内湾気味に立ち上がり、口が付くもの。

鉢B類：底部には高台が付き、口縁部が内湾気味に立ち上がる。

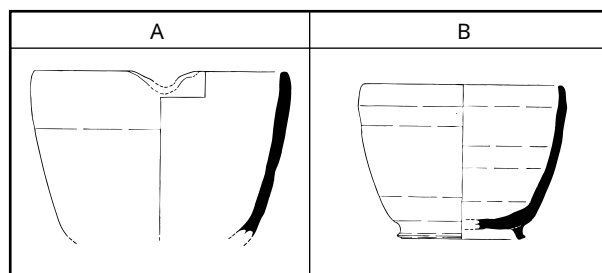


Fig.42 須恵器鉢形態分類図

高杯：脚部は短く、端部が大きく「八」の字にひらくもの。

2) 基礎分析

1) で行った形態分類をもとに組成比率、法量分布など基礎分析をおこなっていく。

まず、全体の組成比率は杯蓋 が13%、杯蓋 が14%、杯Aが

37%、杯B が6%、杯B が11%、皿Aが10%、皿Bが1%、壺A が1%、壺Bが1%、高杯が4%を占める¹。杯Aが最も多くを占める。蓋と杯Bの関係をみると、蓋と杯B はほぼ同量であるが、蓋 に対して杯B は半数以下である。

杯B・蓋における法量分布を示した²。杯B では口径16.6~18.7、器高5.1~5.9の範囲におさまり、杯B では口径11.0~12.4、器高4.0~4.6の範囲におさまる。蓋外面の調整手法につ

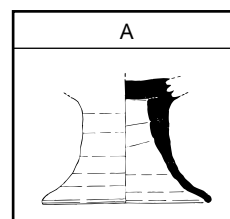
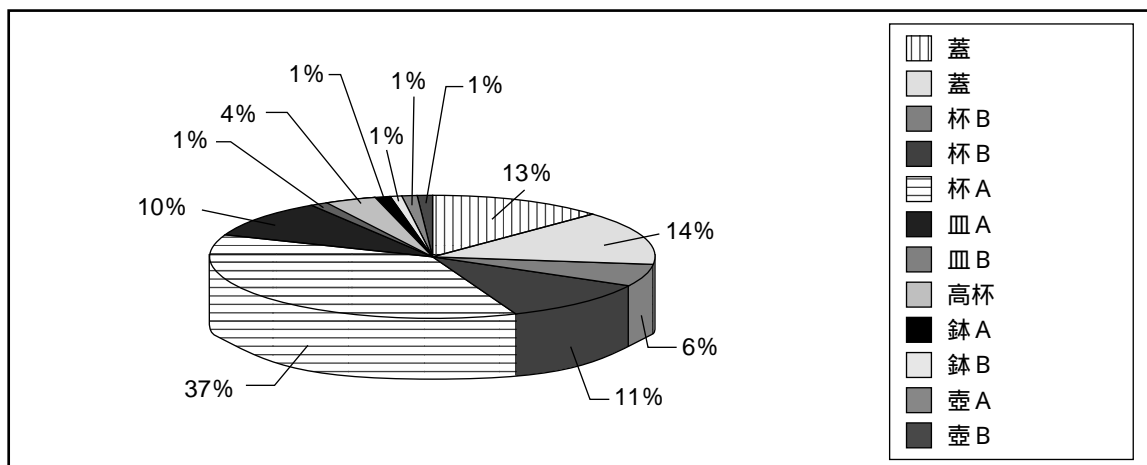


Fig.43 須恵器高杯形態分類図

Tab.1 器種組成比率



いてみると、蓋 類では上述のように a 手法・ b 手法に分類可能である³。 a 手法は50%、 b 手法は50%である。

蓋 類は、全体の形態が判明するものではなく、天井部につまみが付くかどうかは不明である。この形態と同形態のものが以下で述べる鹿々場窯跡の資料に含まれている。一方、県中央部ではみられないことから、県西部の独自の器形である。

杯 A では口径12.0~16.8、器高3.3~4.7 の範囲におさまる⁴。 a 手法が73%、 b 手法が27%である。また、火襷痕跡が認められるものが多く、窯詰め的一端を窺うことができる。

皿では口径13.8~16.8、器高2.1~2.8 の範囲におさまる⁵。皿では a 手法が71%、 b 手法が29%である⁶。器種を越えての手法比率が一致することは興味深い。

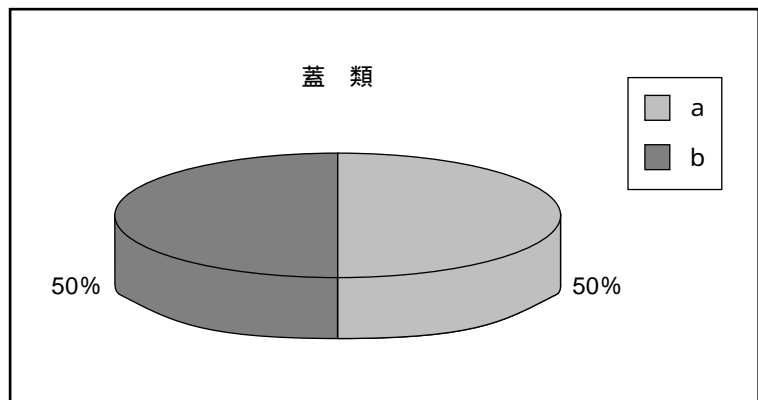
3) 編年的位置付け

下ノ坪遺跡出土土器をもとに県下を視野に入れた編年が組まれている⁷。そのなかで、県西部は西南1~6期に編年されている。これらの成果と対比することで神ヶ谷窯跡出土須恵器の編年的位置付けをおこなっていきたい。

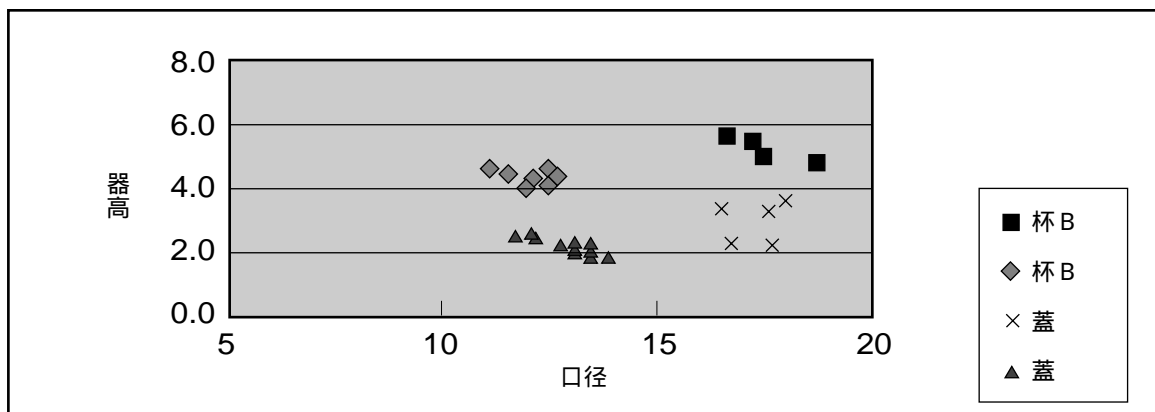
須恵器を中心にみていくと、
 現する。皿 A では口縁端部内面に凹線を施すものが主流を占めることなどが特徴となっている。 - 5期では - 4期に比べ手法の省略が認められ、杯皿では底部外面にヘラ切り痕跡が残存するものが目立つようになる。神ヶ谷窯跡出土資料は形態などの特徴から概

- 4期では杯蓋の天井部外面をナデ調整のみで仕上げるものが出

Tab.2 蓋 類手法別比率

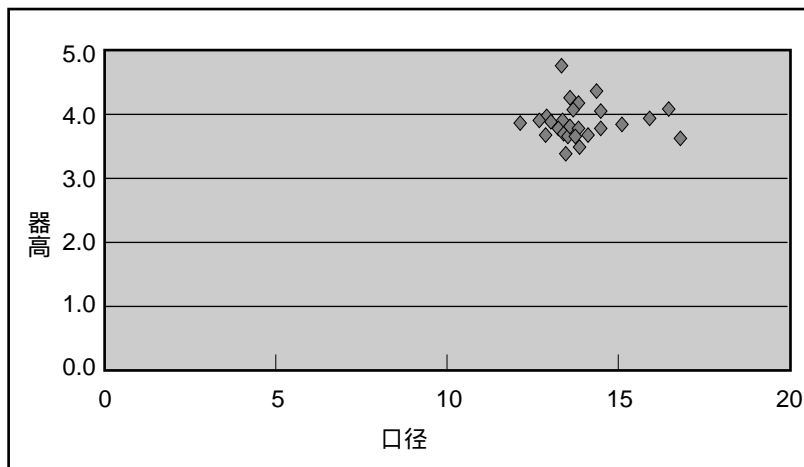


Tab.3 蓋・杯 B 法量分布図

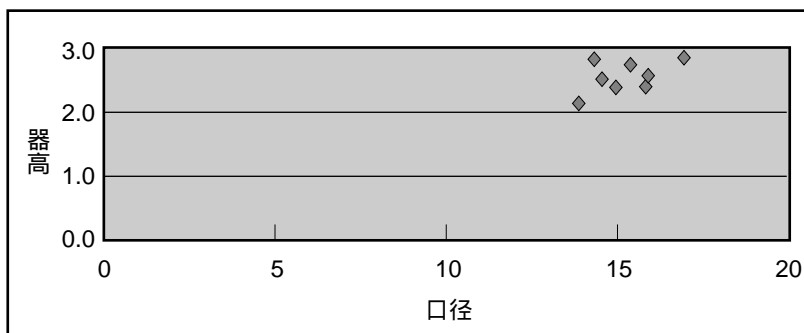


ね中央部 - 4・5期に併行するものと考えられる。形態的には - 5期の特徴と類似する杯蓋についてみると外面にヘラケズリを施すものは高知平野では例外的であるのに対し、神ヶ谷窯跡出土資料では半数を占めているなど、高知平野とはやや様相が異なる。

Tab.4 杯A法量分布図



Tab.5 皿A法量分布図

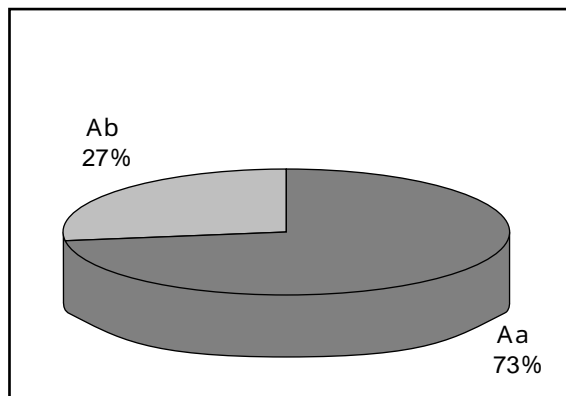


4) 爪形状圧痕について

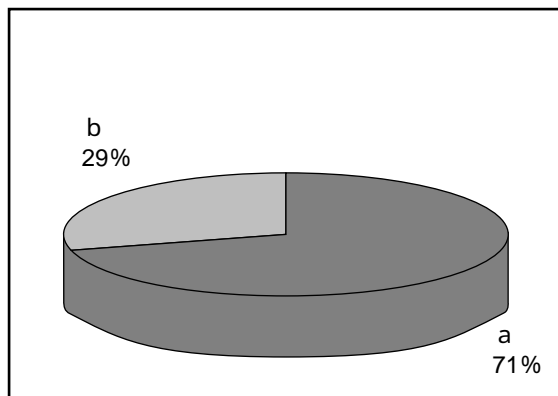
神ヶ谷窯跡から出土したほとんどすべての杯Bの底部外面に爪形状圧痕が認められる。爪形状圧痕は製作技術、工人レベルまでを含めた製作集団の問題についても迫ることができるものである⁸。高知県下でも、福井遺跡（高知市）で僅かではあるが爪形状圧痕を施した須恵器が出土している⁹。

当窯跡出土資料をみると、爪形状圧痕は高台に沿いめぐり、その間の長さはほぼ一定である。また、全周が判明しているNo.52・No.168・No.169・No.211をみると、はっきりとした爪形状圧痕が全周にわたり残存しているものはなく、一部は不明瞭であるかあるいは認められない部分が存在する。この部分には高台の粘土紐の貼り始めと貼り終わりの接合痕跡が認められるものがある。以上のことから爪形状圧痕は高台貼り付け時に付いたものと考えられる。

Tab.6 杯A手法別比率



Tab.7 皿手法別比率



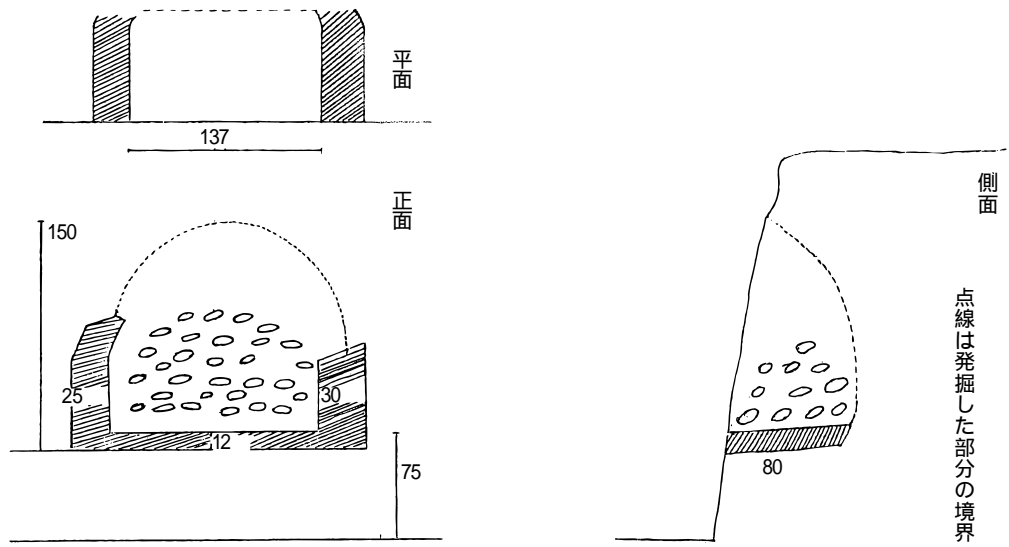


Fig.44 鹿々場窯跡実測図（大方町史から転載。）

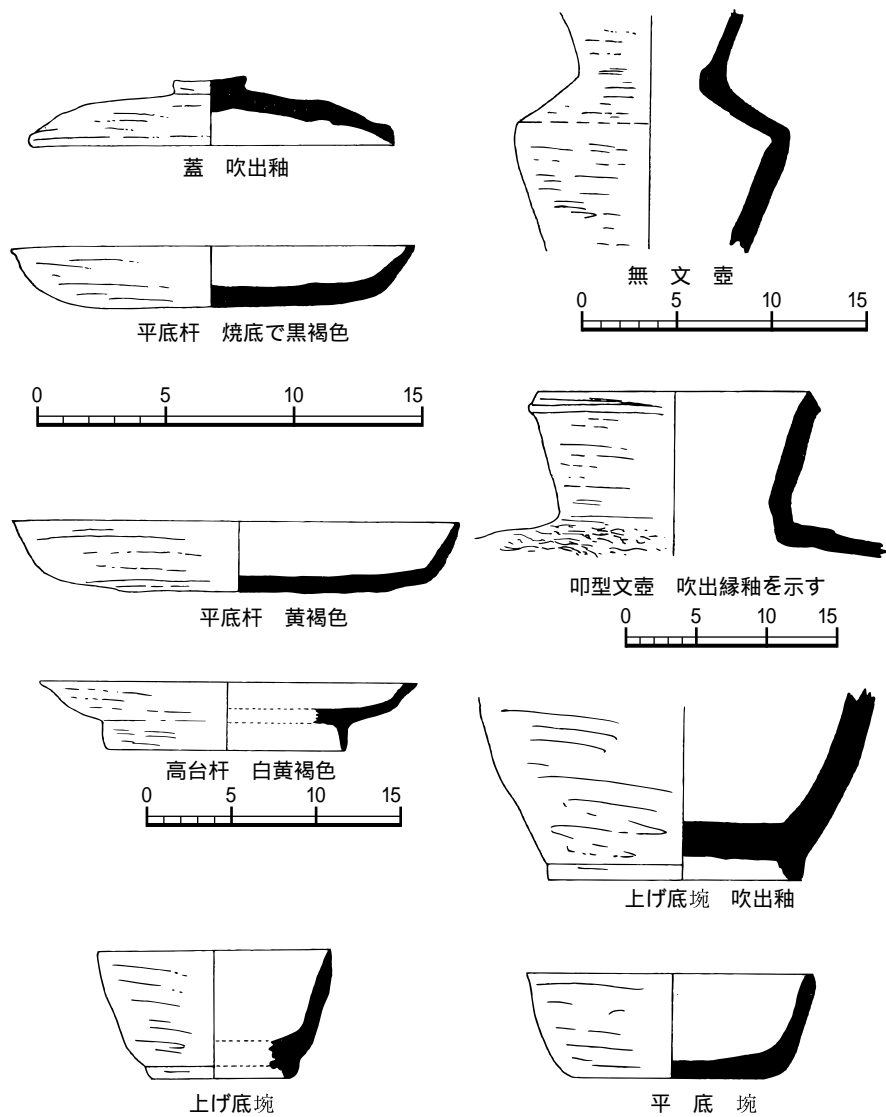


Fig.45 鹿々場窯跡出土遺物実測図（大方町史から転載。）

上述で述べたように、神ヶ谷窯跡から出土する杯Bのほとんどすべてに爪形状圧痕がみられることは今後周辺部の流通を考えると有益な指標の一つとなりうるであろう。

ししばかまあと
5) 鹿々場窯跡

同じ幡多郡内に存在する鹿々場窯跡について表採資料とともに紹介し、神ヶ谷窯跡との関連について若干述べてみたい。鹿々場窯跡は幡多郡内では古くからその存在は知られており、昭和40年に発掘調査が実施され調査報告書も刊行されている¹⁰。約4基の窯跡の存在が推定されており、そのうちの1基の床幅が137の規模を有していたようである。出土遺物の実測図ものせられているが、若干の時期幅があると考えられる。

今回紹介する資料は窯跡直下の素掘りの水路で表採したものである。現況はキウイ畑として利用されており、窯跡・灰原の残存状況は不明である。また、開墾のため詳細な地形についても不

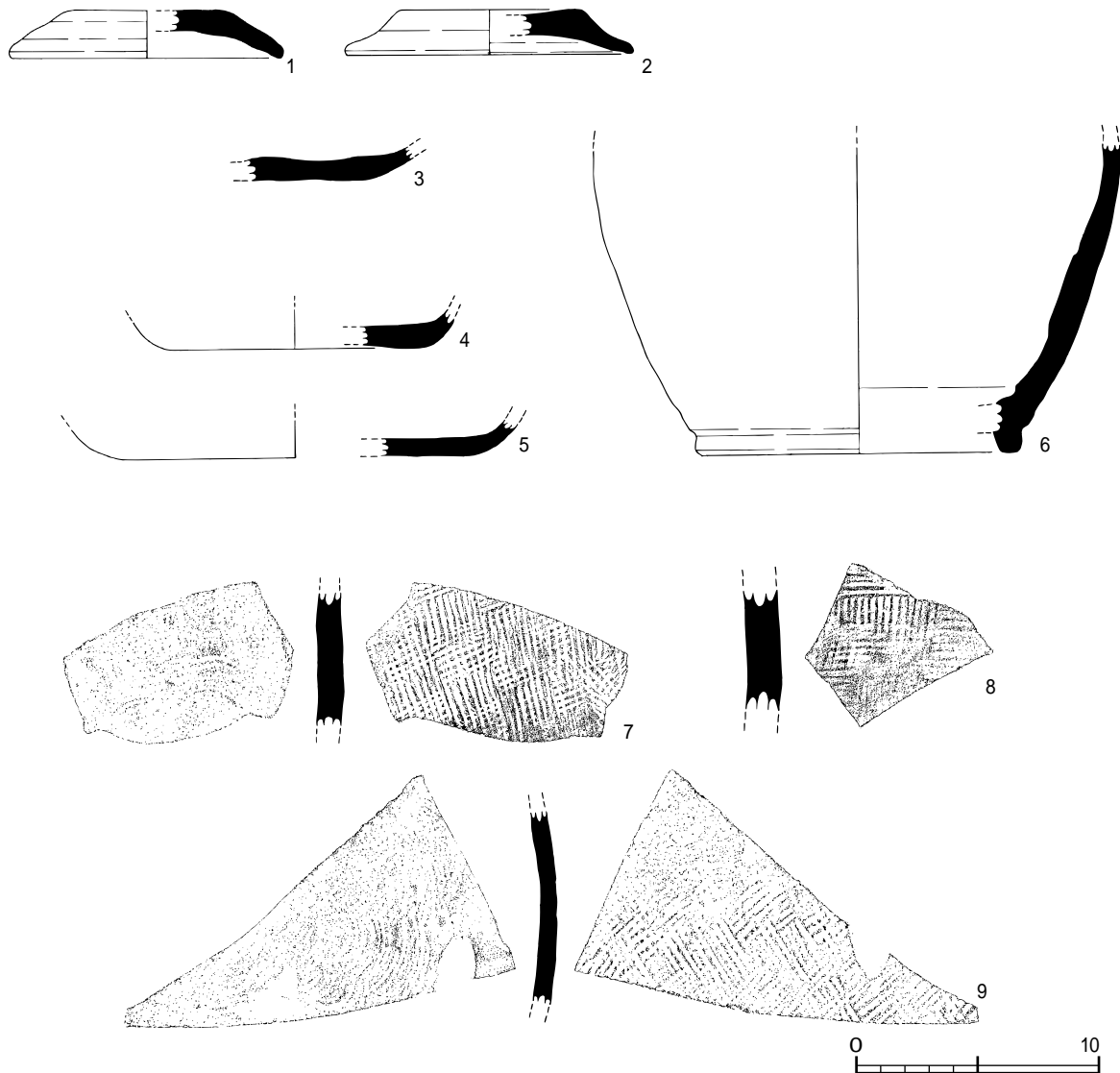


Fig.46 鹿々場窯跡表採遺物実測図

明であるが、現況では北東方向に入った谷地形の東側斜面に築かれている。

表採資料は水路中に埋没していたため、表面に鉄分が吸着しており成形技法、調整手法の詳細な観察は困難である。以下では形態を中心に述べる。1・2は蓋である。1は平らな天井部から口縁部がやや丸味をもつてのびる。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部内面に1条の凹線が巡るか、あるいは若干垂下する可能性がある。つまみの有無は不明である。全体的に器壁が厚い。2は器壁が厚く扁平な天井部から口縁部は短く大きくひらき、端部は丸くおさめる。口縁部内面に凹線が巡ると考えられる。口縁部外面は回転ナデ調整を施す。天井部にはヘラ切り痕跡が微かに残る。つまみの有無は不明である。

3～5は杯あるいは皿と推定される。3は平らな底部から口縁部が大きくひらく。底部外面にはヘラ切り痕跡が認められる。若干焼け歪む。4は底部から口縁部が丸みをおびながら立ち上がる。底部内面にはナデ調整を施す。5は平らな底部から口縁部が大きくひらく。底部内面にナデ調整を施す。

6は高台付き鉢である。底端部に断面形が台形のしっかりとした高台がつく。若干焼け歪む。

7～9は甕である。7は外面には叩き痕跡が、内面には当て具痕跡がうっすらと残る。8は器壁が1.4と厚い。また、外面には叩き痕跡が残るが内面は丁寧にナデられており、当て具痕跡は見られない。9は外面には叩き痕跡が、内面には当て具痕跡が明瞭に残る。二次的被熱による剥離と推定される痕跡が認められる。

窯構造については比較することはできないが、須恵器を比較した場合、蓋類にみられるようにその関連を認めることができ、郡単位での須恵器生産を想定することができる。

【註】

- 1 個体数は口径・底径の残存率を12分割で計算した。端数については切り上げてカウントした。
- 2 歪んでいる個体が多いため、限られた資料での法量分布図となってしまった。杯Bと蓋はともに大型のもの(類)と小型のもの(類)に分類できる。蓋類と杯B類、蓋類と杯B類はそれぞれ対応する。杯Bでは66・68・168・169、杯Bでは73・210～213・216を対象としてグラフ化を行った。蓋では136・145～147・149、蓋では12・70・71・180・186～190・193・194を対象としてグラフ化を行った。
- 3 a・b手法の判別に困難な資料があった。
- 4 25・28・31・35・81・83・86・89・91～95・97・100・104・105・113・231・233・237・239～242・245・247・249・250・253を対象としてグラフ化を行った。
- 5 11・38・120・125・128・257・265・271を対象としてグラフ化を行った。
- 6 底径を12分割した残存率で計算し、端数は繰り上げて計算した。尚、図化しなかったもので手法が判別できる破片資料についても、同様に計算した。
- 7 池澤俊幸 1998.3「3.南四国における古代前期の土器様相 - 下ノ坪遺跡の成果を中心として -」『下ノ坪遺跡』高知県野市町教育委員会
- 8 檜崎彰一・荻野繁春・高木洋 1981年『老洞古窯跡群発掘調査報告書』岐阜市教育委員会
林日佐子 1983年「いわゆる「爪形状圧痕」について」『マムシ谷窯址発掘調査報告書』同志社大学校地学術調査委員会・國下多美樹 1992年「「爪形状圧痕」を有する須恵器」『京都考古』第67号
- 9 江戸秀輝・坂本憲昭 1999年『福井遺跡』高知県埋蔵文化財センター
- 10 報告書を確認することができなかったため『大方町史』を参考にした。

2. サンナミ遺跡出土の土器について

1) はじめに

前述のようにサンナミ遺跡から出土した土器には一括性が認められず、弥生時代前期から後期にかけてのものが出土している。以下では、これらの土器について、周辺の資料と比較を行い編年的位置づけをおこなっていく。

2) 前期中葉

遠賀川系の壺・甕が出土している。壺は重弧文を施したものである（No.311～313）。甕は口唇部の全面に刻目を施す。上胴部はすべて無文である。県西部では前期を通して沈線を施さないものが多くを占める¹。底部外面に網状の圧痕が認められ（No.360）類例として西ノ谷遺跡²、具同中山遺跡群³を挙げることができ、これらの共伴土器から弥生前期中葉から末に比定でき、この時期の特徴である。

No.300・301・303・304は縄文時代晩期系の深鉢である。全体の形状は復元することはできないが、口縁部は直線的にひらく。口縁部のやや下がった位置に刻目突帯を貼付する。また、縦方向の刻目突帯を貼付する。No.355の胎土がこれらと類似することから、底部は上げ底であった可能性がある。調整は条痕調整を施している。前期末に比定されている西ノ谷遺跡出土資料には条痕調整を施すものは出土しておらず⁴、前期中葉段階で条痕調整は消滅するものと推定される。

これらの諸特徴及び周辺の調査資料を考慮に入れ、ここでは前期中葉に位置付けておく。

石器ではNo.420の石包丁が伴うと推定される。いわゆる大陸系磨製石器は出土しておらず、県西部の特徴である。

3) 前期末から中期初頭

No.314・316・344等は高知平野では一般的にみられる壺である。No.325は頸部から口縁部にかけて緩やかに外反し、頸部・肩部に微隆起突帯を貼付する甕である。突帯の刻目の有無、条数を除けば具同中山遺跡群出土資料⁵と形態、突帯の配置パターンが類似し同一の系譜で捉えることができる。断面三角形の突帯から微隆起突帯への過渡的様相として位置付けることができる。

4) 中期前半

No.308は櫛描き波状文を施した壺である。櫛描き波状文は県西部では初例である。壺形土器であるが、外面に煤が付着しており依然として器種区分が明瞭に行われていない。この他に図示はしなかったが、半載竹管で粗い波状文を施したものも出土している。

5) 中期末から後期前葉

348は口縁部外面に粘土帯を貼付されているもので、粘土帯の特徴から幅広扁平貼付突帯であり、中期から後期前葉に位置づけられている⁶。形態などからいわゆる西南四国型甕形土器の一連の系譜で追えることができ、県西部での終焉状況と把握できる。

その他に、詳細な時期決定はできないが、No.317・No.361・No.364・No.426は調整、胎土の特徴が類似しており、同一時期であると考えられる。

6) まとめ

以上、サンナミ遺跡出土土器を検討した結果、前期中葉・前期末から中期初頭・中期前半・中期末から後期前葉の4時期にわけることができたが、位置付けることができなかった資料も多くあった。併せて各時期とも包含層資料という資料的制約などから不確定な要素が多いことも記しておく。

器種構成については高杯、鉢が欠落し、壺形土器についてもセット関係としては不明瞭さが残る。弥生時代前期の県西部と高知平野とでは土器様式の構造差が指摘されているが、後期にいたっても解消されずその差が顕著である。

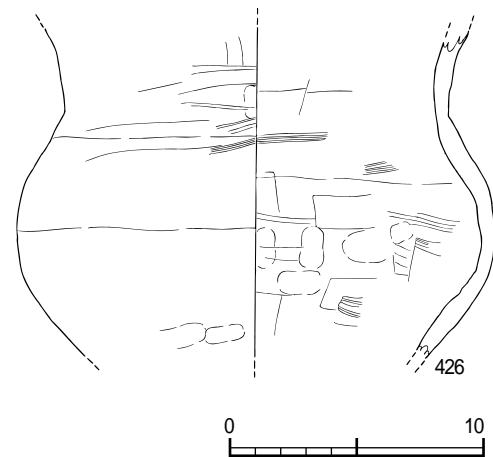


Fig.47 サンナミ遺跡包含層出土遺物実測図7

【註】

- 1 出原恵三 1993年「第 章 考察 1.弥生時代前期後葉の土器」『西ノ谷遺跡』高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 2 出原恵三・曾我貴行 1993年『西ノ谷遺跡』高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センター-Fig.25-72
- 3 山崎正明他 1997年『具同中山遺跡群』高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センター-Fig.55-No.298
- 4 前掲書註1
- 5 山崎正明他 1997年『具同中山遺跡群』高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センター-Fig.54-No.288
- 6 柴田昌児 1998年「南予地域における弥生土器の地域色」『保内町の遺跡 遺跡詳細分布調査報告書』
- 7 出原恵三 「第 章 考察 1.弥生時代前期後葉の土器」1993年『西ノ谷遺跡』高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センター

付 編

付 編 1

神ヶ谷窯跡および船戸遺跡出土須恵器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻 利一

1. はじめに

元素分析による古代土器の産地推定法の基本は元素濃度の比較にある。

通常、1トンの岩石を分析すると全元素が含まれているといわれる。粘土は岩石が風化して生成したものである。完全粘土の化学式は $Al_2O_3 \cdot mSiO_2 \cdot nH_2O$ で与えられる。Al、Si以外に多くの元素が含まれることは蛍光X線分析や放射能分析で証明されている。全国何処の粘土、土器を分析しても、岩石と類似した蛍光X線スペクトルと線スペクトルが観測され、母岩中の残渣鉱物が微粒子となって残存していることを示している。残渣鉱物中に含まれている元素が地域差を示す訳であるが、測定法によっては感度が元素によって異なり、含有量が少なかったり、感度の悪い元素は検出されないことになる。したがって、粘土中に含まれる元素のうち、限られた元素だけが分析されることになる。

さらに、古代土器の産地問題の研究のように、大量の資料の分析が必要な研究では、所謂、ルーチン分析法が採用されることになり、小さなピークは捨てられる。短時間（例えば、数分間測定）で正味の強度として1000カウント以上観測される元素のみが拾われる。そうすると、蛍光X線分析でも、放射能分析でも、測定できる元素は10元素以下程度にしばられることになる。

さらに、これらの元素の中で地域差を有効に示すことが立証された数元素が産地問題の研究のデータ解析に採用されることになる。有効因子の抽出作業には全国各地の窯跡出土須恵器が絶好の分析対象として使用された。全国各地には多数の須恵器窯があるから、窯跡出土須恵器の分析作業には、10年を越える長い年月がかかる。この結果、抽出された元素がK、Ca、Rb、Srの4元素である。しかも、これら4元素は造岩鉱物中でもっとも重要な鉱物である長石類中に含まれる元素である。

日本列島の基盤を構成する花崗岩類もこれら4元素で地域差があることは筆者の分析データで示されている。花崗岩類の主要な構成鉱物は長石類、石英、黒雲母、角閃石、輝石であり、この中の最重要鉱物が長石類である。

K、Ca、Rb、Srの4元素だけが地域差を示すという訳ではないが、古代土器の産地問題の研究のように、広い地域にわたって、しかも、長い期間にわたって製作された土器の産地を元素分析法で追跡していく上には、地域差をよく表示する少数の元素を使用する方が有利である。こういう考え方から、筆者はこれら4元素を中心にデータ解析を進めることになった。微量元素も含めて他の元素については、当該地域間で地域差を有効に示すことが示された段階で使用することになっている。

以上のような基礎研究のデータを背景にして、ここでも、K、Ca、Rb、Srの4因子を中心にデータ解析を行った。

2 . 分析法

須恵器小片は表面を研磨して自然灰釉等の付着物を除去したのち、タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉碎された。

粉末資料は塩化ビニール製リングを枠にして、高圧をかけてプレスし、内径20、厚さ5の錠剤資料を作成した。錠剤資料は資料ホルダーに固定され、自動資料交換機の台上に48個並べられた。

完全自動式蛍光X分析装置（波長分散型）を使用して、蛍光X線強度を測定した。測定は48試料を1セットとして行う。その中の1個は岩石標準試料、JG - 1である。JG - 1中にはKとCa量、RbとSr量がバランスよく含まれており、これら4元素を同時に定量分析するには最適の標準試料である。

また、JG - 1を毎日測定することによって、各元素の蛍光X線強度の一定性から、装置自身の安定性を確認することもできる。

このように、JG - 1は定量分析のための標準試料であるとともに、装置の安定性を確認するためのモニターとしての役目も併せもつ。

そのため、分析値はJG - 1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化した値で表示することにした。この値を使って比較することによって、窯跡出土須恵器の地域差を求めることができる。同じ胎土であれば、4元素の標準化値も同じになるはずである。

3 . 分析結果

表1には分析値がまとめられている。はじめに、神ヶ谷窯跡出土須恵器がまとまって分布するかどうかをみてみた。図1に両分布図を示す。K、Rb量のばらつきはCa、Sr量のばらつきに比べて大きい、それでも、神ヶ谷窯としてまとまることがわかる。もし、神ヶ谷窯の製品がある遺跡に供給されていたとすれば、その遺跡から出土した須恵器を分析すれば、両分布図で神ヶ谷領域に分布するはずである。

そこで、中筋川に沿って神ヶ谷窯跡から数キロメートル下流にある船戸遺跡から出土した須恵器を分析してみた。船戸遺跡からは神ヶ谷窯と同時期と推定される遺物が出土している。

図2には、船戸遺跡出土須恵器の両分布図を示す。K - Ca、Rb - Srの両分布図において神ヶ谷領域に対応するものは1点もないことがわかる。しかし、No.32、33、34、36、37（表1ではA群と分類してある。）の5点の須恵器は両分布図ではまとまって分布し、一群を形成する。つまり、同じ胎土をもった須恵器であり、同じ産地の製品と推定される。他方、No.31、35、38の3点は少しばらついて分布しており、同じ産地の製品かどうかはわからない。

両分布図からは今回分析した船戸遺跡の須恵器の中には神ヶ谷窯の製品は含まれていないことが明らかになったが、8点の試料のうち、5点は同一産地の製品であることがわかった。

次に、他の因子についても調べてみた。

図3には、Na因子を比較してある。神ヶ谷窯跡出土須恵器はNa因子でもよくまとまって分布することがわかる。そして、K - Ca、Rb - Sr分布図の場合と同様、船戸遺跡の須恵器の中には、Na

因子でも神ヶ谷領域に対応するものはないことがわかる。No.32、33、34、36、37の5点の試料はNa因子でもよくまとまることわかる。No.31、35の2点の須恵器はNa因子でも上記、5点の須恵器とは異なる胎土をもつことがわかる。

図4にはFe因子を比較してある。神ヶ谷窯跡出土須恵器はFe因子でもまとまることわかる。ところが、船戸遺跡の須恵器もNo.31、35を除いて他の須恵器は神ヶ谷窯の須恵器と同程度のFe量含有しており、Fe因子では両者は区別がつかない。Fe因子はこのような場合が多く、産地推定の研究ではK、Ca、Rb、Sr因子ほどの有効性はない。しかし、No.31の須恵器にはFe量が多く、他の須恵器から大きくずれて分布する。No.31は今回分析した試料の中では特別な胎土をもっており、外部からの搬入品である可能性を持つ。逆に、No.35、38の2点のK - Ca、Rb - Srの両分布図では比較的近接して分布しており、また、図3、4でもアンダーラインを引いてあるように、Na、Feの含有量も類似している。したがって、No.35、38は同一産地の製品である可能性もある訳である。そうすると、今回分析した船戸遺跡の須恵器は2～3ヶ所の製品が混ざっていることになる。その産地は何処かは目下のところ特定できないが、高知県内、あるいは、近隣地域の、同時期の窯跡および遺跡出土須恵器の分析データを集積していく過程で対応する産地が求まるであろうし、各遺跡への須恵器の供給の状況がわかるものと思われる。今後の課題としたい。

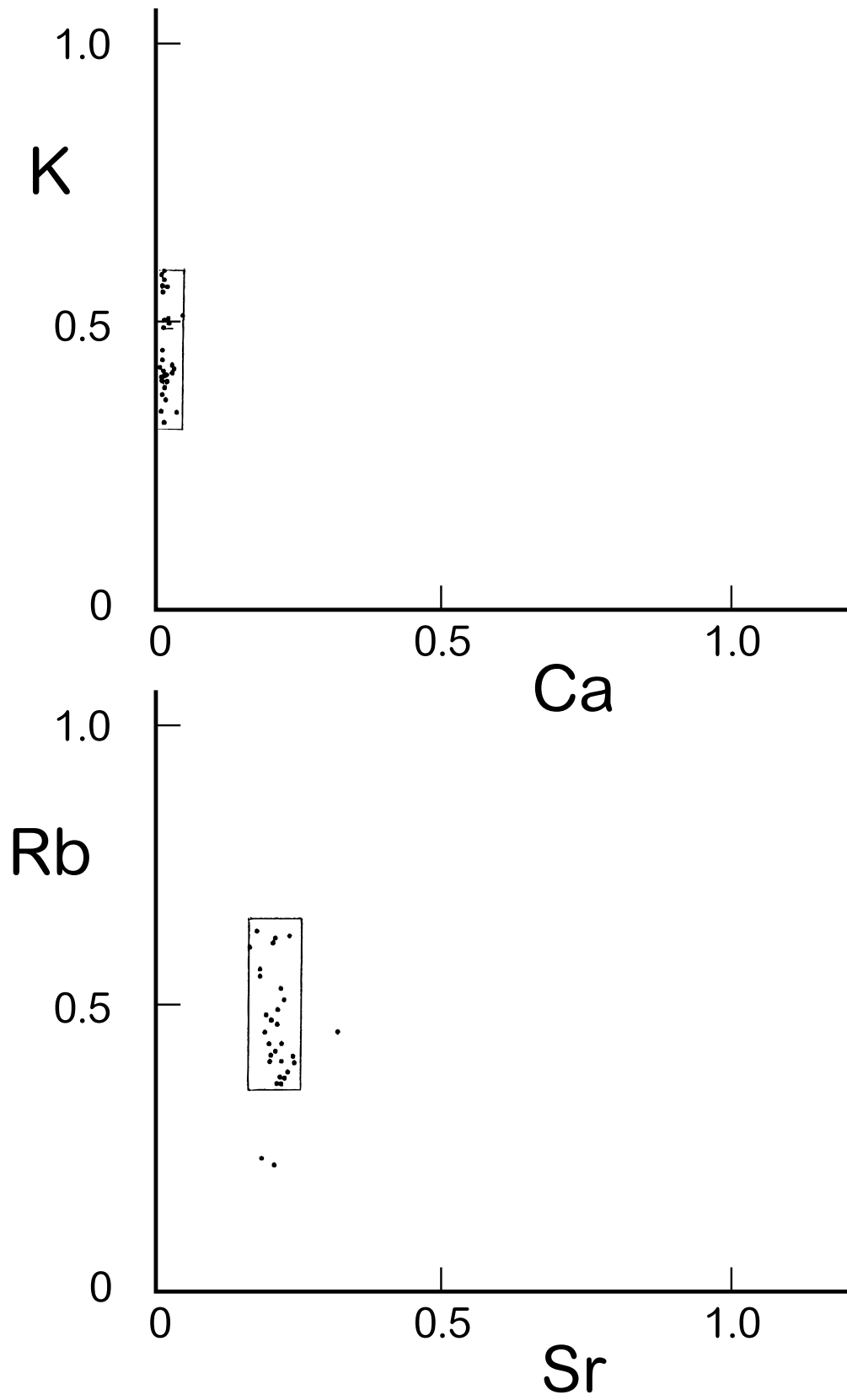


図1 神ヶ谷窯跡出土須恵器の両分布図

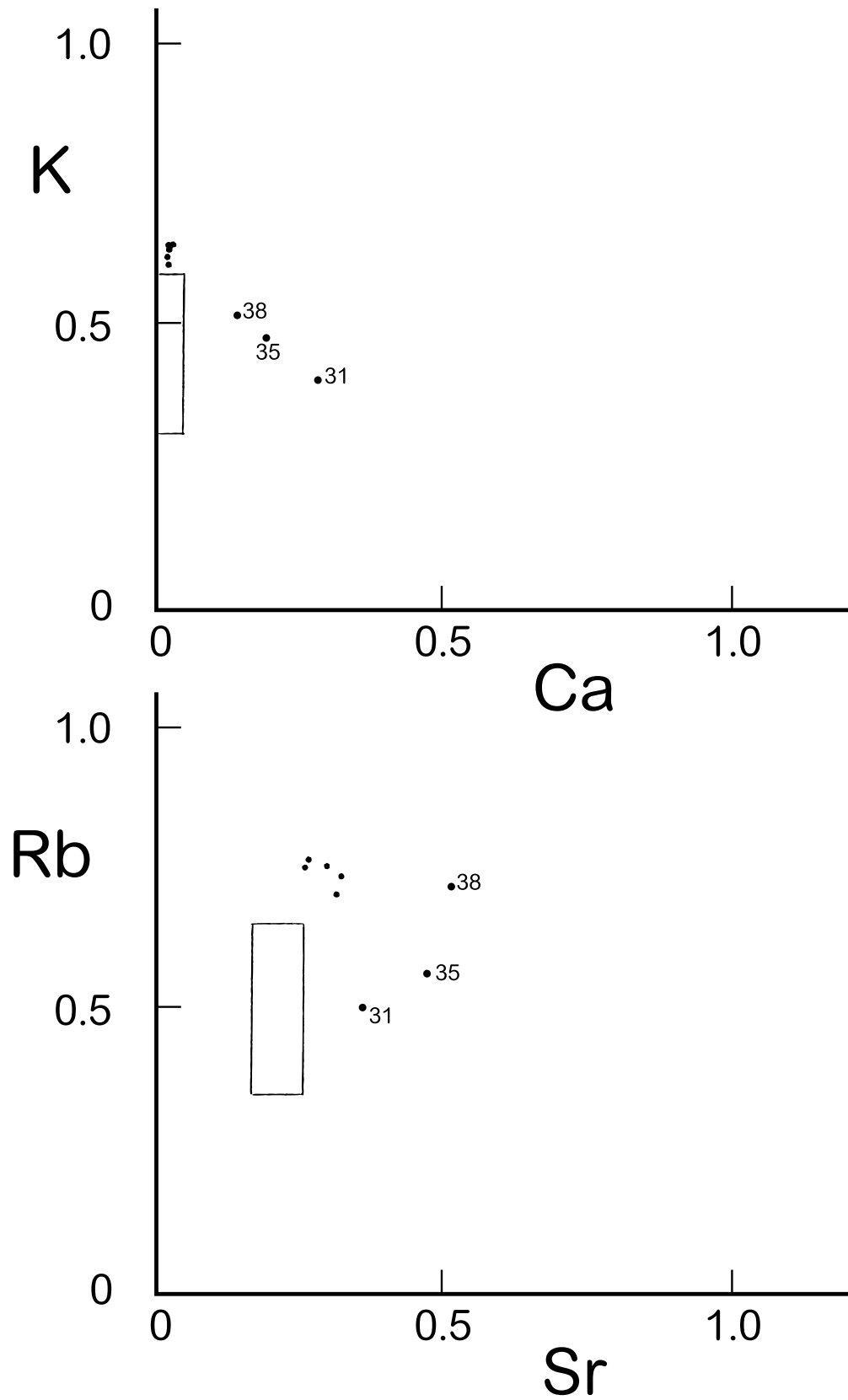


図2 船戸遺跡出土須恵器の両分布図

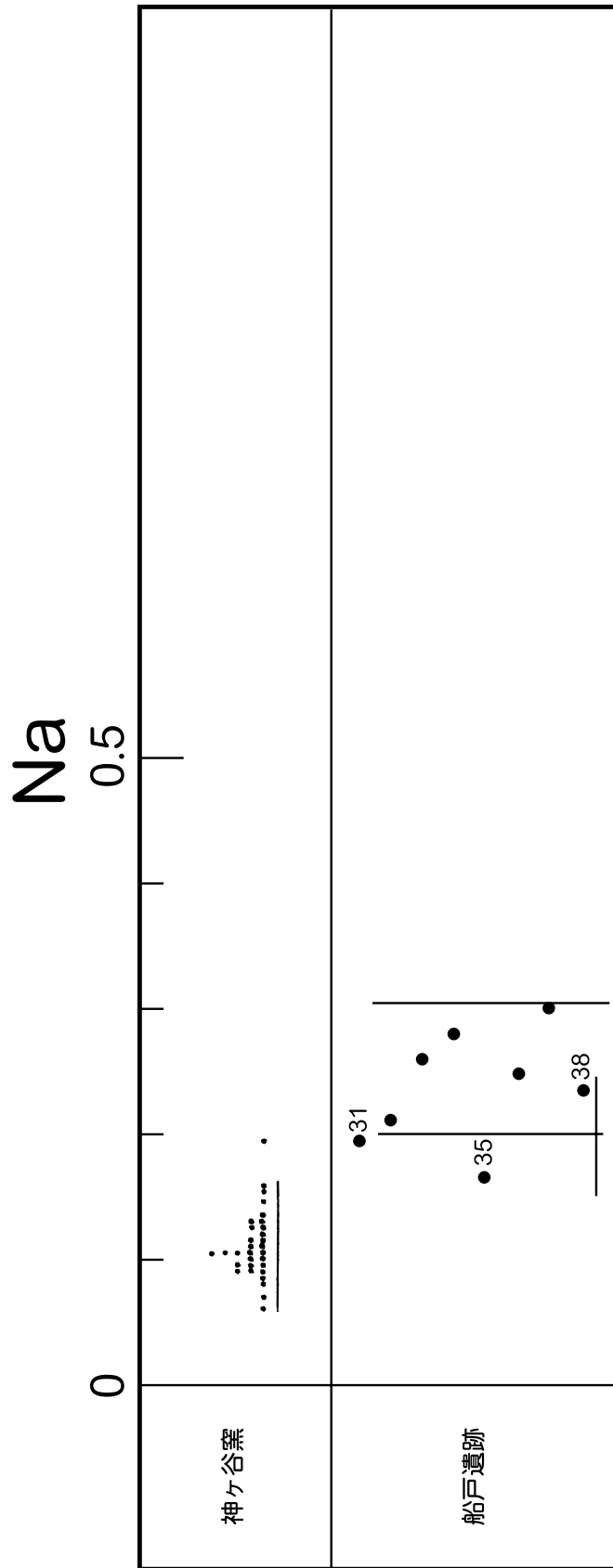


図3 Na因子の比較

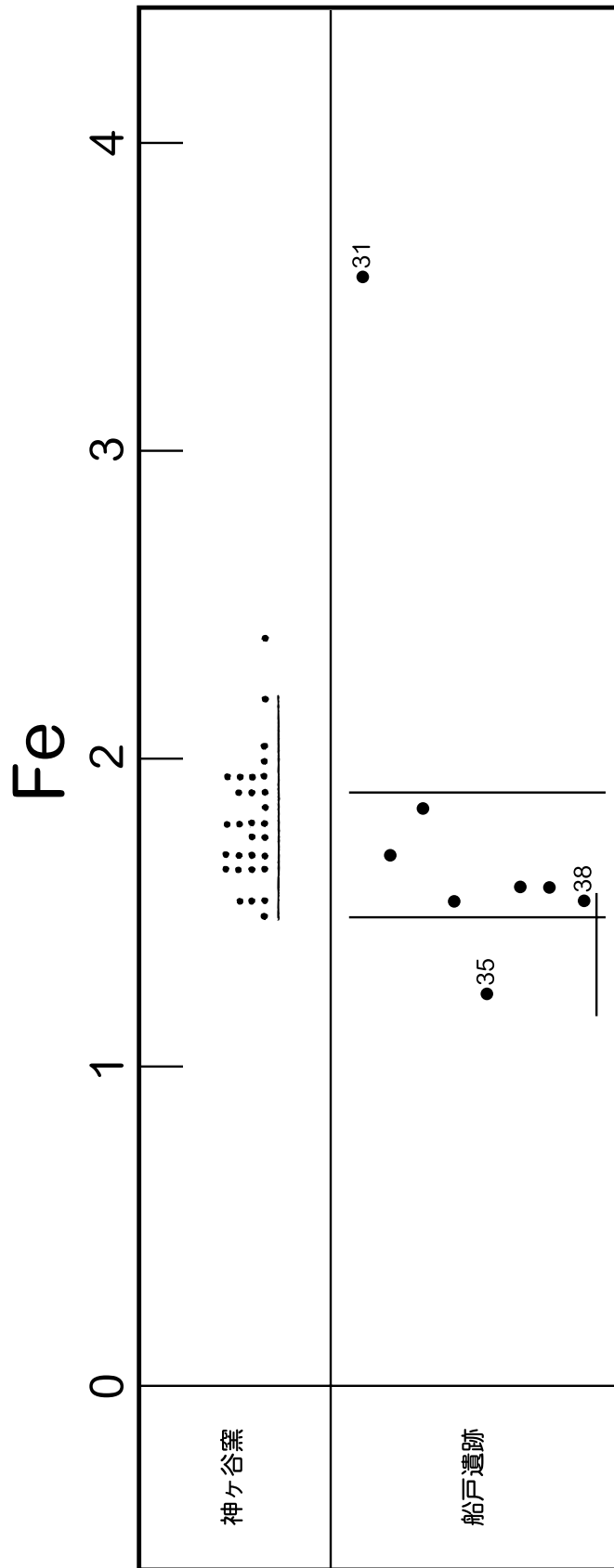


図4 Fe因子の比較

表1 分析データ

			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類
神ヶ谷窯跡	10 - 3311	No.1	0.404	0.020	2.04	0.447	0.195	0.093	
	3312	2	0.414	0.015	1.80	0.368	0.231	0.091	
	3313	3	0.370	0.020	1.89	0.470	0.207	0.096	
	3314	4	0.498	0.014	1.76	0.403	0.208	0.090	
	3315	5	0.571	0.010	1.55	0.596	0.169	0.104	
	3316	6	0.573	0.014	1.72	0.416	0.222	0.106	
	3317	7	0.332	0.016	1.88	0.218	0.220	0.068	
	3318	8	0.409	0.015	1.80	0.358	0.227	0.080	
	3319	9	0.574	0.012	1.71	0.558	0.188	0.116	
	3320	10	0.349	0.012	1.87	0.226	0.194	0.062	
	3321	11	0.506	0.021	1.92	0.611	0.212	0.161	
	3322	12	0.423	0.017	1.94	0.476	0.203	0.106	
	3323	13	0.463	0.016	1.82	0.358	0.225	0.105	
	3324	14	0.588	0.012	1.63	0.562	0.191	0.126	
	3325	15	0.402	0.020	1.57	0.384	0.239	0.099	
	3326	16	0.418	0.030	1.97	0.465	0.221	0.099	
	3327	17	0.420	0.028	2.42	0.431	0.208	0.115	
	3328	18	0.586	0.013	1.63	0.527	0.225	0.123	
	3329	19	0.574	0.013	1.65	0.611	0.210	0.131	
	3330	20	0.510	0.015	1.72	0.426	0.227	0.112	
	3331	21	0.388	0.020	1.55	0.404	0.233	0.108	
	3332	22	0.592	0.011	1.67	0.631	0.183	0.135	
	3333	23	0.420	0.013	1.94	0.410	0.250	0.105	
	3334	24	0.425	0.031	1.79	0.452	0.327	0.195	
	3335	25	0.518	0.051	1.75	0.621	0.244	0.155	
	3336	26	0.350	0.039	1.96	0.414	0.206	0.084	
	3337	27	0.380	0.015	1.50	0.372	0.228	0.097	
	3338	28	0.408	0.014	2.18	0.491	0.219	0.126	
	3339	29	0.439	0.016	1.72	0.509	0.230	0.128	
	3340	30	0.442	0.016	1.99	0.401	0.253	0.095	
船戸遺跡	3341	31	0.412	0.277	3.54	0.495	0.363	0.196	
	3342	32	0.644	0.023	1.71	0.700	0.323	0.209	A
	3343	33	0.631	0.019	1.83	0.747	0.264	0.258	A
	3344	34	0.617	0.020	1.55	0.757	0.268	0.282	A
	3345	35	0.485	0.191	1.23	0.563	0.466	0.166	
	3346	36	0.652	0.021	1.62	0.750	0.305	0.253	A
	3347	37	0.650	0.022	1.59	0.735	0.324	0.304	A
	3348	38	0.527	0.140	1.53	0.715	0.510	0.235	

付 編 2

神ヶ谷窯跡の磁気探査結果

奈良国立文化財研究所 西村 康

1. はじめに

本遺跡における探査の目的は、今までに知られる窯跡所在箇所周辺の周辺部分において、未知の窯跡の有無や位置を探ることにあつた。これには、従来より窯跡の探査において実績のある磁気探査を採用することにした。窯跡を対象とする磁気探査では、一般に測定作業の迅速なフラックスゲート磁力計を用いて測定をして、窯跡の存在する可能性のある部分を限定した後に、プロトン磁力計により詳細な測定を追加するという手法をとる。しかし、今回の探査では対象範囲の広いことや、探査の作業にあてる時間に制限があつたので、フラックスゲート磁力計による測定のみによることにした。

2. 測定位置と範囲

探査は窯跡が存在する可能性のある地域を、便宜的にAからFまでの測定区に区分して実施した。測定に際しては、できるだけ等高線と並行に歩き、作業をおこなうのが効率がよいので、一定の範囲に分割したものである。この内、C測定区では直角に折れ曲がるようにある谷奥の両側を対象にしたので、それぞれをC-1とC-2測定区に分離して、それぞれ等高線に平行な範囲として測定したが、大部分は重複する結果となつた。

3. 測定の方法

先に述べたように、本遺跡における磁気探査ではフラックスゲート磁力計のみを用いた測定である。この装置は地磁気の鉛直成分を測るもので、使用したのはイギリスGeoscan社製のFM18グラジオメーターである。測定に際しては0.1nT(ナノテスラ)の読みとり精度のレンジにより16回のデータ平均モードを採用した。測定間隔は、いずれの測定区においてもタテ、ヨコともに1の格子点である。探査結果は磁気傾斜の平面分布図として整理、表示している。

4. 探査の結果

4-1 A測定区 設定した測定範囲は東西14、南北13であるが、工事による排土が存在したり急斜面での歩行が困難であつたので、四隅を中心に測定できていない部分がある。ここでは、試掘調査により窯体の存在が確認されていたので、その全体規模を探ること、本遺跡において磁気探査により窯体がどの様に捉えられるかを知ることがも目的として、探査を実施したものである。

結果をみると、試掘調査で検出された窯体へ連なると思われる磁気異常は、斜面下方すなわち

測定区の北辺から約2 ほど南の地点で終わる（第1図B）。したがって、窯体は検出部分に2 程度の長さを加えたあたり迄と判断するのが良いと考えた。この所見から、これに連続するように斜面上方にある異常は（第1図A）排土など別の要因がもたらすものと推定した。窯体に起因する磁気異常ではないと思われたのである。

4-2 B測定区 この測定区は東西13.5、南北6 に設定した範囲である。顕著な磁気異常は無いが、それでも測定区の北辺と東辺には、可能性は小さいながら窯体の存在する可能性を考慮しておいた方が良い地点がある（第2図a,b）。これらの内、北辺にある異常（a）は測定できなかった斜面下方へ広がる可能性を考えて指摘するものである。しかし、東辺の異常（b）は等高線と並行であり窯体であるとは思われない。いずれも、もし試掘調査を実施する場合には、確認をしておいた方がよいという程度にとどまる。

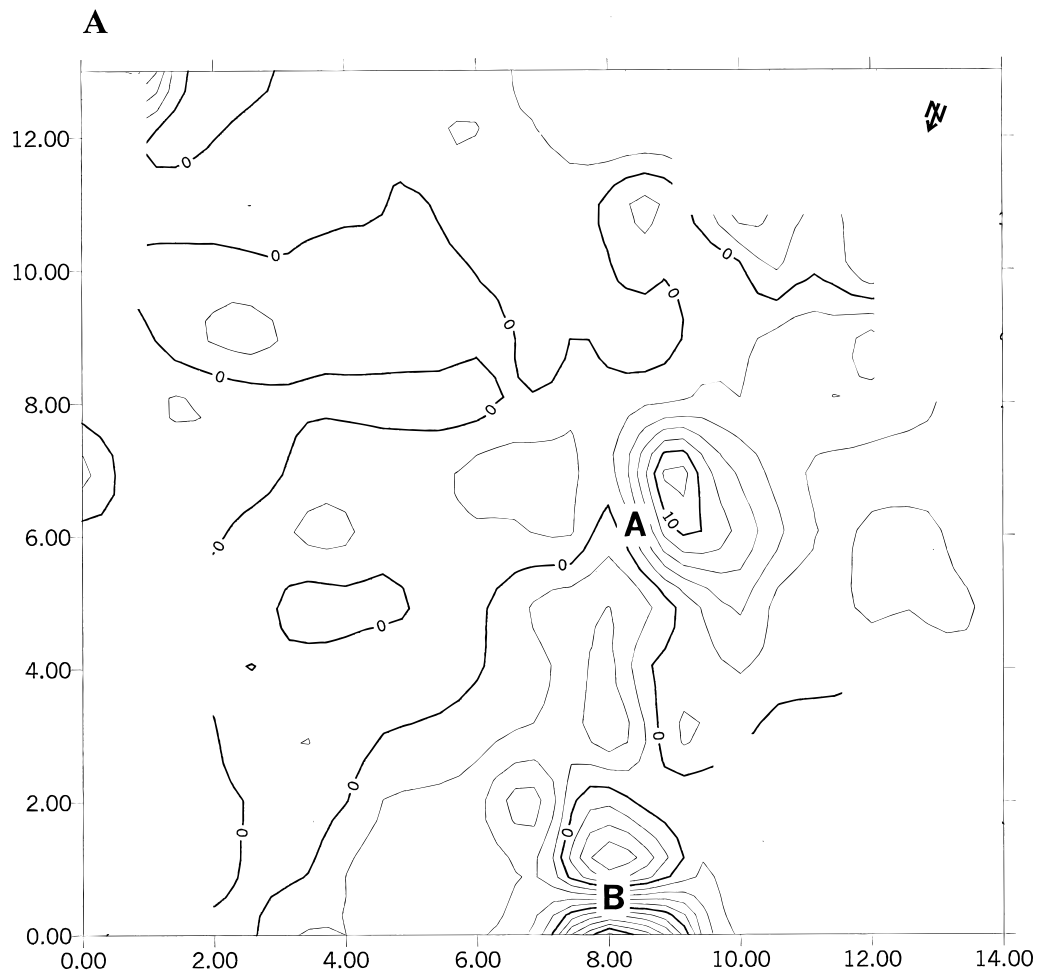
4-3 C-1測定区 東西南北12 の正方形に設定した測定区である。ここは、先に述べたように重複する範囲を二分して測定している。これの内、北側で測定した範囲では、測定区の西辺と北辺に小さな異常がある（第3図a,b）。いずれも、規模が小さいので窯体に起因するものとは思われない。なかでも、西辺の斜面と平坦面との変換点に位置するもの（a）は、異常の程度からみると鉄製品が原因であると推定できる。北辺にある異常（b）はその程度が小さいことから、窯体に起因するものとは思われない。しかし、斜面裾に位置しているので、下方へ連続する可能性を考慮した場合には、注意しておく必要があり、試掘など確認の手続きをとる方が良いと思われた。

4-4 C-2測定区 ここでは東西南北15 に設定した測定区である。測定区の中央にある磁気異常がC-1測定区でみたもので（a）、東辺にある異常は斜面裾にある異常に（b）対応するものと思われる。これら以外には顕著な磁気異常は認められない（第4図）。

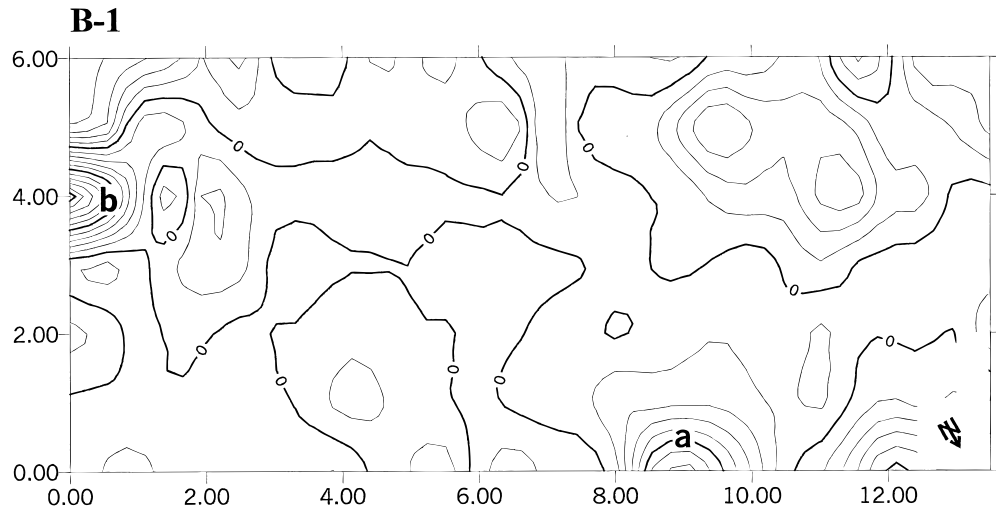
4-5 D測定区 東西12、南北27 の測定区である。ここでは、測定区の東端すなわち斜面裾にある小さな磁気異常の他には顕著な異常はない（第5図a）。しかし、これは規模、程度ともに非常に小規模な異常であるので、窯体に起因するとはいえない。異常が斜面下方へ連続することを前提にした場合には、指摘しなくてはならないという程度にとどまる。

4-6 E測定区 東西12、南北32 に設定した測定区である。ここでは、顕著な磁気異常はなく、したがって窯体が存在する可能性は極めて小さいと判断した（第6図）。

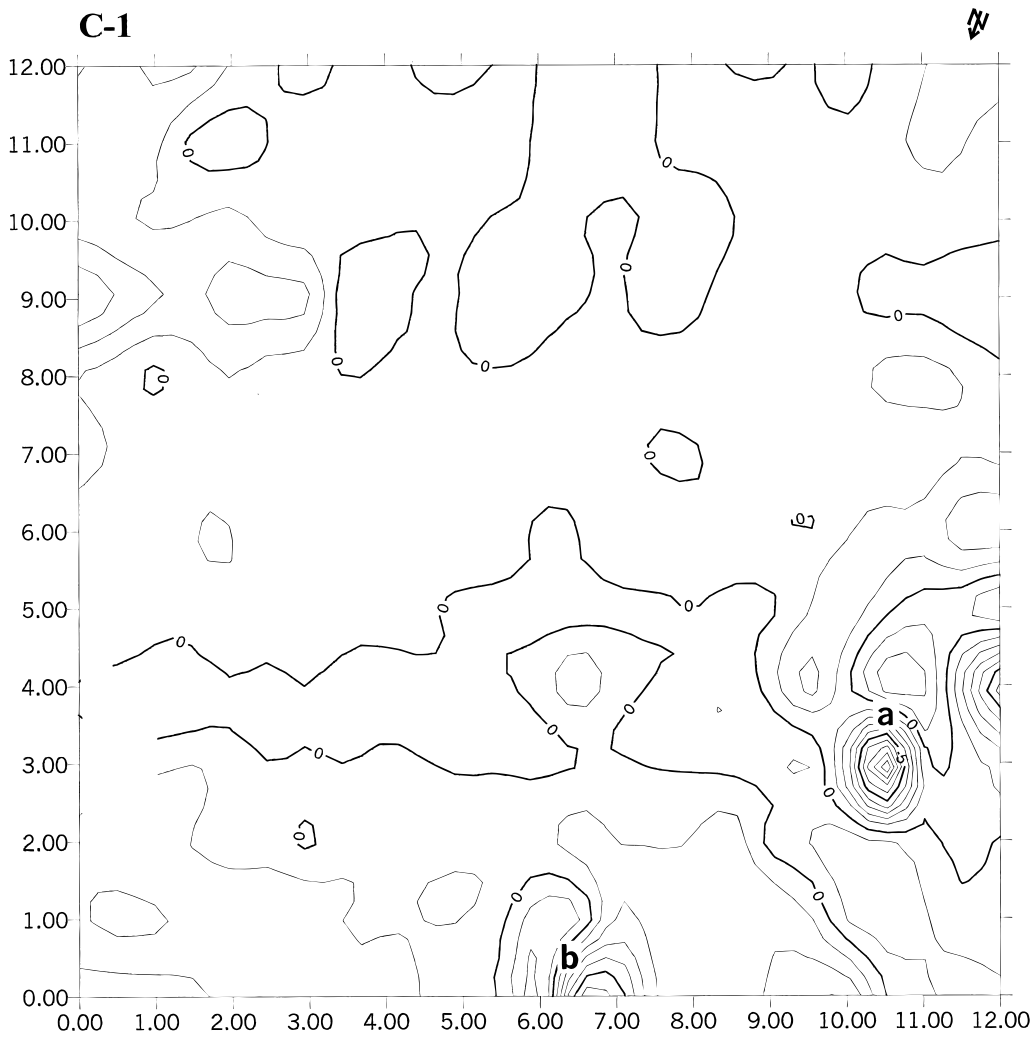
4-7 F測定区 東西11、南北19 の測定区である。ここでも、窯体に起因すると思われる顕著な磁気異常はみられない（第7図）。わずかに東辺に位置する箇所（a）が、きわめて僅かながら窯体である可能性があるといえる程度である。すなわち、試掘調査などの確認手段をとる場合には、ここも対象に加えた方がよい地点と思われた。



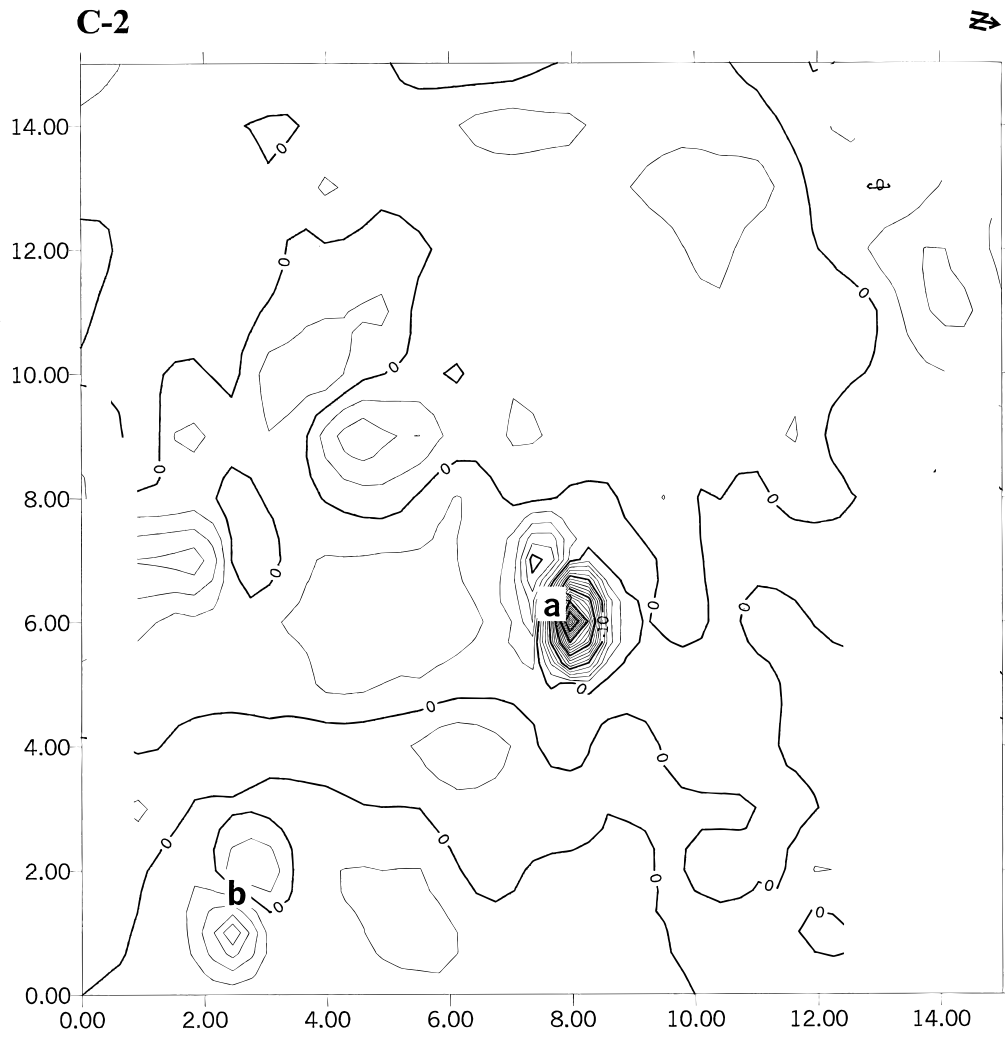
第1図 A測定区



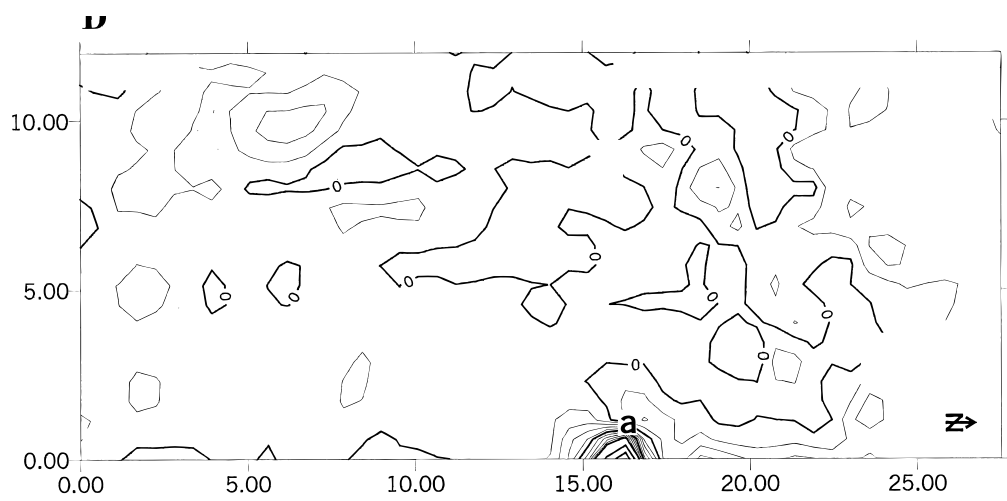
第2図 B測定区



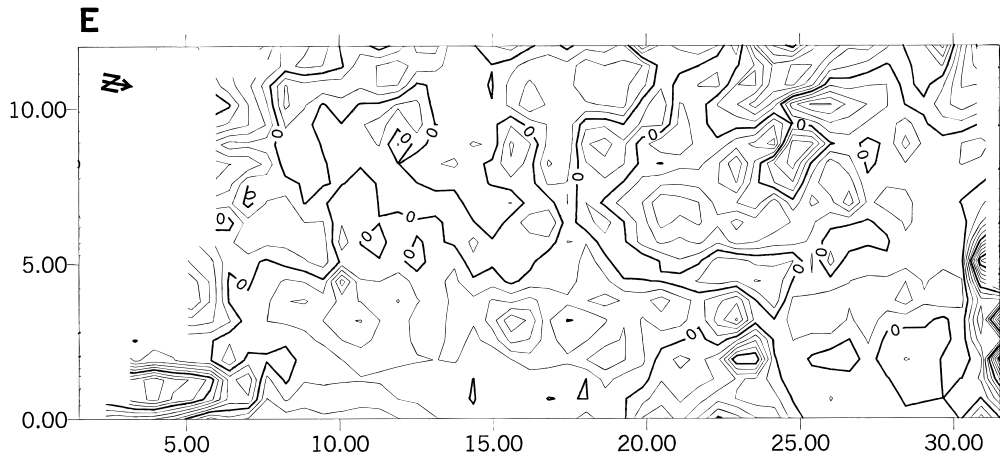
第3図 C測定区



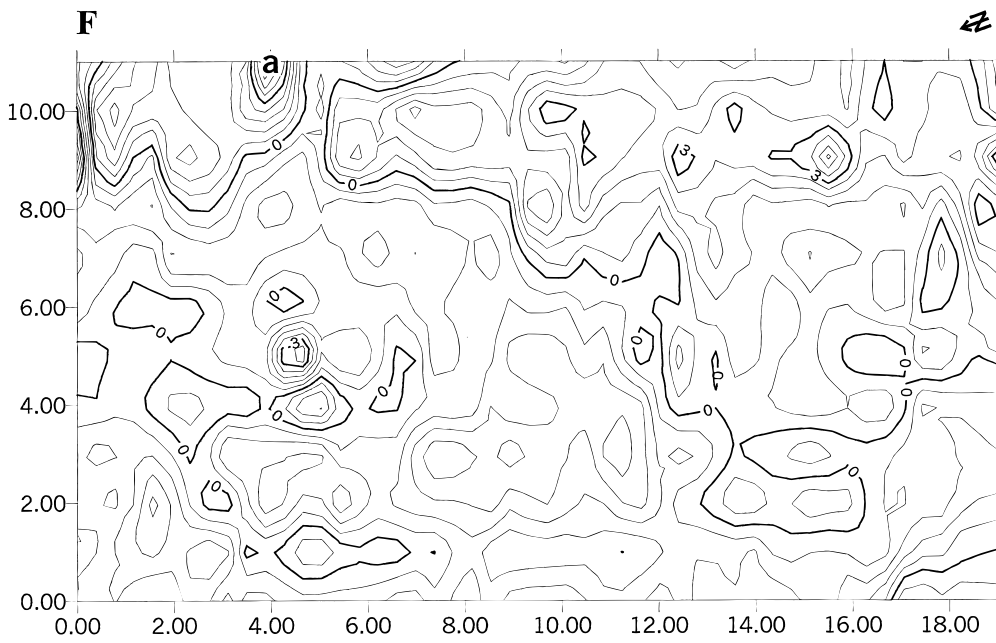
第4図 C測定区



第5図 測定区



第6図 E 測定区



第7図 F 測定区

遺物觀察表

Tab.8 遺物観察表1

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法 量 ()			口径の 残存率	底部の 残存率	色 調			特徴	備考
						器形	口径	器高			底径	内面	外面		
2	1	表採	-	須恵器	蓋	(12.9)	2.0	-	-	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	灰黄褐色 10YR6/2	つまみは偏平で中央部がやや突出。 天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 内面天井部はナデ調整。		
2	2	表採	-	須恵器	蓋	C (13.5)	2.3	-	7/12	灰色5Y5/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰色N5/0	つまみは偏平。天井部外面はへら切り 後、ナデ調整。口縁部内外面は回 転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。 焼け歪む。	
2	3	表採	-	須恵器	蓋	-	-	-	-	灰色N6/0	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 7.5YR5/2	つまみは偏平で中央部がやや突出。 天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 内面天井部はナデ調整。	外面に自然釉付着。	
2	4	表採	-	須恵器	蓋	(12.3)	1.8	-	3/12	灰色5Y6/1	灰色N6/0	灰色N6/0	口縁部は下外方にひらき、端部は丸 くおさめる。天井部外面はへら切り 後、ナデ調整。口縁部内外面は回 転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。		
2	5	表採	-	須恵器	蓋	(16.9)	1.8	-	3/12	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁端部を若干つまみ出す。天井部 外面はへら切り後、ナデ調整。口縁 部内外面は回転ナデ調整。天井部内 面はナデ調整。	焼け歪む。	
2	6	確認調査	-	須恵器	杯	(14.3)	6.8	(10.0)	1/12	灰オリーブ 色5Y6/2	灰オリーブ 色5Y6/2	灰白色 5Y7/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はナデ調 整。	爪形状圧痕あり。焼 成不良。焼け歪む。	
2	7	確認調査	-	須恵器	杯	(16.5)	5.6	(10.8)	1/12	浅黄色 2.5Y7/4	にびい黄色 2.5Y6/4	灰白色 2.5Y8/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はへらナ デ調整。	爪形状圧痕あり。 焼成不良。	
2	8	表採	-	須恵器	杯	(12.7)	4.3	(8.2)	1/12	灰色5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はナデ調 整。	爪形状圧痕あり？ やや焼成不良。	
2	9	表採	-	須恵器	杯	-	2.3	(11.2)	-	灰色5Y5/1	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はへら切 り後、ヘラケズリ調整。	爪形状圧痕あり。外 面に自然釉付着。	
2	10	表採	-	須恵器	杯	(15.4)	3.2	(9.8)	1/12	灰オリーブ 色5Y6/2	灰オリーブ 色5Y6/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はへら切 り後、ナデ調整。	焼成不良。焼け歪む。	
2	11	表採	-	須恵器	皿	(15.3)	2.6	(13.8)	3/12	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はへら切 り後、ナデ調整。	外面に自然釉付着。	

()は復原値

Tab.9 遺物観察表2

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法 量 ()			口径の 残存率	底部の 残存率	色 調			特徴	備考	
						器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面
3	12	確認調査	-	須恵器	蓋	A	(13.4)	2.0	-	2/12	-	灰色10Y5/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁端部は僅につまみ出す。天井部外面は回転ヘラケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
3	13	確認調査	-	須恵器	蓋	D	(13.0)	-	-	3/12	-	灰色5Y4/1	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。やや焼け至む。
3	14	確認調査	-	須恵器	蓋		(13.4)	-	-	2/12	-	灰色7.5Y5/1	褐色10YR5/1	灰色7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	外面に自然釉付着。
3	15	確認調査	-	須恵器	蓋	b	(11.0)	-	-	1/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁端部をつまみ出す。天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。やや焼け至む。
3	16	確認調査	-	須恵器	蓋	a	(16.0)	3.1	-	4/12	-	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	つまみは擬宝珠様。口縁端部をつまみ出す。天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。焼け至む。
3	17	確認調査	-	須恵器	蓋	b	(15.0)	-	-	2/12	-	灰色N5/0	灰色7.5Y5/1	灰色7.5Y6/1	口縁端部を下方につまみ出す。天井部外面はヘラ切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。やや焼け至む。
3	18	確認調査	-	須恵器	杯	B	(13.8)	4.0	(8.6)	1/12	3/12	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。2次焼成を受ける。外面に自然釉付着。
3	19	確認調査	-	須恵器	杯	B	-	-	(8.6)	-	6/12	灰黄色2.5Y7/2	灰黄色2.5Y6/2	灰黄色2.5Y7/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。焼成不良。
3	20	確認調査	-	須恵器	杯	B	-	-	(8.4)	-	6/12	灰色7.5Y5/1	灰色7.5Y5/1	灰色7.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はヘラ切り後、軽くナデ調整。	爪形状圧痕あり。やや焼成不良。
3	21	確認調査	-	須恵器	杯	B	(12.4)	4.3	(7.0)	1/12	8/12	灰色5Y6/1	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はヘラ切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。焼け至む。
3	22	確認調査	-	須恵器	杯	B	(11.2)	4.6	(7.6)	2/12	2/12	灰オリーブ色5Y6/2	灰オリーブ色5Y6/2	灰色5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	爪形状圧痕あり？外面に自然釉付着。 ()は復原値

Tab.10 遺物観察表3

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部の 残存率	色調			特徴	備考
					器形	器高	口径			内面	外面	断面		
3	23	確認調査	-	須恵器	杯	-	(8.0)	-	2/12	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	外面に自然袖付着。
3	24	確認調査	-	須恵器	杯	(21.0)	-	1/12	-	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。外面に火 傷痕跡あり。 胎土分析資料No.30
3	25	確認調査	-	須恵器	杯	(13.0)	3.8	2/12	3/12	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 5Y7/2	灰色 5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。内面に火 傷痕跡あり。
3	26	確認調査	-	須恵器	杯	-	(8.1)	-	4/12	灰白色 10Y7/1	灰色 5Y5/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。内面に火 傷痕跡あり。
3	27	確認調査	-	須恵器	杯	(12.6)	4.0	1/12	2/12	灰オリーブ 色5Y6/2	灰色 10Y5/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。やや焼け 歪む。
3	28	確認調査	-	須恵器	杯	(12.8)	3.6	1/12	2/12	にぶい黄色 2.5Y6/3	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、軽くナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	焼成不良。 胎土分析資料No.28
3	29	確認調査	-	須恵器	杯	(12.4)	-	1/12	-	灰色 N5/0	灰色 N4/0	灰色 N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	
3	30	確認調査	-	須恵器	杯	(12.8)	4.1	1/12	4/12	灰色 10Y5/1	灰色 10Y5/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、軽くナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	焼成不良。内面に火 傷痕跡あり。焼け歪 む。
3	31	確認調査	-	須恵器	杯	(14.4)	4.0	1/12	2/12	灰色 5Y6/1	灰色 5Y5/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	焼成不良。内面に火 傷痕跡あり。
3	32	確認調査	-	須恵器	杯	(13.2)	3.3	2/12	3/12	灰オリーブ 色5Y6/2	灰色 N5/0	灰白色 N8/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼成不良。焼け 歪む。
3	33	確認調査	-	須恵器	杯	(14.4)	2.9	1/12	4/12	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼け歪む。
3	34	確認調査	-	須恵器	杯	(15.9)	2.9	1/12	4/12	灰色 10YR6/1	灰色 7.5Y5/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。焼け歪む。

()は復原値

Tab.11 遺物観察表4

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部の 残存率	色調			特徴	備考
					器形	口径	器高			底径	内面	外面		
3	35	確認調査	-	須恵器	杯	A	(12.8)	3.9	(10.2)	灰白色 5Y7/2	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。内面に火轆痕跡あり。
3	36	確認調査	-	須恵器	杯	A	(12.8)	3.4	-	灰白色 5Y6/1	灰色5Y5/1	灰白色 7.5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
3	37	確認調査	-	須恵器	皿	a	(13.6)	2.0	(10.4)	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
3	38	確認調査	-	須恵器	皿	b	(14.4)	2.5	-	灰白色 10YR8/1	灰色 10YR8/1	-	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	焼成不良。内外面に火轆痕跡あり。
3	39	確認調査	-	須恵器	皿		(14.0)	1.8	(11.4)	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。 胎土分析資料No.21
3	40	確認調査	-	須恵器	皿	a	(14.0)	2.1	(11.0)	灰オリーブ 色5Y6/2	灰色5Y6/1	灰白色 7.5Y7/1	口縁部内外面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼成不良。外面に火轆痕跡あり。
3	41	確認調査	-	須恵器	皿	-	(16.0)	1.7	(13.0)	灰白色 2.5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。ため、調整不明。へら切り痕跡あり。	焼成不良。
3	42	確認調査	-	須恵器	不明	-	(8.0)	4.2	-	灰色N5/0	灰色 7.5Y5/1	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内外面に自然釉付着。
3	43	確認調査	-	須恵器	皿	-	(20.0)	2.1	(16.9)	灰色 10Y6/1	灰色 7.5Y5/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	焼成不良。 胎土分析試料No.16
3	44	確認調査	-	須恵器	皿	b	(16.0)	1.6	(13.0)	灰オリーブ 色5Y6/2	灰オリーブ 色5Y6/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	焼成不良。内面に火轆痕跡あり。
15	45	C トレン子 攪乱	-	須恵器	蓋	A	(12.8)	2.1	-	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	焼成不良。内面に火轆痕跡あり。
15	46	Cトレン 子灰原	-	須恵器	杯	-	(12.6)	-	-	灰色 7.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内面に自然釉付着。
15	47	Aトレン 子灰原	-	須恵器	杯	-	(15.4)	3.3	(11.6)	灰色 7.5Y6/1	灰色 10Y6/1	灰色 10Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。内面に火轆痕跡あり。やや焼け歪む。
15	48	A トレン子 灰原	-	須恵器	皿	-	(15.4)	1.7	(11.0)	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。内面に火轆痕跡あり。やや焼け歪む。

()は復原値

Tab.12 遺物観察表5

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法 量 ()			口径の 残存率	底部の 残存率	色 調			特徴	備考	
						器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面
15	49	A トレンチ 旧耕作土	-	須恵器	皿	-	(15.8)	2.8	(12.8)	1/12	2/12	灰色N6/0	灰色N6/0	灰色N7/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。低部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼け歪む。
15	50	A トレンチ 灰原	-	須恵器	杯	-	(16.0)	4.6	-	-	-	灰色5Y6/1	灰色N4/0	にぶい黄褐色10YR6/3	口縁部内外面は回転ナデ調整。	
15	51	A トレンチ 灰原	-	須恵器	杯	-	(17.4)	-	-	-	-	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	
15	52	C トレンチ 攪乱	-	須恵器	杯	-	(12.6)	4.4	(7.7)	1/12	12/12	黄灰色2.5Y4/1	黄灰色2.5Y6/1	黄灰色2.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。
15	53	A トレンチ 灰原 C-4-d	-	須恵器	杯	-	(18.6)	5.3	(10.8)	-	-	灰色7.5Y6/1	灰色7.5Y6/1	灰色7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	爪形状圧痕あり？
15	54	A トレンチ 灰原	-	須恵器	高杯	-	-	0.8	(9.6)	-	-	黄灰色2.5Y4/1	黄灰色2.5Y5/1	灰色5Y6/1	内外面は回転ナデ調整。内面の一部は摩耗のため調整不明。	焼成不良。
15	55	-	-	須恵器	高杯	-	-	0.6	(10.8)	-	-	灰白色5Y7/1	浅黄褐色2.5Y7/3	浅黄褐色2.5Y7/3	内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
15	56	-	-	須恵器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	融着試料。	
16	57	窯体	-	須恵器	蓋	-	(18.0)	2.9	-	1/12	-	浅黄褐色2.5Y7/3	黄灰色2.5Y6/1	灰白色2.5Y7/1	摩擦が著しく、調整不明。 内面に火燗痕跡あり。 焼成不良。	
16	58	窯体	-	須恵器	蓋	a	(17.0)	2.4	-	7/12	-	灰白色5Y7/2	灰オリーブ色5Y6/2	灰白色5Y7/2	口縁部は僅かにつまみ出す。天井部外面は回転ヘラケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼成不良。焼け歪む。
16	59	窯体	-	須恵器	蓋	a	(18.0)	-	-	1/12	-	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	灰白色5Y8/1	内外面は回転ナデ調整。天井部外面はナデ調整。	焼成不良。
16	60	窯体	-	須恵器	蓋	-	(17.2)	-	-	2/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
16	61	窯体	-	須恵器	蓋	-	(18.2)	2.5	-	1/12	-	灰色N6/0	灰色N6/0	灰白色N8/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
16	62	窯体	-	須恵器	蓋	a	(17.2)	-	-	3/12	-	灰色N5/0	灰色10Y5/1	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ヘラケズリ調整。口縁部内外面・天井部内面は回転ナデ調整。	内外面に敲打痕跡あり。外面に自然釉付着。
16	63	窯体	-	須恵器	蓋	-	(18.6)	-	-	1/12	-	灰色N5/0	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	内外面に敲打痕跡あり。外面に自然釉付着。

()は復原値

Tab.13 遺物観察表6

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考		
					器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面	
16	64	窯体	-	須恵器	蓋	a	(19.0)	-	1/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁端部付近はやや屈曲する。天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼成不良。	
16	65	窯体	-	須恵器	杯	B	-	-	(10.7)	1/12	2/12	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y7/1	口縁部外面は回転ナデ調整。口縁部内面は磨耗のため調整不明。	焼成不良。	
16	66	窯体	-	須恵器	杯	B	(18.7)	5.1	(12.2)	4/12	2/12	灰色N5/0	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	やや焼け歪む。	
16	67	窯体	-	須恵器	杯	B	(17.9)	4.6	(9.4)	1/12	5/12	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。焼け歪む。	
16	68	窯体	-	須恵器	杯	B	(17.4)	5.3	(9.8)	9/12	4/12	灰色 10Y6/1	灰色 7.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、へらケズリ調整。	爪形状圧痕あり。焼け歪む。	
16	69	窯体	-	須恵器	杯	B	-	-	(11.2)	-	4/12	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼成不良。爪形状圧痕あり。	
16	70	窯体	-	須恵器	蓋	A	12.7	2.2	-	10/12	-	灰色N4/0	褐色 10YR6/1	灰色N5/0	天井部外面はへらケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。
16	71	窯体	-	須恵器	蓋	A	11.6	2.4	-	11/12	-	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰色N6/0	天井部外面はへらケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。焼け歪む。
16	72	窯体	-	須恵器	蓋	A	(13.6)	-	-	4/12	-	灰色 2.5Y6/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。
16	73	窯体 確認調査	-	須恵器	杯	B	(12.0)	4.2	(8.2)	1/12	3/12	灰色N4/0	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。
16	74	窯体	-	須恵器	杯	B	-	-	(8.0)	-	3/12	灰色 7.5Y5/1	灰色N4/0	灰色N4/0	底部内面は回転ナデ調整。	爪形状圧痕あり。
16	75	窯体	-	須恵器	杯	B	-	-	(8.0)	-	1/12	灰色N5/0	灰色N6/0	灰色N6/0	底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。2次焼成あり。
17	76	窯体	-	須恵器	杯	A	(11.4)	3.1	(6.6)	2/12	2/12	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。 ()は復原値

Tab.14 遺物観察表7

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法 量 ()			口径の 残存率	底部 残存率	色 調			特徴	備考	
						器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面
17	77	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(12.8)	3.4	(8.2)	1/12	3/12	灰色 7.5Y6/1	灰白色 5Y7/2	灰色 10Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	78	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(11.9)	3.5	(8.0)	1/12	2/12	灰色N5/0	灰色N5/0	灰白色 7.5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
17	79	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(12.6)	3.6	(8.6)	5/12	4/12	灰色N5/0	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内・口縁端部外面は回転ナデ調整。口縁部外面はへらケズリ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼け歪む。
17	80	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(13.0)	3.4	9.4	4/12	7/12	灰色 7.5Y6/1	灰色 10Y5/1	灰白色 10Y8/1	口縁部内・口縁端部外面・底部内面は回転ナデ調整。口縁部外面はへらケズリ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。焼け歪む。
17	81	窯体	-	須恵器	杯	Aa	13.4	3.3	8.7	2/12	4/12	灰色N4/0	暗灰色 N3/0	暗灰色 N3/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	
17	82	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(13.2)	4.4	-	1/12	7/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
17	83	窯体	-	須恵器	杯	A	(13.2)	3.8	(10.3)	2/12	3/12	灰白色 5Y7/1	灰色5Y5/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	84	窯体	-	須恵器	杯	A	(13.0)	3.6	(9.6)	1/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
17	85	窯体	-	須恵器	杯	A	(14.3)	-	-	3/12	-	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰色N4/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
17	86	窯体	-	須恵器	杯	A	(13.3)	4.7	(10.4)	2/12	5/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	87	窯体	-	須恵器	杯	A	(14.0)	3.5	(9.1)	1/12	1/12	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 10Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
17	88	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(14.0)	3.6	(9.6)	1/12	2/12	灰色N4/0	褐灰色 5YR5/1	褐灰色 5YR5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼け歪む。
17	89	窯体	-	須恵器	杯	A	(13.8)	3.7	(10.6)	2/12	2/12	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	灰白色 2.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
17	90	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(13.6)	3.7	(9.6)	3/12	5/12	灰色5Y6/1	灰色5Y5/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。

()は復原値

Tab.15 遺物観察表8

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考		
					器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面	
17	91	窯体	-	須恵器	杯	Ab	(13.2)	3.7	9.0	1/12	9/12	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	92	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(14.1)	3.6	(10.7)	4/12	5/12	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	93	窯体	-	須恵器	杯	Ab	(13.5)	4.2	(10.2)	5/12	6/12	灰白色 5Y7/1	灰白色 7.5Y8/1	灰色 7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	94	窯体	-	須恵器	杯	Ab	(13.8)	3.7	(12.5)	2/12	1/12	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	焼成不良。
17	95	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(13.8)	3.5	(9.6)	2/12	2/12	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	96	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(14.0)	3.7	(9.4)	1/12	2/12	灰白色 5Y6/1	灰白色 5Y8/1	灰色 5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
17	97	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(13.4)	3.6	(9.4)	1/12	4/12	-	灰白色 5Y8/1	灰色 5Y7/1	口縁部外面は回転ナデ調整。その他は摩耗のため調整不明。	焼成不良。
17	98	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(14.0)	3.0	(8.6)	1/12	4/12	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰色 7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。焼け歪む。
17	99	窯体	-	須恵器	杯	A	(14.4)	3.3	(9.0)	2/12	1/12	灰白色 5Y5/1	褐色 7.5YR4/1	褐色 7.5YR4/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	やや焼け歪む。
17	100	窯体	-	須恵器	杯	Ab	(13.6)	4.0	10.0	1/12	6/12	灰白色 5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内外面に火禰痕跡あり。焼成不良。
17	101	窯体	-	須恵器	杯	A	(13.1)	3.8	-	1/12	-	灰色N6/0	灰色N6/0	灰色N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内外面に自然釉付着。
17	102	窯体	-	須恵器	杯	A	(13.3)	3.5	(7.4)	2/12	2/12	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y8/1	灰色 5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。

()は復原値

Tab.16 遺物観察表9

Fig.No	図版No	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部の 残存率	色調			特徴	備考		
					器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面	
17	103	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(14.3)	3.5	(8.9)	3/12	3/12	灰色N4/0	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
17	104	窯体	-	須恵器	杯	Ab	(15.0)	3.8	(11.4)	3/12	2/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
17	105	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(15.8)	3.9	(10.0)	5/12	1/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色7.5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
17	106	窯体	-	須恵器	杯	A	(17.6)	4.4	(14.2)	1/12	1/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
17	107	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(15.8)	3.9	(11.8)	1/12	1/12	灰色7.5Y6/1	灰色N5/0	灰白色5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼け至む。
17	108	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(14.8)	2.6	(9.4)	2/12	1/12	灰黄色2.5Y7/2	灰色7.5Y6/1	灰白色5Y7/1	口縁部外面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。焼け至む。
17	109	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(16.0)	4.1	(11.6)	2/12	1/12	灰色2.5Y6/1	灰色N6/0	灰白色5Y8/1	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。やや焼け至む。
17	110	窯体	-	須恵器	杯	Aa	(16.0)	4.0	(11.4)	3/12	1/12	灰色7.5Y6/1	灰色N6/0	灰白色7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
17	111	窯体	-	須恵器	杯	A	(15.4)	3.7	-	-	1/12	灰色7.5Y6/1	灰色N4/0	灰色N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	やや焼け至む。
18	112	窯体	-	須恵器	杯	-	(16.0)	3.8	-	-	1/12	灰色7.5Y5/1	灰色N5/0	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	やや焼成不良。
18	113	窯体	-	須恵器	杯	A	(16.4)	4.0	(12.2)	1/12	1/12	浅黄色2.5Y7/3	黄灰色2.5Y6/1	灰白色5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
18	114	窯体	-	須恵器	杯	-	-	-	(8.8)	-	1/12	暗灰黄色2.5Y5/2	灰色5Y6/1	灰白色5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	内外面に火燂痕跡あり。焼成不良。
18	115	窯体	-	須恵器	杯	-	-	-	(8.4)	-	4/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。やや焼け至む。
18	116	窯体	-	須恵器	杯	-	-	-	(10.4)	-	3/12	灰黄色2.5Y7/2	灰黄色2.5Y7/2	灰黄色2.5Y7/2	摩擦が著しく調整不明。	焼成不良。

()は復原値

Tab.17 遺物観察表10

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部分 残存率	色調			特徴	備考	
					器形	口径	器高			内面	外面	断面			
18	117	窯体	-	須恵器	杯	-	(10.6)	-	2/12	灰オリーブ 色5Y6/2	灰色 10Y6/1	灰色 10Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内外面に火樫痕跡あり。やや焼成不良。やや焼け歪む。	
18	118	窯体	-	須恵器	皿	a	(14.2)	1.8	(9.0)	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	外面に火樫痕跡あり。やや焼成不良。	
18	119	窯体	-	須恵器	皿	a	(14.3)	2.0	(11.0)	1/12	浅黄色 5Y7/3	灰白色 5Y7/2	灰白色 7.5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火樫痕跡あり。やや焼成不良。
18	120	窯体	-	須恵器	皿	a	(13.8)	2.1	(10.9)	1/12	浅黄色 5Y7/2	灰黄褐色 10YR5/2	浅黄色 5Y7/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火樫痕跡あり。やや焼成不良。
18	121	窯体	-	須恵器	皿	-	(12.2)	-	1/12	灰色N6/0	灰白色 7.5Y7/1	灰色 10Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。		
18	122	窯体	-	須恵器	皿	a	(12.6)	2.0	(9.8)	1/12	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	口縁部外面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
18	123	窯体	-	須恵器	皿	b	(13.0)	1.8	(8.0)	1/12	灰白色 5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内外面に火樫痕跡あり。やや焼成不良。
18	124	窯体	-	須恵器	皿	b	(15.0)	1.5	(11.2)	3/12	灰オリーブ 色7.5Y5/2	灰オリーブ 色7.5Y5/2	灰オリーブ 色7.5Y5/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に自然釉付着。
18	125	窯体	-	須恵器	皿	a	(14.8)	2.4	(12.0)	1/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
18	126	窯体	-	須恵器	皿	a	(14.4)	1.5	(10.0)	1/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内外面に火樫痕跡あり。焼成不良。
18	127	窯体	-	須恵器	皿	a	(16.3)	2.4	(13.4)	1/12	灰色N6/0	灰色N6/0	灰白色 N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に自然釉付着。

()は復原値

Tab.18 遺物観察表11

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考		
						器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面	
18	128	窯体	-	須恵器	皿	b	(15.7)	2.4	(13.6)	5/12	4/12	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	外面に火禿痕跡あり。焼成不良。	
18	129	窯体	-	須恵器	皿	-	(17.0)	2.6	(13.9)	1/12	1/12	にぶい橙 色5Y6/2	にぶい橙 色5Y6/2	にぶい橙 色5Y6/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。	
18	130	窯体	-	須恵器	皿	-	(21.6)	3.0	(15.4)	-	-	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。外面は摩擦のため調整不明。	爪形状圧痕あり。焼成不良。	
18	131	窯体	-	須恵器	高杯	-	-	-	-	-	-	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	外面は回転ナデ調整。内面は摩擦のため調整不明。	やや焼成不良。	
18	132	窯体	-	須恵器	高杯	-	-	-	-	-	-	-	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	摩擦が著しく調整不明。	焼成不良。
18	133	窯体	-	須恵器	高杯	-	-	-	-	-	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	外面は回転ナデ調整。内面はナデ調整。	やや焼成不良。やや焼け歪む。	
18	134	窯体	-	須恵器	鉢	-	(19.7)	-	-	-	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。体部内面はナデ調整。体部外面は回転ヘラケズリ調整。	焼成不良。	
18	135	窯体	-	須恵器	鉢	-	(15.6)	12.0	(10.2)	-	-	灰色N4/0	灰色N4/0	灰色N4/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。体部内面・底部内面はナデ調整。体部外面は回転ヘラケズリ調整。	2次焼成あり？	
19	136	A トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	a	(16.5)	3.5	-	5/12	-	灰黄色 2.5Y6/2	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、回転ヘラケズリ調整。口縁部内面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼成不良。やや焼け歪む。	
19	137	灰原	B-4-a C-3-n	須恵器	蓋	b	15.2	3.5	-	6/12	-	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。	
19	138	灰原	C-3-o	須恵器	蓋	a	(15.7)	2.4	-	1/12	-	灰色5Y6/1	褐色 7.5YR5/1	褐色 7.5YR5/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	内外面に自然釉付着。焼け歪む。	
19	139	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	b	(16.6)	2.3	-	4/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y5/0	灰色5Y5/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。	

()は復原値

Tab.19 遺物観察表12

Fig.No.	図版No.	出土地点 確認調査 A トレンチ 灰	地区	器種	法 量 ()			口径の 残存率	底部 残存率	色 調			特徴	備考	
					器形	類似	口径			器高	底径	内面			外面
19	140		-	須恵器	蓋	b	16.8	1.3	-	11/12	-	灰色 7.5Y6/1	灰色N5/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	焼け歪む。
19	141	A トレンチ 灰	-	須恵器	蓋	a	(16.6)	2.2	-	5/12	-	灰色 7.5Y5/1	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。
19	142	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	b	16.6	1.8	-	9/12	-	灰色N5/0	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	外面に自然袖付着。 やや焼け歪む。
19	143	表採・A トレンチ 灰	B-4-h	須恵器	蓋	a	-	-	-	6/12	-	黄灰色 2.5Y6/1	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。
19	144	A トレンチ 灰	-	須恵器	蓋	a	(16.2)	3.6	-	3/12	-	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	天井部外面はへら切り後、回転へら ケズリ調整。口縁部内外面は回転ナ デ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。
19	145	A トレンチ 灰	-	須恵器	蓋	b	17.7	2.3	-	8/12	-	にぶい黄橙 色10YR6/3	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、へらケズ リ調整。口縁部内外面は回転ナデ調 整。天井部内面はナデ調整。	焼成不良。やや焼け 歪む。
19	146	灰原	C-3-n C-3-o C-4-d	須恵器	蓋	a	16.7	2.3	-	7/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	焼成不良。
19	147	灰原	C-3-p C-4-c	須恵器	蓋	b	17.6	3.4	-	7/12	-	灰色 10Y5/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	焼成不良。
19	148	灰原	C-3-m	須恵器	蓋		(17.4)	2.9	-	2/12	-	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	口縁部外面は回転ナデ調整。その他 は摩擦のため調整不明。	焼成不良。
19	149	A トレンチ 灰	-	須恵器	蓋		(18.0)	3.7	-	2/12	-	にぶい黄橙 色10YR6/3	灰白色 5Y7/1	口縁部内面は回転ナデ調整。天井部 内面はナデ調整。外面は摩擦のため 調整不明。	焼成不良。
19	150	灰原	C-4-d	須恵器	蓋		(15.4)	2.0	-	2/12	-	灰色 10Y5/1	灰色 10Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	2次焼成あり。外面 に自然袖付着。
19	151	灰原	B-4-h	須恵器	蓋	b	(15.0)	1.9	-	1/12	-	黄灰色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	焼成不良。

()は復原値

Tab.20 遺物観察表13

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法 量 ()				口径の 残存率	底部 残存率	色 調			特徴	備考	
					器形	器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面
19	152	灰原	C-3-n	須恵器	蓋	a	(15.8)	2.5	-	5/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y5/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。
19	153	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	a	(16.0)	1.8	-	3/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色7.5Y6/1	天井部外面はへら切り後、回転ヘラケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。
19	154	A トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	b	(17.0)	1.7	-	3/12	-	灰色7.5Y5/1	灰色7.5Y5/1	灰色5Y4/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。 やや焼け歪む。
19	155	灰原	C-4-a	須恵器	蓋	b	(17.0)	1.8	-	3/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
19	156	灰原	C-3-n	須恵器	蓋	b	(17.0)	2.0	-	1/12	-	黄灰色2.5Y6/1	灰白色2.5Y7/1	灰白色5Y7/1	天井部外面はへら切り後、へらケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼成不良。
19	157	確認調査 ・灰原	C-4-d	須恵器	蓋	b	(17.6)	3.4	-	5/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。 焼け歪む。
19	158	A トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	a	(18.2)	2.3	-	3/12	-	灰黄色2.5Y6/2	灰色5Y5/1	灰黄色2.5Y7/2	天井部外面はへら切り後、へらケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
19	159	A トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	b	(16.4)	1.9	-	3/12	-	灰色5Y6/1	灰色7.5Y6/1	灰オリーブ色7.5Y5/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
19	160	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	a	(18.2)	1.9	-	1/12	-	灰黄色2.5Y7/2	灰黄色2.5Y7/2	灰白色2.5Y7/1	天井部外面はへら切り後、回転ヘラケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
19	161	A トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	b	(18.0)	1.8	-	1/12	-	灰色5Y4/1	灰色5Y5/1	にぶい褐色7.5YR5/3	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
19	162	灰原	C-4-b	須恵器	蓋	b	(18.4)	1.5	-	3/12	-	灰色7.5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色7.5Y8/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼成不良。やや 焼け歪む。
19	163	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	a	(19.2)	2.1	-	3/12	-	黄灰色2.5Y5/1	黄灰色2.5Y6/1	黄灰色2.5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。 焼け歪む。

()は復原値

Tab.21 遺物観察表14

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法量()			口径の残存率	底部の残存率	色調			特徴	備考	
						器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面
19	164	A トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	b	(19.3)	2.3	-	1/12	-	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	天井部外面はへら切り後、へらケズリ?調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。
19	165	灰原	C-3-n	須恵器	蓋	a	(19.4)	1.8	-	2/12	-	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y7/1	天井部外面はへら切り後、回転へらケズリ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
19	166	灰原	C-3-m	須恵器	蓋		(21.0)	1.7	-	2/12	-	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	灰白色 5Y8/1	口縁部外面はナデ調整。口縁部内面は回転ナデ調整。内面天井部と口縁部の境付近に段あり。	外面に自然釉付着。 やや焼成不良。
19	167	灰原	C-3-o	須恵器	蓋		(22.4)	1.9	-	1/12	-	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	口縁部内外面はナデ調整。	
20	168	灰原	C-4-d C-4-c	須恵器	杯	B	17.2	5.7	10.4	7/12	12/12	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰色 10Y5/1	-	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへらケズリ調整。	爪形状圧痕あり。やや焼成不良。やや焼け歪む。
20	169	表採・A トレンチ ・灰原	C-4-c	須恵器	杯	B	(16.6)	5.9	-	12/12	12/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。焼け歪む。
20	170	灰原	C-4-c	須恵器	杯	B	(18.7)	5.5	(10.3)	1/12	6/12	灰黄色 2.5Y6/2	淡黄色 2.5Y8/3	灰白色 2.5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面は摩擦のため調整不明。	爪形状圧痕あり。焼成不良。焼け歪む。
20	171	灰原	C-4-c	須恵器	杯	B	(18.4)	5.1	(10.2)	3/12	4/12	灰色5Y6/1	灰オリーブ 色5Y6/2	灰白色 5Y7/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。焼成不良。焼け歪む。
20	172	灰原	C-3-p C-4-b C-4-c C-4-d	須恵器	杯	B	(15.8)	5.9	(10.8)	3/12	4/12	灰色 10Y5/1	灰色 10Y5/1	灰色 7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。焼成不良。焼け歪む。
20	173	灰原	C-4-d	須恵器	杯	B	-	-	(10.0)	-	2/12	灰色5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面は回転ナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。焼成不良。
20	174	灰原	C-3-o	須恵器	杯	B	(16.4)	-	-	2/12	-	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	
20	175	灰原	C-3-n	須恵器	杯	B	(17.0)	-	-	1/12	-	灰白色 5Y7/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y7/1	口縁部内外面はナデ調整。	やや焼成不良。
20	176	灰原	C-4-d	須恵器	杯	B	(18.9)	-	-	1/2	-	灰色5Y6/1	灰色5Y7/2	灰白色 5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	
20	177	灰原	C-4-b	須恵器	杯	B	-	-	(8.6)	-	2/12	灰白色 5Y7/1	灰色N6/0	灰色N7/0	底部内面はナデ調整。底部外面はへらケズリ調整。	爪形状圧痕あり。やや焼成不良。
20	178	トレンチ 灰原	-	須恵器	杯	B	-	-	(10.0)	-	5/12	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面・底部内面は回転ナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。やや焼成不良。

()は復原値

Tab.22 遺物観察表15

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法 量 ()			口径の 残存率	底部 残存率	色 調			特徴	備考
						器形	口径	器高			底径	内面	外面		
21	179	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	A (12.4)	2.3	-	1/12	-	灰色5Y5/1	灰色N6/0	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	内面に自然釉付着。
21	180	灰原	B-4-d	須恵器	蓋	A	13.4	2.2	12/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼成不良。やや焼け至む。
21	181	灰原	B-4-d	須恵器	蓋	D (13.5)	2.3	-	1/12	-	灰色5Y5/1	黄灰色2.5Y5/1	灰色5Y5/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面・内面の一部に自然釉付着。やや焼け至む。
21	182	C トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	A (13.2)	2.3	-	3/12	-	黄灰色2.5Y5/1	黄灰色2.5Y5/1	灰褐色7.5YR5/2	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。
21	183	灰原	B-4-d	須恵器	蓋	A (12.4)	1.5	-	2/12	-	灰色N6/0	灰色7.5Y5/1	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面・内面の一部に自然釉付着。内面に2次焼成あり。
21	184	灰原	C-3-i	須恵器	蓋	A (12.3)	1.5	-	5/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	やや焼け至む。
21	185	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	B	13.0	2.2	10/12	-	灰色N6/0	灰色7.5Y5/1	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面・内面の一部に自然釉付着。やや焼け至む。
21	186	灰原	C-4-c	須恵器	蓋	C (13.8)	1.8	-	4/12	-	灰黄色2.5Y6/2	灰色N6/0	灰色7.5Y4/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	内面・外面の一部に自然釉付着。やや焼け至む。
21	187	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	D	13.0	2.0	6/12	-	灰色N6/0	灰色7.5Y5/1	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	内面に2次焼成あり。外面・内面の一部に自然釉付着。やや焼け至む。
21	188	灰原	C-4-e	須恵器	蓋	C (13.0)	1.9	-	3/12	-	灰色7.5Y5/1	灰色7.5Y5/1	灰色7.5Y5/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	内面に2次焼成あり。外面に自然釉付着。
21	189	A トレンチ 灰原	-	須恵器	蓋	C (12.0)	2.5	-	4/12	-	灰色7.5Y5/1	褐色7.5YR6/1	褐色7.5YR6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面・内面の一部に自然釉付着。
21	190	灰原	C-4-c	須恵器	蓋	C (13.0)	2.3	-	4/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	外面にうっすらと自然釉付着。

()は復原値

Tab.23 遺物観察表16

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考
					器形	口径	器高			底径	内面	外面		
21	191	灰原	C-4-e	須恵器	蓋	C (14.6)	2.0	-	灰色 7.5Y4/1	灰オリーブ 色5Y5/2	灰オリーブ 色5Y4/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。外面 に自然釉付着。	
21	192	灰原	C-3-m	須恵器	蓋	D (13.5)	1.8	-	にぶい黄澄 色10YR6/3	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y7/2	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼成不良。やや 焼け歪む。	
21	193	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	蓋	C (13.4)	1.8	-	灰色 7.5Y5/1	灰色5Y5/1	褐灰色 7.5YR6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	外面・内面の一部に 自然釉付着。	
21	194	灰原	C-3-o	須恵器	蓋	A 12.1	2.4	-	灰色N6/0	灰色 7.5Y5/1	灰色N6/0	天井部外面はへら切り後、回転へら ケズリ調整。口縁部内外面は回転ナ デ調整。天井部内面はナデ調整。	焼成不良。	
21	195	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	蓋	-	-	-	灰白色 2.5Y8/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y8/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼成不良。	
21	196	灰原	C-3-n	須恵器	蓋	A (12.0)	-	-	灰色N4/0	灰色 7.5YR5/1	灰褐色 10YR4/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。外面 に自然釉付着。	
21	197	灰原	C-3-m	須恵器	蓋	A (13.0)	-	-	灰色5Y8/1	灰色5Y8/1	灰白色 5Y8/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	焼成不良。	
21	198	灰原	C-4-c	須恵器	蓋	A (13.6)	-	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰オリーブ 色5Y6/2	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。		
21	199	灰原	C-3-o	須恵器	蓋	B (12.4)	-	-	黄灰色 2.5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内外面に自然釉付着。	
21	200	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	蓋	B (15.0)	-	-	灰色 7.5Y5/1	灰色5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。外面 に自然釉付着。	
21	201	Aトレン チ・灰原	-	須恵器	蓋	C (13.2)	-	-	灰色 7.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	褐灰色 10YR6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	外面に自然釉付着。	
21	202	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	蓋	C (13.8)	-	-	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	灰黄褐色 10YR6/2	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。	
21	203	灰原	C-3-o	須恵器	蓋	B (14.6)	-	-	暗灰色 N3/0	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	やや焼け歪む。外面 に自然釉付着。	
21	204	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	C (14.0)	-	-	灰色5Y5/1	灰オリーブ 色5Y6/2	灰黄褐色 10YR6/2	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。 口縁部内外面は回転ナデ調整。天井 部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。	

()は復原値

Tab.24 遺物観察表17

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()		口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考	
					器形	器高			口径	底径	内面			外面
21	205	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	C (14.0)	-	4/12	-	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色6Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	内外面に自然釉付着。
21	206	灰原	C-3-k	須恵器	蓋	(13.4)	-	2/12	-	灰色N5/0	灰色N5/0	灰色N5/0	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
21	207	灰原	C-4-d	須恵器	蓋	C (15.0)	-	2/12	-	灰色N4/0	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内面に2次焼成あり。外面に自然釉付着。
21	208	灰原	C-4-c	須恵器	蓋	D (14.6)	-	2/12	-	灰色N6/0	灰色N6/0	灰色7.5Y6/1	天井部外面はへら切り後、ナデ調整。口縁部内外面は回転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
22	209	灰原	B-4-d	須恵器	杯	B (11.8)	4.3 (7.4)	6/12	8/12	灰色10Y6/1	灰色N4/0	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。焼け歪む。
22	210	灰原	B-4-d C-3-p C-4-d	須恵器	杯	B (11.9)	4.0 (8.2)	7/12	11/12	灰色N5/0	灰褐色7.5YR6/2	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。
22	211	灰原	C-4-c C-4-d	須恵器	杯	B	12.4 4.2 7.9	5/12	12/12	灰色N4/0	灰褐色7.5YR5/2	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。やや焼け歪む。
22	212	灰原	C-4-c	須恵器	杯	B (11.4)	4.4 (7.4)	6/12	8/12	灰色N5/0	灰色5Y6/1	にぎり黄褐色7.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。やや焼け歪む。外面に2次焼成あり。
22	213	灰原	C-3-o C-4-c	須恵器	杯	B (12.4)	4.5 (7.6)	3/12	6/12	灰色7.5Y5/1	灰色7.5Y5/1	灰色N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。
22	214	灰原	C-3-m C-3-n	須恵器	杯	B (12.3)	4.1 (7.8)	4/12	10/12	灰色N6/0	灰色N5/0	灰色N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。焼け歪む。
22	215	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	B (13.4)	4.3 (9.6)	1/12	1/12	灰色7.5Y6/1	灰色7.5Y6/1	灰色7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。
22	216	灰原	C-4-d	須恵器	杯	B (11.0)	4.6 (7.4)	6/12	5/12	灰色N6/0	灰色N4/0	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。やや焼け歪む。

()は復原値

Tab.25 遺物観察表18

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法量()			口径の残存率	底部の残存率	色調			特徴	備考
						器形	口径	器高			底径	内面	外面		
22	217	灰原	C-3-n C-3-o	須恵器	杯	B	-	(7.9)	-	7/12	灰色N4/0	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。やや焼け至む。
22	218	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	B	-	(7.4)	-	2/12	灰色N5/0	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。やや焼け至む。
22	219	C トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	B	-	(8.1)	-	5/12	灰色N4/0	灰色N5/0	褐色 7.5YR4/1	底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。
22	220	灰原	C-4-d	須恵器	杯	B	-	-	-	-	灰色N6/0	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。
22	221	灰原	C-3-i C-3-n C-4-c	須恵器	杯	B	-	(7.8)	-	7/12	灰色 10Y5/1	灰色5Y5/1	灰褐色 7.5YR5/2	底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。
22	222	灰原	C-4-c	須恵器	杯	B	-	(9.2)	-	3/12	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。やや焼成不良。
22	223	灰原	B-4-h	須恵器	杯	B	-	(8.4)	-	1/12	灰色N7/0	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y8/1	底部内面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。
23	224	灰原	B-4-a	須恵器	杯	B	-	(8.9)	-	2/12	灰色 10Y6/2	灰色N5/0	灰色N5/0	底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	爪形状圧痕あり。
23	225	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	B	-	(9.2)	-	1/12	灰色 10Y6/1	灰色N5/0	灰色 10Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	爪形状圧痕あり。外面に自然釉付着。
23	226	灰原	C-4-d	須恵器	杯	B	(14.3)	4.1	-	1/12	灰色N5/0	灰色 7.5Y6/1	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	外面に自然釉付着。焼け至む。
23	227	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	B	-	(6.7)	-	5/12	灰色N5/0	灰色N6/0	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり？
23	228	灰原	B-4-a	須恵器	杯	B	(15.7)	2.9	(8.0)	2/12	灰色5Y6/1	灰色N5/0	灰白色 N7/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	外面に自然釉付着。焼け至む。
23	229	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	B	(14.2)	3.3	(7.0)	4/12	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y6/1	灰色 10Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	外面に自然釉付着。やや焼け至む。
23	230	灰原	C-4-d	須恵器	杯	B	-	(6.6)	-	2/12	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	灰色5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内面に自然釉付着。
24	231	灰原	C-3-m	須恵器	杯	Aa	(12.0)	3.8	(9.8)	4/12	灰色 7.5Y6/1	灰色N6/0	灰白色 2.5Y8/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火礫痕跡あり。やや焼成不良。焼け至む。
24	232	灰原	C-4-a	須恵器	杯	Aa	(12.7)	4.2	(8.6)	4/12	灰黄色 2.5Y7/2	灰オリーブ 色5Y6/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火礫痕跡あり。やや焼成不良。

()は復原値

Tab.26 遺物観察表19

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	器形	法量()			色調			特徴	備考			
						器形	口径	器高	底径	口径の残存率	底部の残存率			内面	外面	断面
24	233	灰原	C・4・d	須恵器	杯	Aa	(12.6)	3.8	8.0	3/12	7/12	灰色 7.5Y5/1	灰色N5/0	灰色 7.5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に自然釉付着。やや焼け歪む。
24	234	^A トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	A	(12.6)	4.2	(9.5)	1/12	3/12	灰色 5Y8/1	灰色N5/0	灰白色 5Y8/1	口縁部内面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
24	235	灰原	C・3・h	須恵器	杯	A	(12.3)	3.9	(9.7)	1/12	2/12	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	焼成不良。
24	236	灰原	C・3・m	須恵器	杯	A	(12.6)	4.1	(9.6)	1/12	1/12	灰色 5Y7/2	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
24	237	灰原	B・4・h	須恵器	杯	Ab	(12.6)	3.8	(9.0)	1/12	1/12	灰色 5Y8/2	灰色 5Y7/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
24	238	^C トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	A	(12.1)	3.9	(9.7)	2/12	2/12	灰色 5Y6/1	灰色N5/0	灰白色 7.5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
24	239	灰原	C・4・b	須恵器	杯	Aa	(13.8)	4.1	(10.6)	3/12	6/12	灰色 5Y6/1	にぶい黄色 2.5Y6/4	灰黄色 2.5Y7/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内外面に火燂痕跡あり。焼成不良。やや焼け歪む。
24	240	灰原	C・4・d	須恵器	杯	Aa	(13.5)	3.6	(10.0)	1/12	1/12	灰色 5Y6/1	灰色N5/0	灰白色 7.5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はナデ調整。	やや焼成不良。
24	241	灰原	C・4・d	須恵器	杯	Ab	(13.3)	3.8	(10.0)	3/12	3/12	灰色 5Y7/2	灰色 5Y7/2	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
24	242	^C トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	Aa	(13.7)	4.1	(9.7)	1/12	5/12	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
24	243	灰原	C・3・n	須恵器	杯	A	(14.0)	3.5	(10.0)	1/12	2/12	灰色 5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部外面はナデ調整。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
24	244	灰原	C・3・m	須恵器	杯	Aa	(13.6)	4.0	(10.4)	1/12	2/12	灰色 7.5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火燂痕跡あり。焼成不良。
24	245	灰原	B・4・d	須恵器	杯	Aa	(13.6)	3.7	(11.4)	1/12	1/12	灰色 N6/0	灰色N6/0	にぶい黄褐色 10YR7/4	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火燂痕跡あり。外面に自然釉付着。

()は復原値

Tab.27 遺物観察表20

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考
					器形	口径	器高			底径	内面	外面		
24	246	C トレンチ ・灰原	-	須恵器	杯	Aa	(13.2)	3.6	(9.1)	灰色 7.5Y6/1	灰色N6/0	灰色N6/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼け歪む。
24	247	灰原	B-4-d	須恵器	杯	Aa	(13.8)	3.4	(10.0)	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火撃痕跡あり。焼成不良。やや焼け歪む。
24	248	灰原	C-4-b	須恵器	杯	Aa	(13.5)	3.4	(7.2)	灰色 7.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火撃痕跡あり。焼成不良。
24	249	灰原	C-3-o	須恵器	杯	Ab	(14.4)	3.7	(11.6)	灰白色 5Y7/1	灰色5Y5/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が明瞭に残る。	内面に火撃痕跡あり。焼成不良。
24	250	灰原	C-3-k	須恵器	杯	A	(14.3)	4.3	(9.5)	灰オリーブ 色5Y6/2	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
24	251	灰原	C-4-b	須恵器	杯	Aa	(16.7)	3.6	(11.2)	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。焼け歪む。
24	252	灰原	C-4-d	須恵器	杯	A	(17.4)	3.8	(11.8)	浅黄色 2.5Y7/3	灰色5Y6/1	淡黄色 5Y8/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	焼成不良。
24	253	灰原	C-4-c	須恵器	杯	Aa	(16.8)	3.6	(12.0)	灰黄色 2.5Y7/2	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	焼成不良。
24	254	灰原	C-3-1	須恵器	杯	Aa	(18.2)	3.3	(12.0)	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内面に火撃痕跡あり。焼成不良。焼け歪む。
25	255	C トレンチ ・灰原	-	須恵器	皿	a	(13.0)	2.4	(9.4)	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	
25	256	灰原	C-3-n	須恵器	皿	-	(13.6)	2.4	(9.8)	にぶい黄橙 色10YR7/2	にぶい黄橙 色10YR7/2	浅黄色 10YR7/3	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼成不良。
25	257	灰原	C-4-c	須恵器	皿	a	(14.0)	2.1	(11.0)	淡黄色 2.5Y8/3	浅黄色 2.5Y7/3	淡黄色 2.5Y8/3	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	焼成不良。

()は復原値

Tab.28 遺物観察表21

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考		
					器形	器形	器高			底径	口径	内面			外面	断面
25	258	灰原	C・3・o	須恵器	皿	a	(14.2)	1.6	(11.4)	1/12	3/12	灰黄色 2.5Y6/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰白色 2.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	内外面に火燗痕跡あり。焼成不良。
25	259	灰原	C・4・b	須恵器	皿	-	(14.8)	2.0	(10.0)	1/12	2/12	浅黄色 2.5Y7/3	灰色N5/0	灰白色 7.5Y7/1	口縁部外面は回転ナデ調整。	外面に火燗痕跡あり。焼成不良。
25	260	灰原	C・4・d	須恵器	皿	a	(15.0)	1.9	(11.8)	1/12	1/12	灰色 7.5Y6/1	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
25	261	灰原	C・3・n	須恵器	皿	a	(14.6)	2.5	(11.2)	1/12	1/12	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄色 2.5Y6/3	淡黄色 2.5Y8/4	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
25	262	灰原	C・4・b	須恵器	皿	-	(14.7)	2.5	(10.1)	1/12	1/12	浅黄色 2.5Y7/3	黄灰色 2.5Y6/1	浅黄色 2.5Y8/3	口縁部内面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
25	263	灰原	C・4・c C・4・d	須恵器	皿	-	(16.0)	2.6	(12.0)	1/12	3/12	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄色 2.5Y6/3	淡黄色 2.5Y8/4	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	外面に火燗痕跡あり。焼成不良。
25	264	灰原	C・4・c	須恵器	皿	-	(14.8)	2.7	(11.0)	1/12	1/12	淡黄色 2.5Y8/4	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
25	265	灰原	C・4・d	須恵器	皿	a	(15.8)	2.5	(12.6)	1/12	4/12	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
25	266	灰原	C・4・b	須恵器	皿	-	(16.2)	2.4	(13.6)	1/12	1/12	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	焼成不良。
25	267	灰原	C・4・c	須恵器	皿	-	(16.8)	2.6	(13.2)	2/12	2/12	灰色N4/0	灰色 7.5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
25	268	灰原	C・4・c	須恵器	皿	-	(17.2)	2.1	(14.2)	1/12	1/12	灰色N4/0	灰色N4/0	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
25	269	灰原	C・3・m	須恵器	皿	b	(17.8)	2.4	(15.0)	1/12	2/12	灰白色 2.5Y8/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が残る。	内面に火燗痕跡あり。焼成不良。
25	270	灰原	C・4・a	須恵器	皿	-	(17.0)	2.0	(14.0)	1/12	1/12	灰色N5/0	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	口縁部内面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。	焼成不良。
25	271	A トレンチ ・灰原	-	須恵器	皿	-	(16.8)	2.8	(13.8)	3/12	4/12	灰オリーブ 色5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。へら切り痕跡が残る。	焼成不良。

()は復原値

Tab.29 遺物観察表22

Fig.No.	図版No.	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考		
					器形	口径	器高			底径	内面	外面			断面	
25	272	灰原	C-4-c	須恵器	皿	a	(18.2)	2.7	(13.0)	2/12	2/12	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	浅黄色 2.5Y7/3	口縁部内面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。底部外面の一部へらケズリ調整？	焼成不良。
25	273	灰原	C-3-o	須恵器	皿	-	(18.4)	1.8	(15.0)	1/12	2/12	浅黄色 2.5Y7/4	灰色N4/0	浅黄色 2.5Y7/4	摩擦のため調整不明。	焼成不良。
25	274	灰原	D-3-m	須恵器	皿	a	(18.9)	1.3	(13.5)	2/12	1/12	灰色5Y5/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y6/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼け歪む。
25	275	灰原	C-3-n	須恵器	皿	-	(14.2)	2.7	10.6	12/12	12/12	灰黄色 2.5Y6/2	灰色5Y6/1	灰白色 5Y8/1	口縁部内面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
25	276	灰原	C-4-c	須恵器	皿	-	(19.8)	2.7	(17.0)	1/12	1/12	灰色N4/0	灰色N4/0	灰白色 7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	焼成不良。
25	277	灰原	C-3-o	須恵器	皿	-	-	-	-	-	-	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄色 2.5Y6/3	浅黄色 2.5Y7/3	口縁部内面に1条の沈線。口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
25	278	灰原	C-4-e	須恵器	皿	-	-	-	-	-	-	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 7.5Y6/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部内面はナデ調整。底部外面はへら切り後、ナデ調整。	やや焼成不良。
26	279	灰原	B-4-a	須恵器	杯	-	(14.0)	-	-	2/12	2/12	灰色 7.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	口縁部内外面は回転ナデ調整。	やや焼成不良。
26	280	灰原	C-4-b	須恵器	杯	-	(14.0)	-	-	2/12	2/12	灰色N5/0	灰色N5/0	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	やや焼成不良。
26	281	灰原	C-3-n	須恵器	杯	-	(8.4)	-	-	4/12	4/12	灰色N5/0	灰褐色 5YR5/2	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	外面に自然釉付着。
26	282	灰原	C-4-b	須恵器	杯	-	(16.2)	-	-	2/12	2/12	黄灰色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
26	283	灰原	C-4-d	須恵器	杯	-	(16.0)	-	-	1/12	1/12	灰色N5/0	灰オリーブ 色5Y6/2	灰色 5Y5/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内外面に自然釉付着。
26	284	灰原	C-3-p	須恵器	壺	-	(6.8)	-	-	-	-	灰色N5/0	灰褐色 7.5YR5/2	灰色N5/0	口縁部内外面は回転ナデ調整。	内外面に自然釉付着。
26	285	灰原	C-3-o C-3-p C-4-b C-4-c C-4-o	須恵器	壺	-	(12.2)	16.8	(10.3)	-	-	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	灰黄褐色 10YR5/2	口縁部～体部内外面は回転ナデ調整。底部内外面はナデ調整。	外面に自然釉付着。 焼け歪む。2次焼成を要する。
26	286	灰原	C-4-d	須恵器	高杯	-	-	-	13.4	-	-	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰色5Y6/1	灰色5Y7/1	内外面は回転ナデ調整。	焼成不良。
26	287	灰原	C-4-d	須恵器	須恵器	-	-	-	-	-	-	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4		
26	288	灰原	C-4-d	須恵器	須恵器	-	-	-	-	-	-	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3		
26	289	攪乱	-	須恵器	蓋	-	-	-	-	-	-	灰色5Y5/1	灰色N5/0	灰色 5Y5/1	天井部内外面はナデ調整。	外面に自然釉付着。 ()は復原値

Tab.30 遺物観察表23

Fig.No	図版No	出土地点	地区	器種	法量()			口径の 残存率	底部 残存率	色調			特徴	備考
					器形	器形	器高			口径	底径	内面		
27	290	攪乱	-	須恵器	蓋	C	(13.8)	-	-	灰オリーブ 色5Y6/2	灰オリーブ 色5Y6/2	灰オリーブ 色5Y6/2	天井部ナデ調整。口縁部内外面は回 転ナデ調整。天井部内面はナデ調整。	
27	291	攪乱	-	須恵器	皿	a	(13.0)	2.5	(10.6)	灰色 7.5Y5/1	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄橙 色10YR7/4	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はヘラ切 り後、ナデ調整。	やや焼成不良。
27	292	攪乱	-	須恵器	皿	b	(18.0)	2.0	(14.6)	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。底部外面はヘラ切 り後、ナデ調整。ヘラ切り痕跡が残る。	やや焼成不良。
27	293	攪乱	-	須恵器	皿	-	(18.0)	2.4	(14.2)	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y8/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。底部 内面はナデ調整。	やや焼成不良。
27	294	攪乱	-	須恵器	杯	B	-	-	(9.6)	灰色5Y6/1	灰色5Y6/1	灰色N6/0	底部内面はナデ調整。底部外面はヘ ラ切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。や や焼成不良。
27	295	攪乱	-	須恵器	杯	B	-	-	(7.4)	灰色N6/0	灰色5Y5/1	灰色N6/0	底部内面はナデ調整。底部外面はヘ ラ切り後、ナデ調整。	爪形状圧痕あり。
27	296	攪乱	-	須恵器	杯	B	-	-	(10.6)	にぶい橙 色7.5YR7/4	灰色N4/0	にぶい橙 色7.5YR7/4	摩耗のため調整不明。	爪形状圧痕あり。
27	297	攪乱	-	須恵器	杯	B	-	-	(8.7)	灰黄色 2.5Y7/2	灰色5Y6/1	灰白色 5Y7/1	口縁部内外面は回転ナデ調整。	やや焼成不良。

()は復原値

Tab.31 遺物観察表24

Fig.No.	図版No.	地区	遺構・層序	器種	法量()			色調			特徴	胎土	備考
					器形	口径	器高	底径	内面	外面			
30	298		SK1	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	口唇部は面をなす。摩耗が激しく調整不明。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
30	299		SK1・層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR7/4	明黄褐色10YR6/6	明黄褐色10YR6/6	摩耗が激しく調整不明。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
32	300	C - 7	層	縄文土器	深鉢	(28.6)	-	灰黄褐色10YR4/2	灰黄褐色10YR4/2	にぶい黄褐色10YR5/4	口縁部のやや下がった位置に刻目突帯を貼付する。内外面、捺痕調整。	直径2 大以下の砂粒を多く含む。	外面に煤付着。
32	301	-	層	縄文土器	深鉢	-	-	灰黄褐色10YR4/2	灰黄褐色10YR4/2	にぶい黄褐色2.5Y6/3	口縁部のやや下がった位置に横位の刻目突帯を頸部に縦位の刻目突帯を貼付する。内外面、捺痕調整。	直径2 大以下の砂粒を多く含む。	
32	302	D - 8	層	弥生土器	甗	(22.4)	-	にぶい褐色7.5YR7/4	にぶい褐色7.5YR6/3	浅黄色2.5Y7/3	口縁部は如意状に外反し、口唇部全面に鋭い刻目を施す。内外面はナテ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
32	303	C - 8	層	縄文土器	深鉢	-	-	褐色7.5YR4/3	褐色7.5YR4/3	暗褐色7.5YR3/4	頸部に縦位の刻目突帯を貼付する。内面、捺痕調整。	直径2 大以下の砂粒を多く含む。	外面に煤付着。
32	304	C - 7	層	縄文土器	深鉢	-	-	にぶい黄褐色10YR4/3	黒褐色7.5YR3/2	黒褐色7.5YR3/2	口縁部のやや下がった位置に刻目突帯を貼付する。内外面、捺痕調整。外面にへら状工具による沈線あり。	直径2 大以下の砂粒を多く含む。	外面に煤付着。
32	305	C - 7 C - 8	層	弥生土器	甗	(22.6)	-	赤褐色5YR4/6	赤褐色5YR4/6	灰オリーブ色5Y5/2	口縁部は如意状に外反し、口唇部全面に刻目を施す。内外面はハケ調整。	直径2 大以下の砂粒を多く含む。	外面に煤付着。
32	306	C - 7	層	弥生土器	甗	(18.4)	-	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい褐色7.5YR5/3	灰黄色2.5Y6/2	口縁部は如意状に外反し、口唇部全面に刻目を施す。内外面はナテ調整。	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
32	307	E - 8	層	弥生土器	甗	(20.0)	-	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい褐色7.5YR5/4	灰黄色2.5Y6/2	口縁部は如意状に外反し、口唇部全面に刻目を施す。内外面はナテ調整。	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
33	308	A - 12 C - 12 D - 14	層	弥生土器	壺	-	-	赤褐色5YR4/6	にぶい赤褐色5YR4/4	黒褐色5YR3/1	櫛描き波状文、直線文を施す。外面、ハケ調整。内面、ナテ調整。	直径4 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
33	309	B - 8	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	突帯を1条貼付する。外面に捺痕あり。内面、ナテ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
33	310	C - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい褐色5YR6/4	にぶい褐色5YR6/4	にぶい褐色5YR6/4	突帯を1条貼付する。外面に捺痕あり。内面、ナテ調整。	直径1 大以下の砂粒を含む。	
33	311	C - 8	層	弥生土器	壺	-	-	にぶい黄褐色10YR6/3	明赤褐色5YR5/6	浅黄色2.5Y7/3	外面、へら磨き調整。重弧文を施す。	直径4 大以下の砂粒を含む。	
33	312	E - 8	層	弥生土器	壺	-	-	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい褐色7.5YR5/4	浅黄色2.5Y7/3	外面、へら磨き調整。重弧文を施す。	直径4 大以下の砂粒を含む。	
33	313	D - 7	層	弥生土器	壺	-	-	にぶい褐色5YR6/4	にぶい褐色5YR6/4	浅黄色2.5Y7/3	外面、へら磨き調整。重弧文を施す。	直径4 大以下の砂粒を含む。	

()は復原値

Tab.32 遺物観察表25

Fig.No.	図版No.	地区	遺構・層序	器種	法 量 ()			色 調			特徴	胎土	備考
					器形	口径	器高	底径	内面	外面			
33	314	D - 8	層	弥生土器	壺	-	-	黄灰色 2.5Y6/1	にぶい黄橙 色10YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	外面、八ヶ調整後、へら描き沈線を施し、体部とは異なった粘土で扁平な刻目突帯を貼付する。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
33	315	C - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	浅黄色 2.5Y7/3	外面、八ヶ調整。内面に擦痕あり。5条1単位の櫛状原体により、文様を施す。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
33	316	C - 7	層	弥生土器	壺	-	-	灰色5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y7/2	外面、八ヶ調整後、へら描き沈線を施し、体部とは異なった粘土で扁平な刻目突帯を貼付する。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
33	317	C - 13	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	内外面、八ヶ調整。外面に列点文を施す。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
34	318	B - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	口唇部は面をなす。内外面、ナデ調整。	直径1 大以下の砂粒を含む。	
34	319	C - 14	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 2.5Y6/4	口唇部は丸くおさめる。内外面、ナデ調整。	直径1 大以下の砂粒を含む。 黒斑あり。	
34	320	-	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色 色10YR5/4	にぶい黄褐色 色10YR5/4	黒褐色 10YR3/1	口縁端部で大きくひろき、口唇部は丸くおさめる。	直径2 大以下の砂粒を多く含み、やや粗い。	
34	321	C - 14	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄橙 色10YR6/3	褐色 5YR6/6	にぶい黄橙 色10YR6/3	口唇部はやや丸味をもった面をなす。口縁部外面に幅8の粘土帯を貼付。内外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
34	322	B - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	口唇部は面をなす。口縁部外面に幅11の粘土帯を貼付。内外面、ナデ調整。	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
34	323	X - 8	層	弥生土器	-	-	-	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	にぶい黄橙 色10YR7/3	口唇部は面をなす。外面、ナデ調整。内面、八ヶ調整。	直径4 大以下の砂粒、雲母を含む。	
34	324	C - 5	層	弥生土器	甗	-	-	にぶい黄橙 色10YR6/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄褐色 2.5Y5/3	口縁部は如意状を呈する。	直径2 大以下の砂粒を多く含み、やや粗い。	
34	325	C - 7	層	弥生土器	甗	-	-	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄褐色 色10YR4/3	にぶい黄褐色 色10YR4/3	口縁部に2条、肩部に3条以上の横位の突帯を、頸部に縦位の突帯を貼付する。	直径3 大以下の砂粒を含む。	外面に煤付着。
34	326	C - 14	層	弥生土器	-	-	-	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	灰黄色 2.5Y7/2	口唇部は面をなす。外面、ナデ調整。内面、八ヶ調整。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
34	327	E - 9	層	弥生土器	甗	-	-	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい黄橙 色10YR6/3	口縁部は如意状を呈する。口唇部全面に刻目を施す。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
34	328	C - 13	層	弥生土器	-	-	-	にぶい橙褐色 7.5Y6/4	にぶい橙褐色 7.5Y6/4	にぶい橙褐色 7.5Y6/4	口唇部は面をなす。口縁部外面に幅6の粘土帯を貼付。外面、ナデ調整。内面、八ヶ調整。	直径1 大以下の砂粒を含む。	
34	329	E - 9	層	弥生土器	-	-	-	褐色 5YR6/6	にぶい橙褐色 5YR6/4	浅黄色 2.5Y7/3	口唇部は面をなす。口縁部外面に幅10の粘土帯を貼付。	直径3 大以下の砂粒を含む。	

()は復原値

Tab.33 遺物観察表26

Fig.No.	図版No.	地区	遺構・層序	器種	法 量 ()			色 調		特徴	胎土	備考	
					器形	口径	器高	底径	内面				外面
34	330	X - 8	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい橙褐色7.5YR6/4	灰黄色2.5Y7/2	口唇部は面をなす。口縁部外面に幅18の粘土帯を貼付。外面、ナデ調整。内面、八ヶ調整。	直径1 大以下の砂粒を含む。	
34	331	B - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR5/4	口唇部は面をなす。口縁部外面に幅6の粘土帯を貼付。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
34	332	C - 12	層	弥生土器	-	-	-	にぶい褐色7.5YR5/4	黄灰色2.5Y6/1	暗黄褐色2.5Y5/2	口縁部はややひらき、口唇部をまるくおさめる。外面に擦痕あり。内面、八ヶ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
34	333	X - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい赤褐色2.5YR4/4	にぶい赤褐色25YR4/4	にぶい黄褐色10YR5/4	口唇部は面をなす。内外面、八ヶ調整。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
34	334	A - 10	層	弥生土器	-	-	-	明赤褐色5YR5/6	赤褐色5YR4/6	にぶい黄褐色10YR5/4	口唇部は面をなす。内外面、八ヶ調整。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
34	335	C - 13	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR7/3	褐色5YR7/6	黄灰色2.5Y6/1	口唇部は面をなし、列点文を施す。口縁部外面に幅9の粘土帯を貼付。内外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒を含む。	外面に煤付着。
34	336	C - 13	層	弥生土器	-	-	-	褐色5YR6/6	にぶい橙褐色5YR6/4	灰白色5Y7/1	口縁部外面に幅9の粘土帯を貼付し、口唇部を尖らす。内外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
34	337	A - 11	層	弥生土器	-	-	-	にぶい橙褐色7.5YR6/4	にぶい黄褐色10YR5/3	灰黄色2.5Y6/2	口縁部外面に幅15の粘土帯を貼付し、口唇部を尖らす。外面、ナデ調整。内面、八ヶ調整。	直径4 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
34	338	C - 10	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	口縁部外面に幅9の粘土帯を貼付し、口唇部を尖らす。口唇部に刻目を施す。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
34	339	A - 11	層	弥生土器	-	-	-	明赤褐色5YR5/6	にぶい橙褐色7.5YR6/4	にぶい黄褐色10YR7/4	口縁部外面に幅15の粘土帯を貼付し、口唇部を尖らす。粘土帯外面に上下から列点文を施す。外面、擦痕あり。内面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
34	340	D - 7	層	弥生土器	-	-	-	にぶい赤褐色5YR5/4	暗赤褐色5YR4/3	暗赤褐色5YR4/3	口縁部からやや下がった位置に突帯を貼付する。外面、擦痕あり。内面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
34	341	X - 8	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄褐色10YR7/6	にぶい黄褐色10YR7/6	淡黄色2.5Y7/4	口縁部外面に幅20の粘土帯を貼付し、口唇部を強くヨコナデする。口唇部に列点文を施す。内外面、ナデ調整。	直径6 大以下の砂粒を含む。	
34	342	A - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい橙褐色7.5YR6/4	黄灰色2.5Y4/1	にぶい黄褐色2.5Y6/3	口唇部は面をなす。内外面、八ヶ調整。	直径5 大以下の砂粒を含む。	
34	343	A - 9	層	弥生土器	-	-	-	にぶい赤褐色5YR5/4	にぶい赤褐色5YR5/4	灰褐色7.5YR6/2	口唇部は面をなす。内外面、八ヶ調整。	直径5 大以下の砂粒、雲母を含む。	

()は復原値

Tab.34 遺物観察表27

Fig.No.	図版No.	地区	遺構・層序	器種	法 量 ()			色 調			特徴	胎土	備考
					器形	口径	器高	底径	内面	外面			
34	344	B - 9	層	弥生土器	壺	(15.7)	-	-	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	浅黄褐色2.5Y7/3	直径3 大以下の砂粒を含む。	
34	345	A - 10	層	弥生土器	-	(12.0)	-	-	にぶい黄褐色10YR7/4	褐色5YR6/6	灰黄褐色2.5Y7/2	直径5 大以下の砂粒を含む。	
34	346	B - 10	層	弥生土器	-	(13.8)	-	-	にぶい黄褐色7.5YR6/4	にぶい黄褐色7.5YR6/4	黄褐色2.5Y5/3	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
34	347	B - 11	層	弥生土器	-	(17.4)	-	-	にぶい黄褐色10YR6/4	褐色5YR6/6	灰黄褐色2.5Y6/2	直径5 大以下の砂粒を含む。	
34	348	C - 13 C - 14	層	弥生土器	甗	(14.4)	-	-	褐色7.5YR6/6	にぶい黄褐色10YR6/4	灰色7.5Y5/1	直径3 大以下の砂粒を含む。 外面に煤付着。	
34	349	B - 12	層	弥生土器	-	(16.8)	-	-	にぶい黄褐色7.5YR6/4	褐色5YR6/6	にぶい黄褐色10YR6/4	直径3 大以下の砂粒を含む。	
34	350	B - 9	層	弥生土器	甗	(17.8)	-	-	褐色7.5YR6/6	明褐色7.5YR5/6	灰黄褐色2.5Y7/2	直径3 大以下の砂粒を含む。 外面に煤付着。	
35	351	D - 7	層	縄文土器?	底部	-	-	(8.2)	-	褐色7.5YR6/6	褐色7.5YR6/6	直径3 大以下の砂粒を含む。	
35	352	C - 9	層	縄文土器?	底部	-	-	(8.2)	明赤色5Y5/6	明赤色5Y5/6	灰色5Y4/1	直径2 大以下の砂粒を含む。 内面におこげ付着。	
35	353	-	層	弥生土器	底部	-	-	(6.4)	褐色7.5YR6/6	褐色7.5YR4/3	褐色7.5YR4/3	直径2 大以下の砂粒を含む。	
35	354	C - 10	層	縄文土器	底部	-	-	(6.0)	灰黄褐色10YR4/2	にぶい黄褐色7.5YR5/4	にぶい黄褐色7.5YR5/4	直径2 大以下の砂粒を含む。 内面におこげ付着。	
35	355	C - 9	層	縄文土器	底部	-	-	(9.0)	灰黄褐色10YR4/2	赤褐色5YR4/6	赤褐色5YR4/6	直径2 大以下の砂粒を含む。 内面におこげ付着。	
35	356	C - 7	層	弥生土器	底部	-	-	(10.0)	-	にぶい黄褐色7.5YR6/3	灰黄褐色2.5Y6/2	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
35	357	C - 3-m	灰原	弥生土器	底部	-	-	(9.6)	にぶい黄褐色2.5Y6/3	暗灰黄褐色2.5Y5/2	黄灰色2.5Y5/1	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
35	358	C - 7	層	弥生土器	底部	-	-	(11.4)	灰黄褐色2.5Y6/2	にぶい黄褐色10YR7/4	褐色2.5YR6/6	直径3 大以下の砂粒を含む。	
35	359	D - 8	層	弥生土器	底部	-	-	(8.0)	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色7.5YR5/4	にぶい黄褐色10YR6/4	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
35	360	C トレンチ	攪乱層	弥生土器	底部	-	-	(10.0)	明赤褐色5YR5/6	明赤褐色5YR5/6	明赤褐色5YR5/6	直径1 大以下の砂粒、雲母を含む。	

()は復原値

Tab.35 遺物観察表28

Fig.No.	図版No.	地区	遺構/層序	器種	法量()			色調			特徴	胎土	備考
					器形	口径	器高	底径	内面	外面			
35	361	B - 12	層	弥生土器	甗	-	-	(6.2)	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
35	362	C - 7	層	弥生土器	底部	-	-	6.9	浅黄色2.5Y7/3	橙色5YR6/6	浅黄色2.5Y7/3	直径3 大以下の砂粒を含む。	
35	363	C - 7	層	弥生土器	底部	-	-	(10.0)	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	直径3 大以下の砂粒を含む。	
35	364	B - 10	層	弥生土器	甗	-	-	(6.4)	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
35	365	C - 7 C - 8	層	弥生土器	底部	-	-	8.6	黄灰色2.5Y4/1	にぶい黄褐色10YR5/4	黄灰色2.5Y4/1	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
35	366	E - 9 E - 10	層	弥生土器	底部	-	-	8.1	橙色7.5YR6/6	橙色7.5YR6/6	にぶい黄褐色10YR7/3	直径5 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	367	B - 9 C - 9	層	弥生土器	底部	-	-	4.5	褐色7.5YR6/6	にぶい褐色7.5YR6/4	にぶい黄色2.5Y6/3	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	368	C - 13	層	弥生土器	底部	-	-	4.8	にぶい赤褐色5YR5/4	明赤褐色5YR5/6	にぶい赤褐色5YR5/4	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	被熱変色する。
36	369	A - 9	層	弥生土器	底部	-	-	4.6	にぶい赤褐色5Y5/3	赤褐色5Y4/6	にぶい黄褐色10YR5/4	直径5 大以下の砂粒を含む。	外面に煤付着。
36	370	A - 11	層	弥生土器	底部	-	-	3.6	にぶい黄褐色10YR5/3	暗黄褐色2.5Y5/2	灰黄色2.5Y6/2	直径1 大以下の砂粒を含む。	
36	371	A - 10	層	弥生土器	底部	-	-	3.8	にぶい赤褐色2.5YR3/4	暗赤褐色2.5YR3/4	灰褐色5Y4/2	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。
36	372	B - 12	層	弥生土器	底部	-	-	(5.0)	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色7.5YR5/3	灰黄色2.5Y6/2	直径1 大以下の砂粒を含む。	内面におこげ付着。
36	373	C - 8	層	弥生土器	底部	-	-	(4.0)	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい黄褐色10YR5/3	にぶい黄褐色10YR5/3	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	374	C - 14	層	弥生土器	底部	-	-	4.1	にぶい褐色7.5YR6/4	にぶい褐色7.5YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	375	B - 9	層	弥生土器	底部	-	-	(5.0)	にぶい黄褐色10YR5/4	にぶい黄褐色10YR5/4	赤褐色5YR4/6	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	376	-	層	弥生土器	底部	-	-	5.2	褐色5YR6/6	にぶい黄褐色10YR6/4	灰黄色2.5Y6/2	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	377	B - 9	層	弥生土器	底部	-	-	(5.6)	明赤褐色5YR5/6	明赤褐色7.5YR5/4	暗灰黄色2.5Y5/2	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に黒斑あり。
36	378	D - 13	層	弥生土器	底部	-	-	5.8	明赤褐色7.5YR5/6	明褐色7.5YR5/6	褐色7.5YR4/3	直径4 大以下の砂粒を含む。	外面に黒斑あり?。
36	379	B - 11	層	弥生土器	底部	-	-	(4.5)	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい褐色10YR5/3	にぶい黄褐色10YR6/4	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	380	-	層	弥生土器	底部	-	-	5.0	褐色7.5YR6/6	にぶい赤褐色5YR5/3	浅黄色2.5Y7/3	直径5 大以下の砂粒、雲母を含む。	

()は復原値

Tab.36 遺物観察表29

Fig.No.	図版No.	地区	遺構・層序	器種	法 量 ()			色 調			特徴	胎土	備考	
					器形	口径	器高	底径	内面	外面				断面
36	381	X - 7	層	弥生土器	底部	-	-	4.9	暗灰黄色 2.5Y5/2	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	底端部がやや突出する。磨耗が激しく調整不明。	直径1 大以下の砂粒を含む。	
36	382	C - 13	層	弥生土器	底部	-	-	5.2	暗灰黄色 2.5Y5/2	赤褐色 5YR4/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	底端部がやや突出する。内外面、ナデ調整。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	383	B - 13 C - 13	層	弥生土器	底部	-	-	(4.6)	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 色10YR5/4	浅黄色 2.5Y7/3	底端部がやや突出する。内外面、ナデ調整。底部外面中央が若干窪む。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	384	-	攪乱層	弥生土器	底部	-	-	(4.9)	にぶい褐色 7.5YR6/4	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	底端部がやや突出する。外面、ハケ調整。内面、工具痕跡あり。	直径4 大以下の砂粒を含む。	
36	385	X - 7	層	弥生土器	底部	-	-	5.2	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	にぶい黄橙 色10YR7/4	外面、ハケ調整。	直径4 大以下の砂粒を含む。	内面におこげ付着。
36	386	C - 10	層	弥生土器	底部	-	-	5.0	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	浅黄色 2.5Y7/3	内面、ハケ調整。底面を平滑に仕上げる。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	387	D - 10	層	弥生土器	底部	-	-	5.3	灰色5Y5/1 2.5Y6/2	灰黄色 5Y5/1	灰色5Y5/1 2.5Y6/2	外面、ハケ調整。	直径1 大以下の砂粒を含む。	
36	388	E - 8	層	弥生土器	底部	-	-	5.1	にぶい黄橙 色10YR6/3	暗灰褐色 2.5Y5/2	にぶい黄橙 2.5Y6/3	底端部が突出する。外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒を含む。	外面に煤付着。
36	389	D - 11	層	弥生土器	底部	-	-	5.9	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄橙 色10YR6/3	底端部が突出する。内外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	390	D - 10	層	弥生土器	底部	-	-	5.1	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄橙 色10YR6/3	暗灰黄色 2.5Y5/2	底端部がやや突出する。外面、ハケ調整。底部外面を平滑に仕上げる。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	391	D - 9	層	弥生土器	底部	-	-	5.0	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	底端部が突出する。内外面、ナデ調整。	直径8 大以下の砂粒を含む。	
36	392	A - 10	層	弥生土器	底部	-	-	(5.0)	にぶい黄橙 色10YR6/3	にぶい黄橙 色10YR6/3	にぶい黄橙 色10YR6/3	底端部がやや突出する。外面、ハケ調整。底部外面を平滑に仕上げる。底部外面中央が若干窪む。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	393	B - 9	層	弥生土器	底部	-	-	5.2	にぶい黄橙 色10YR6/3	にぶい黄橙 色10YR6/3	にぶい黄橙 色10YR6/3	底端部がやや突出する。外面、ハケ調整。底部外面を平滑に仕上げる。底部外面中央が若干窪む。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	394	A - 9	層	弥生土器	底部	-	-	5.2	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 2.5Y6/3	底端部が突出する。内外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	395	B - 10	層	弥生土器	底部	-	-	5.6	にぶい黄褐色 色10YR5/4	にぶい黄褐色 色10YR5/3	にぶい黄褐色 色10YR6/4	底端部がやや突出する。底部外面を平滑に仕上げる。底部外面中央が若干窪む。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	396	E - 9	層	弥生土器	底部	-	-	5.6	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 色10YR6/4	にぶい黄褐色 色10YR6/4	内外面、磨耗が激しく調整不明。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	397	D - 10	層	弥生土器	底部	-	-	6.7	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR7/4	底端部がやや突出する。外面、ハケ調整。内面、ナデ調整。	直径5 大以下の砂粒を含む。	
36	398	B - 13	層	弥生土器	底部	-	-	5.0	にぶい褐色 5YR5/4	にぶい黄橙 色10YR6/3	灰黄色 2.5Y6/2	外面、ナデ調整。	直径4 大以下の砂粒、雲母を含む。	被熱変色する。
36	399	B - 10	層	弥生土器	底部	-	-	4.8	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	内外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒、雲母を含む。	外面に煤付着。

() は復原値

Tab.37 遺物観察表30

Fig.No.	図版No.	地区	遺構・層序	器種	法 量 ()			色 調			特徴	胎土	備考
					口径	器高	底径	内面	外面	断面			
36	400	B - 9	層	弥生土器	-	-	(5.2)	明赤褐色 5YR5/6	にぶい褐色 5YR5/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	底部外面を平滑に仕上げ中央部が若干窪む。外面、ナデ調整。内面に工具痕跡あり。	直径5 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	401	X - 8	層	弥生土器	-	-	6.6	オリーブ灰 色5Y3/1	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR7/3	内外面、磨耗が激しく調整不明。	直径4 大以下の砂粒を含む。	
36	402	X - 9	層	弥生土器	-	-	5.6	にぶい黄橙 色10YR7/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	底端部がやや突出する。内外面、ナデ調整。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	403	C - 9	層	弥生土器	-	-	5.0	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR7/3	内外面、磨耗が激しく調整不明。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	404	A - 8	層	弥生土器	-	-	5.4	にぶい黄橙 色10YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/3	外面、八ヶ調整。	直径4 大以下の砂粒を含む。	
36	405	D - 13	層	弥生土器	-	-	4.8	にぶい褐色 7.5Y5/4	にぶい黄褐 色10YR5/3	にぶい褐色 7.5Y5/4	底部外面を平滑に仕上げる。	直径1 大以下の砂粒を含む。	
36	406	A - 8	層	弥生土器	-	-	(4.4)	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐 色10YR5/3	にぶい黄褐 色10YR5/3	底部外面を平滑に仕上げる。内外面、八ヶ調整。	直径1 大以下の砂粒を含む。	外面に煤付着。
36	407	X - 8	層	弥生土器	-	-	6.1	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄色 2.5Y6/3	底部外面を平滑に仕上げる。外面、ナデ調整。	直径4 大以下の砂粒を含む。	
36	408	C - 15	層	弥生土器	-	-	4.5	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/3	灰黄色 2.5Y7/2	底部外面を平滑に仕上げる。内外面、八ヶ調整。	直径3 大以下の砂粒を含む。	
36	409	D - 8	層	弥生土器	-	-	5.0	褐色 7.5YR6/6	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	外面、ナデ調整。内面に工具痕跡あり。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	410	B - 8	層	弥生土器	-	-	(6.0)	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい黄橙 色10YR6/4	底部外面を平滑に仕上げる。外面、八ヶ調整。内面、ナデ調整。	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	411	X - 8	層	弥生土器	-	-	(5.2)	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	底部外面を平滑に仕上げる。外面、ナデ調整。内面、八ヶ調整。	直径5 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	412	A - 7 B - 7	層	弥生土器	-	-	6.0	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄橙 色10YR7/3	外面、八ヶ調整。内面、ナデ調整。	直径3 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	413	B - 9	層	弥生土器	-	-	(5.0)	にぶい黄橙 色10YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	7.5YR6/4	底部外面を平滑に仕上げ、中央部が若干窪む。内外面、ナデ調整。	直径4 大以下の砂粒を含む。	
36	414	C - 15	層	弥生土器	-	-	4.2	にぶい赤褐色 5YR4/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	内外面、磨耗が激しく調整不明。	直径12 大以下の砂粒を含む。	
36	415	B - 11 C - 11	層	弥生土器	-	-	4.8	にぶい褐色 7.5Y6/4	にぶい褐色 7.5Y6/4	にぶい黄橙 色10YR7/4	外面、ナデ調整。	直径2 大以下の砂粒を含む。	
36	416	C - 13	層	弥生土器	-	-	(4.2)	褐色 7.5YR6/6	にぶい黄褐 色10YR5/3	にぶい黄褐 色10YR5/3	外面、ナデ調整。内面に工具痕跡あり。	直径4 大以下の砂粒を含む。	外面に煤付着。
36	417	C - 7	層	弥生土器	-	-	(6.0)	にぶい褐色 7.5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	灰オリーブ 色5Y6/2	内外面、磨耗が激しく調整不明。	直径5 大以下の砂粒、雲母を含む。	
36	418	B - 8	層	弥生土器	-	-	(5.8)	灰黄褐色 10YR4/2	7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	内外面、磨耗が激しく調整不明。	直径4 大以下の砂粒を含む。	内面におこげ付着。
36	426	B - 8	層	弥生土器	-	-	-	にぶい黄橙 色10YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄橙 色10YR6/4	外面、粗い八ヶ調整・ナデ調整。内面、粗い八ヶ調整。	直径4 大以下の砂粒を含む。	外面に煤付着。

()は復原値

Tab.38 遺物観察表31

Fig.No.	図版No.	地区	層位	器種	法量(.)			石材	特徴	備考
					長さ	幅	厚さ			
37	419	-	層	スクレイパー	11.0	7.1	0.9	80.0	-	
37	420	B - 12	層	石包丁	17.6	9.5	1.6	294.7	刃部を磨く。	
37	421	C - 9	層	砥石	(6.6)	(6.1)	2.8	116.7	両面を砥石として利用。	
37	422	-	攪乱層	砥石	13.1	7.2	6.5	620.4	片面のみを砥石として利用。	
37	423	A - 9 A - 10	層	叩石	(7.6)	8.6	4.1	406.1	両面・側面に敲打痕跡あり。	
37	424	B - 8	層	叩石	10.9	10.6	4.5	808.0	両面・側面に敲打痕跡あり。	
37	425	C - 8	層	砥石	(11.5)	6.7	6.0	672.4	両側面を砥石として利用。	

()は復原値

写真图版



神ヶ谷窯跡灰原遺物出土状況



神ヶ谷窯跡灰原セクション

PL.2



神ヶ谷窯跡Dラインセクション



サンナミ遺跡9ラインセクション



サンナミ遺跡11ラインセクション

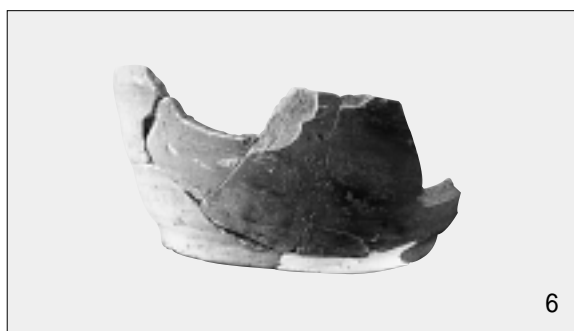


サンナミ遺跡SK 1 完掘状況

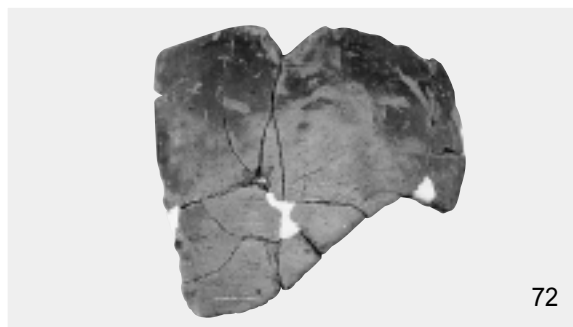
PL.4



試掘調査・サンナミ遺跡遺物出土状況



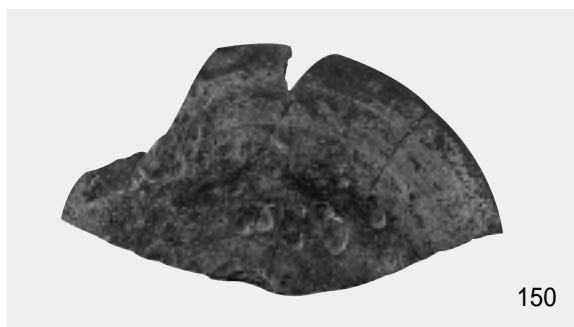




神ヶ谷窯跡出土遺物







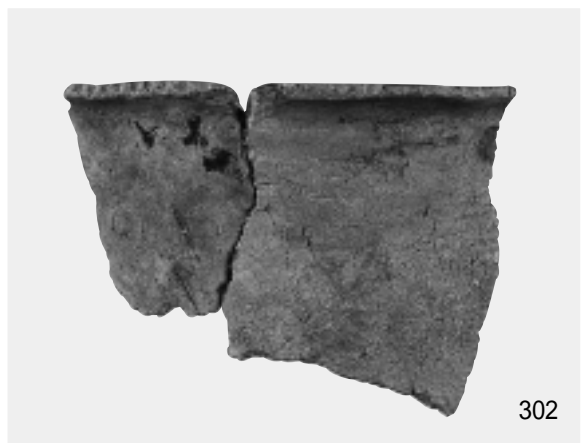
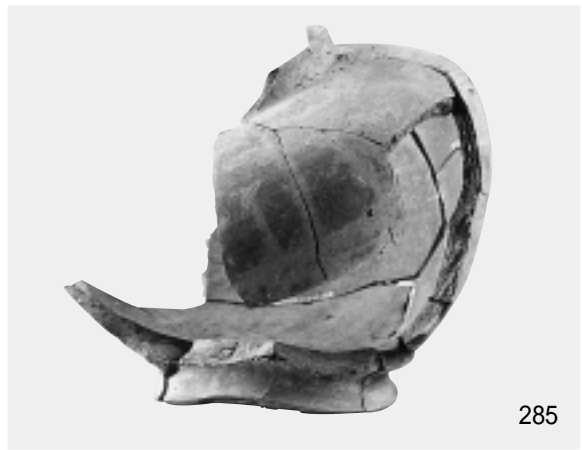


神ヶ谷窯跡出土遺物

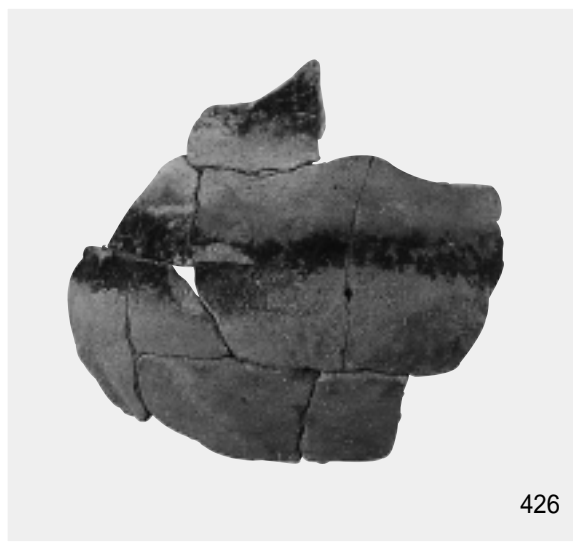


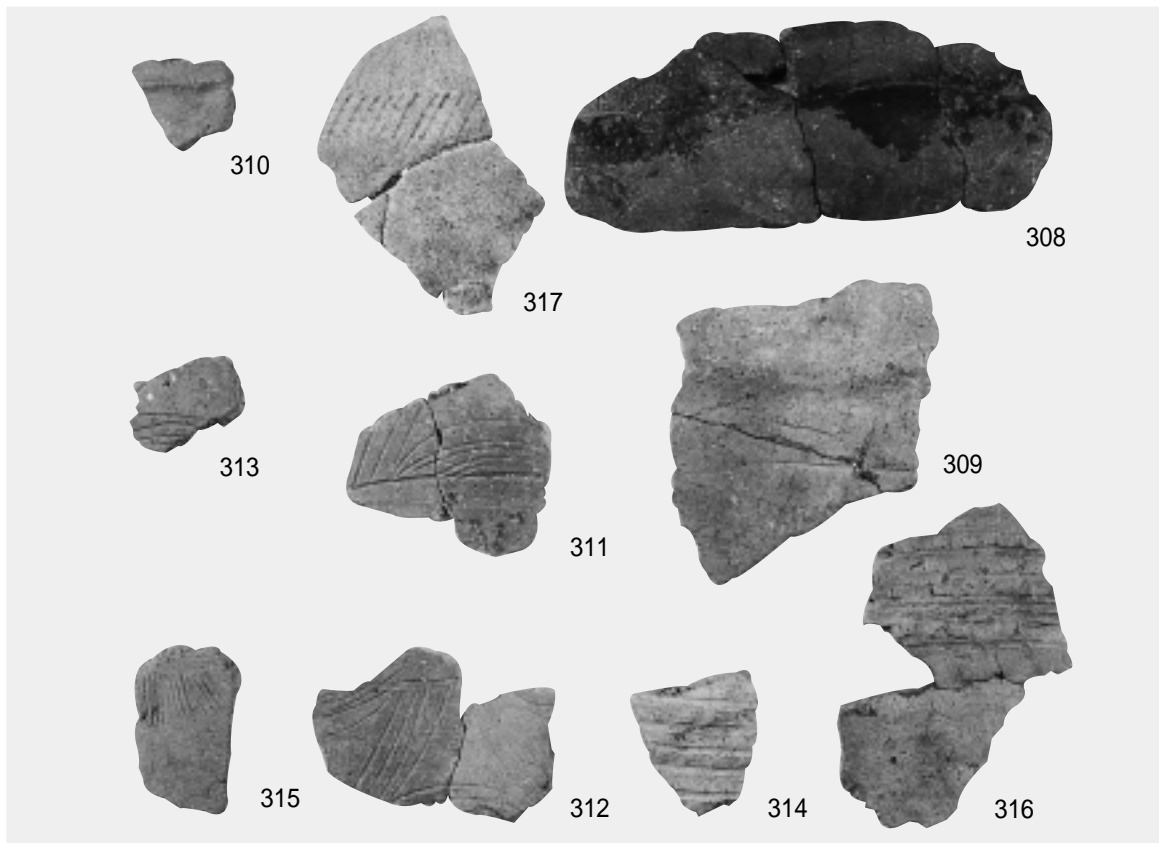
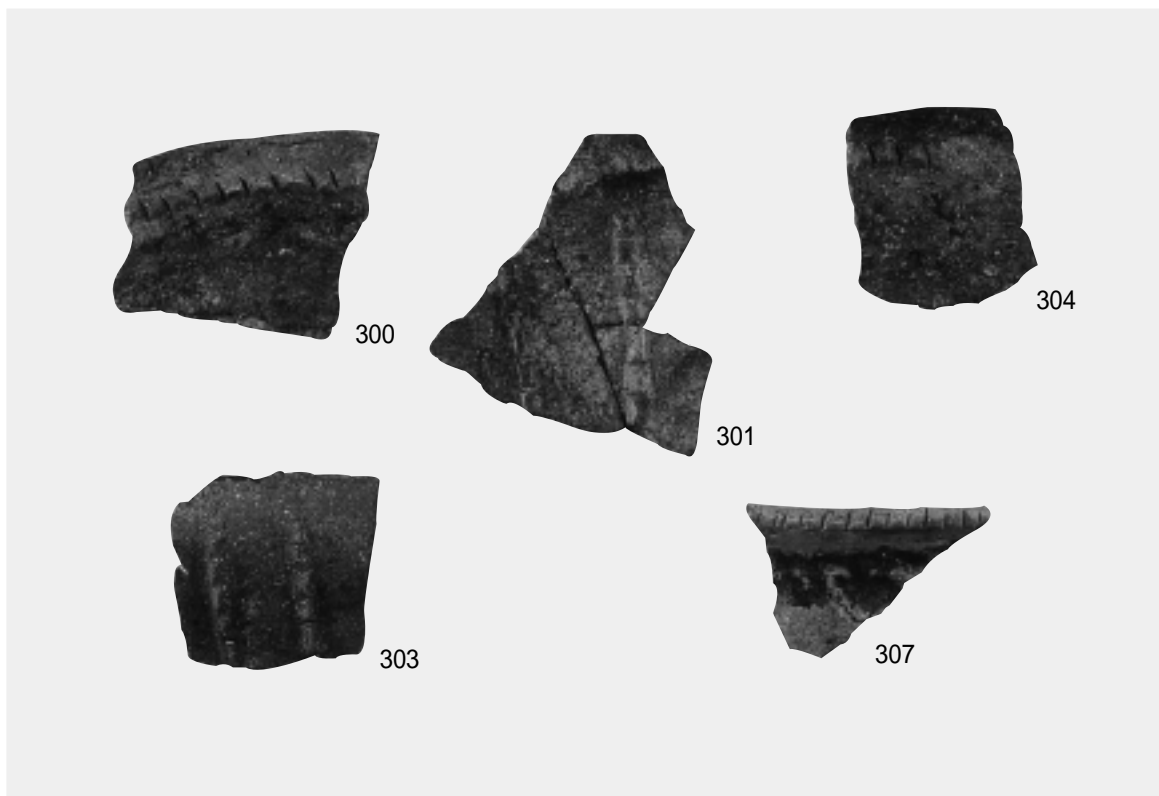


神ヶ谷窯跡出土遺物

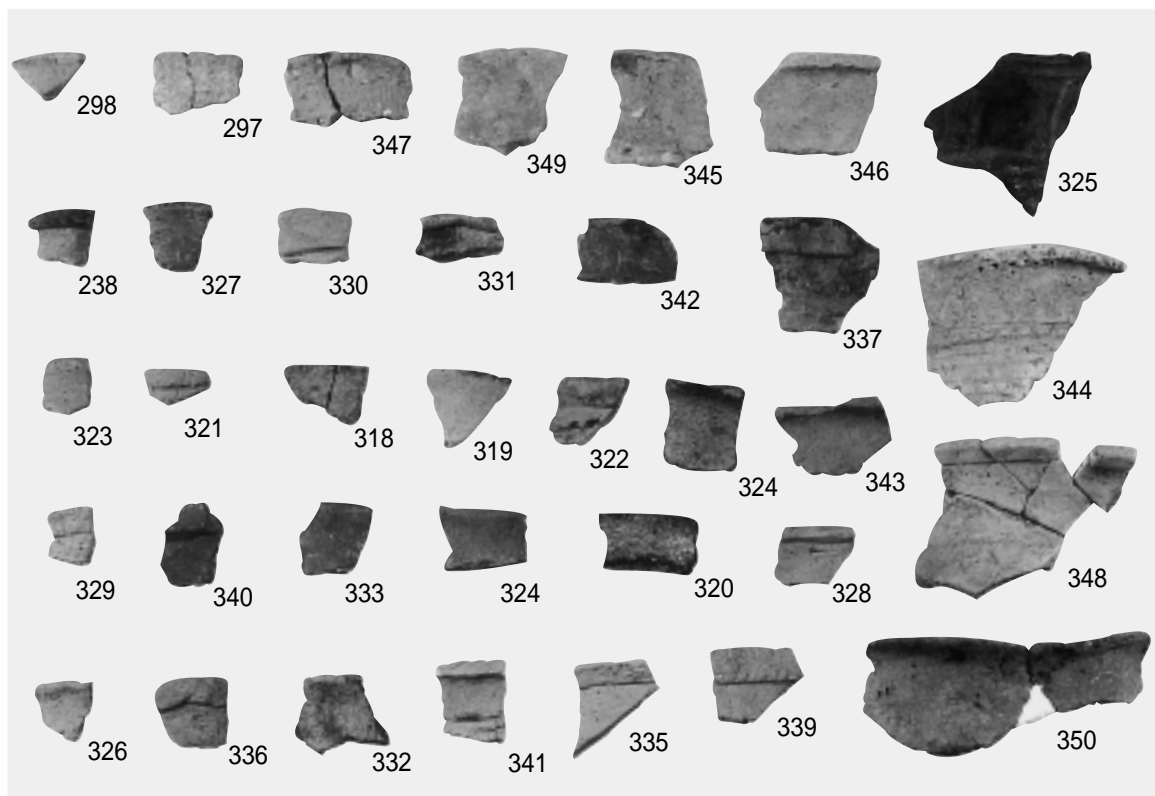


神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡出土遺物

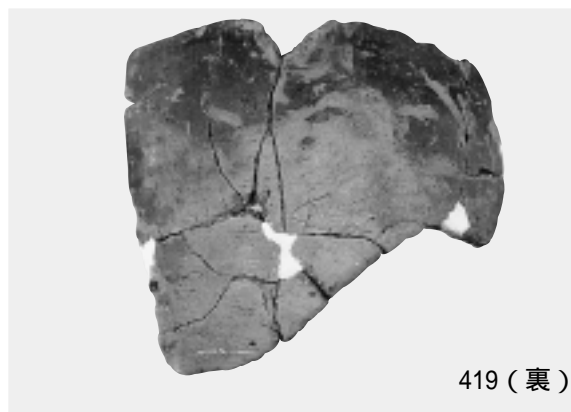




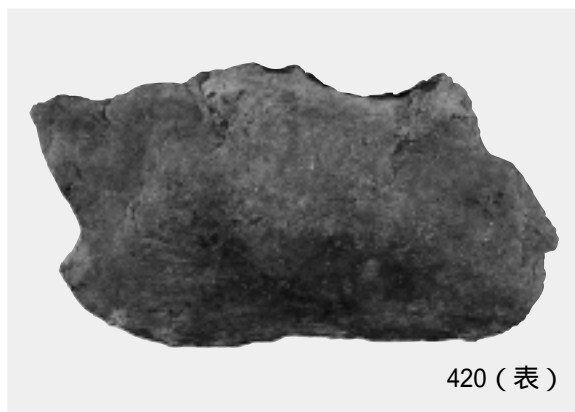
サンナミ遺跡出土遺物



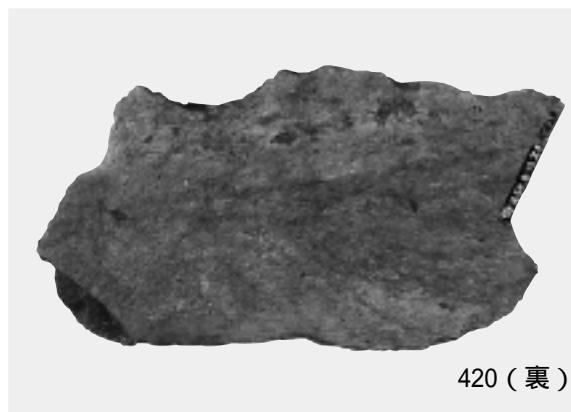
419 (表)



419 (裏)



420 (表)

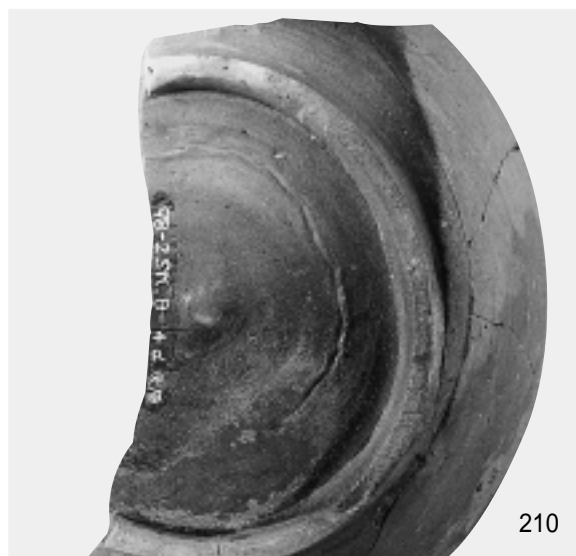
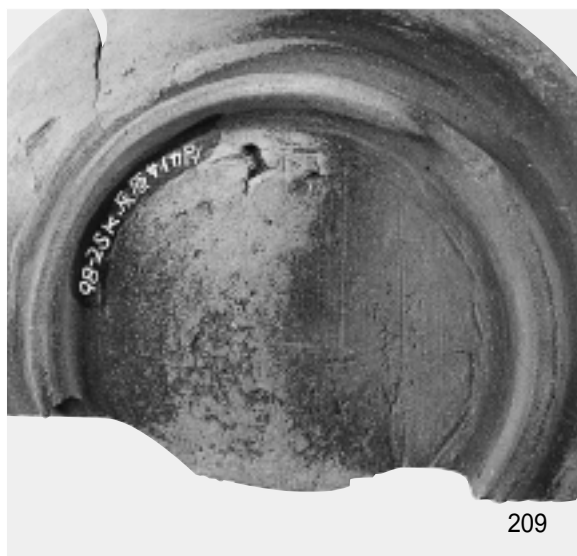


420 (裏)

サンナミ遺跡出土遺物



杯B外底面（爪形状压痕）



杯B外底面(爪形状压痕)



211



212



213



214



215



216

杯B外底面（爪形状压痕）



杯B外底面（爪形状压痕）

報告書抄録

ふりがな		かみがたにかまあと・さんなみいせき						
書名		神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡						
副書名		中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書						
巻次								
シリーズ名		高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書						
シリーズ番号		第54集						
編著者名		久家隆芳						
編集機関		(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター						
所在地		〒783-0006 高知県南国市篠原南泉1437-1 TEL.088-864-0671						
発行年月日		西暦 2000年11月15日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
神ヶ谷 窯跡	高知県宿 毛市平田	39208	080128	32° 57 16	132° 48 49	平成10年 4月20日 ～ 平成10年 8月14日	176	中村宿毛 道路高規 格道路建 設工事に 伴う
サンナミ 遺跡	高知県宿 毛市平田	39208	080125	32° 57 16	132° 48 49	平成10年 4月20日 ～ 平成10年 8月14日	624	中村宿毛 道路高規 格道路建 設工事に 伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
神ヶ谷窯跡	窯跡	奈良時代	窯跡・灰原	須恵器	半地下式の窖窯			
サンナミ遺跡	集落	弥生時代 ・ 奈良時代	土坑	弥生土器				

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第54集

kamigatani kamaato

sannamiiseki

神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡

- 中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書 -

2000年

編集 高知県文化財団 埋蔵文化財センター

発行 高知県南国市篠原南泉1437 - 1

Tel.088 - 864 - 0671

印刷 弘文印刷株式会社